

添 田 町

子ども・子育て支援事業計画策定のための
ニーズ調査

報 告 書

平成 31 年 3 月

添 田 町

目 次

(1)調査の目的	2
(2)調査対象	2
(3)調査方法	2
(4)配布及び回収数	2
(5)調査期間	2
(6)集計分析上の注意事項	2
1. 住まいの地域	6
(1)住まいの地域について	6
2. 家族の状況	6
(1)子どもの年齢及び学年	6
(2)子ども(きょうだい)の人数	7
(3)調査票の回答者	8
(4)回答者の配偶関係	8
(5)子どもの子育てを主にしている人	8
3. 子育ての環境について	9
(1)子育てに影響する環境	9
(2)子どもをみてもらえる親族・知人	10
(3)子どもをみてもらっている状況	11
(4)子育ての相談ができる人や場所の有無	12
(5)子育てについての相談先	13
4. 保護者の就労状況	14
(1)就労状況	14
(2)就労日数と就労時間	17
(3)家を出る時間と帰宅時間	19
(4)フルタイムへの転換希望	20
(5)就労希望	21
5. 定期的な教育・保育事業の利用	24
(1)平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無	24
(2)平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	25
(3)利用している平日の定期的な教育・保育事業の場所	28
(4)平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由	28

(5) 定期的に利用したい平日の教育・保育事業	30
(6) 利用したい平日の定期的な教育・保育事業の場所	31
(7) 幼稚園の利用意向	31
(8) 保育所の利用状況と意向	31
6. 幼児教育・保育無償化について	33
(1) 無償化の場合、定期的に利用したい事業	33
7. 地域の子育て支援事業の利用	34
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況	34
(2) 地域子育て支援拠点事業の利用意向	35
(3) 地域子育て支援事業の認知度・利用状況・利用意向	37
8. 土曜、日曜・祝日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用	40
(1) 土曜、日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向	40
(2) 不定期に教育・保育事業を利用したい理由	41
(3) 長期休暇中の教育・保育事業の利用意向(幼稚園利用者)	41
(4) 長期休暇中、不定期に教育・保育事業を利用したい理由	42
9. 病気になった時の対応	43
(1) 子どもが病気になった時の対応	43
(2) 病児・病後児保育施設の利用意向	45
(3) 病児・病後児保育施設を利用する場合の望ましい事業形態	46
(4) 病児・病後児保育施設を利用しない理由	47
(5) 両親のどちらかが休んで見る意向	47
(6) 仕事を休んで看ることが難しい理由	48
10. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用	49
(1) 不定期な一時預かりの利用状況	49
(2) 不定期な一時預かりを利用していない理由	50
(3) 不定期な一時預かりの利用意向	50
(4) 不定期な一時預かりを利用する場合の望ましい事業形態	52
(5) 保護者の用事で子どもを家族以外に泊りがけで預けたこと	53
(6) 子どもを親族・知人に泊りがけで預ける困難度	54
11. 小学校終了後の放課後の過ごし方	55
(1) 放課後の過ごし方の状況と意向	55
(2) 土曜日、長期休暇中の学童保育の利用意向	58
12. 育児と仕事の両立	60
(1) 育児休業の取得について	60
(2) 育児休業からの職場復帰	63
(3) 短時間勤務制度の取得について	66

(4)子どもが1歳まで育児休業を取得する意向.....	67
(5)子どもを育てながら働くために必要なこと.....	67
13. 子どもの日常生活や遊び、地域活動など.....	68
(1)子どもの日常生活.....	68
(2)子どもの遊び.....	69
(3)地域活動への参加状況.....	69
14. 子育て全般について.....	71
(1)子育てに関する意識.....	71
(2)子育てに関する悩み.....	73
(3)子育てに関する情報について.....	74
(4)子育ての環境や支援の満足度.....	75
(5)子育てに関して町に期待すること.....	76

I . 調査の概要

(1) 調査の目的

添田町子ども・子育て支援事業計画策定に向けて、必要な事業量の見込みを検討するための基礎データとなる子育て中の保護者のニーズを把握するために実施。

(2) 調査対象

- ① 就学前児童保護者 … 261 件
- ② 小学生児童保護者 … 315 件

(3) 調査方法

- ① 就学前児童保護者 … 保育所等での配布・回収／郵送による配布・回収
 - ② 小学生児童保護者 … 学校における配布・回収／郵送による配布・回収
- ※ 対象となる子どもが複数いる家庭には、調査記入の負担を軽減するため、対象家庭に 1 部のみ調査票を配布（末子の子どもを対象）

(4) 配布及び回収数

	配布数	有効回収数	回収率
① 就学前児童保護者	261 件	186 件	71.3%
② 小学生児童保護者	315 件	222 件	70.5%
計	576 件	408 件	70.8%

※以後、調査内容及び調査結果において、① 就学前児童保護者は「就学前」、② 小学生児童保護者は「小学生」と表記しています。

(5) 調査期間

平成31年1月23日（水）～2月7日（木）

(6) 集計分析上の注意事項

- ・集計は小数点第2位以下を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ・回答が複数になる場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- ・表、グラフに示す選択肢はスペースの関係で文言を簡略して表記している場合がある。

Ⅱ. 調査内容

■添田町子ども・子育てに関するニーズ調査内容

項目	設問内容	就学前	小学生
1.住まいの地域	(1) 住まいの小学校区	○	○
2.家族の状況	(1) 子どもの年齢及び学年	○	○
	(2) 子ども(きょうだい)の人数	○	○
	(3) 調査票の回答者	○	○
	(4) 回答者の配偶関係	○	○
	(5) 子どもの子育てを主にしている人	○	○
3.子育ての環境について	(1) 子育てに影響する環境	○	○
	(2) 子どもをみてもらえる親族・知人	○	○
	(3) 子どもをみてもらっている状況	○	○
	(4) 子育ての相談ができる人や場所の有無	○	○
	(5) 子育てについての相談先	○	○
4.保護者の就労状況	(1) 就労状況	○	○
	(2) 就労日数と就労時間	○	○
	(3) 家を出る時間と帰宅時間	○	○
	(4) フルタイムへの転換希望	○	○
	(5) 就労希望	○	○
5.定期的な教育・保育事業の利用	(1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無	○	
	(2) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況と意向	○	
	(3) 利用している平日の定期的な教育・保育事業の場所	○	
	(4) 平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由	○	
	(5) 定期的に利用したい平日の教育・保育事業	○	
	(6) 利用したい平日の定期的な教育・保育事業の場所	○	
	(7) 幼稚園の利用意向	○	
	(8) 保育所の利用状況と意向	○	
6.幼児教育・保育無償化について	(1) 無償化の場合、定期的に利用したい事業	○	
7.地域の子育て支援事業の利用	(1) 地域子育て支援事業の利用状況	○	○
	(2) 地域子育て支援事業の利用意向	○	○
	(3) 地域子育て支援事業の認知度・利用状況・利用意向	○	○
8.土日・祝日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用	(1) 土日・祝日、年末年始の定期的な教育・保育事業の利用意向	○	
	(2) 不定期に教育・保育事業を利用したい理由	○	
	(3) 長期休暇中の教育・保育事業の利用意向(幼稚園利用者)	○	
	(4) 長期休暇中、不定期に教育・保育事業を利用したい理由	○	
9.病気になった時の対応	(1) 子どもが病気になった時の対応	○	○
	(2) 病児・病後児保育施設の利用意向	○	○
	(3) 病児・病後児保育施設を利用する場合の望ましい事業形態	○	○
	(4) 病児・病後児保育施設を利用しない理由	○	○
	(5) 両親のどちらかが休んで看る意向	○	○
	(6) 仕事を休んで看ることが難しい理由	○	○
10.不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用	(1) 不定期な一時預かりの利用状況	○	○
	(2) 不定期な一時預かりを利用していない理由	○	
	(3) 不定期な一時預かりの利用意向	○	○
	(4) 不定期な一時預かりを利用する場合の望ましい事業形態	○	
	(5) 保護者の用事で子どもを家族以外に泊りがけで預けたこと	○	○
	(6) 子どもを親族・知人に泊りがけで預ける困難度	○	○
11.小学校終了後の放課後の過ごし方	(1) 放課後の過ごし方の状況と意向	○	○
	(2) 土曜日、長期休暇中の学童保育の利用意向	○	○
12.育児と仕事の両立	(1) 育児休業の取得について	○	○
	(2) 育児休業からの職場復帰	○	○
	(3) 短時間勤務制度の取得について	○	○
	(4) 子どもが1歳まで育児休業を取得する意向	○	○
	(5) 子どもを育てながら働くために必要なこと	○	○
13.子どもの日常生活や遊び、地域活動など	(1) 子どもの日常生活		○
	(2) 子どもの遊び		○
	(3) 地域活動への参加状況		○
14.子育て全般について	(1) 子育てに関する意識	○	○
	(2) 子育てに関する悩み	○	○
	(3) 子育てに関する情報について	○	○
	(4) 子育ての環境や支援の満足度	○	○
	(5) 子育てに関して町に期待すること	○	○

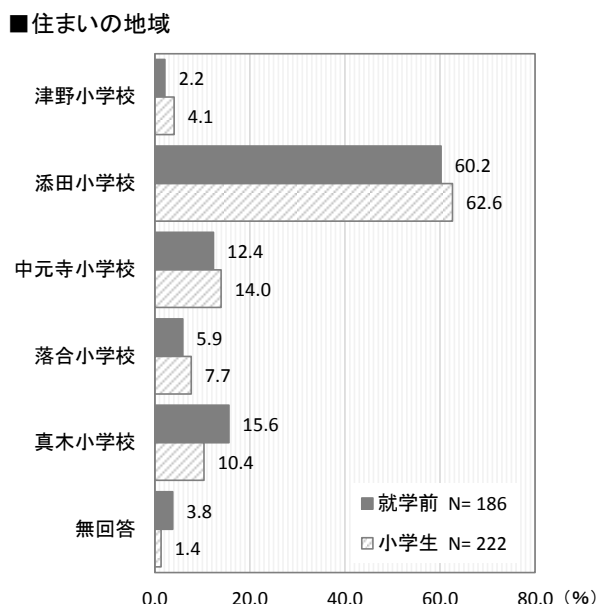
Ⅲ. 調査結果

1. 住まいの地域

(1) 住まいの地域について

【就学前・小学生】

調査の回答があった保護者の住まいの地域(小学校区)については、就学前児童、小学生児童ともに「添田小学校区」が最も多く、就学前児童で60.2%、小学生児童で62.6%と全体の3分の2を占めています。次いで、就学前児童では「真木小学校区」(15.6%)、小学生児童では「中元寺小学校区」(14.0%)となっています。



2. 家族の状況

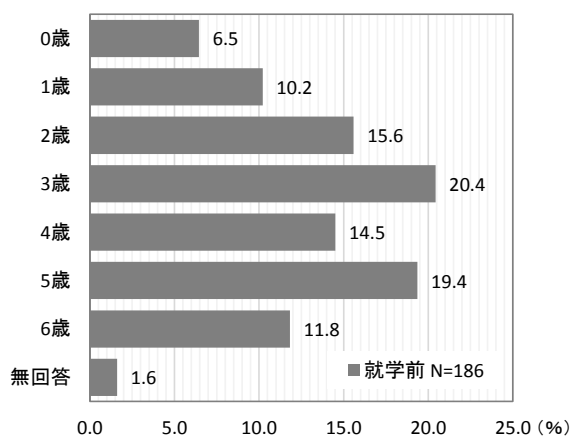
(1) 子どもの年齢及び学年

【就学前・小学生】

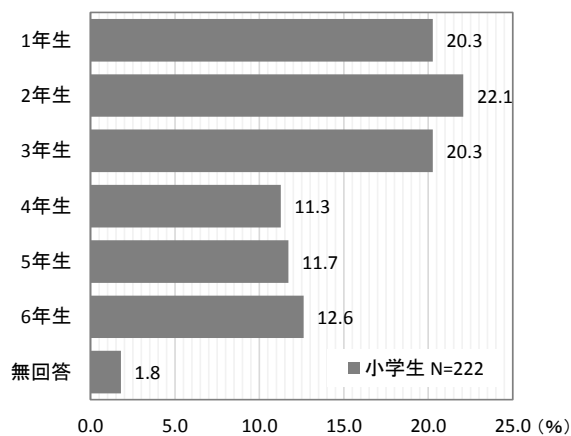
就学前児童の年齢は「3歳」が38人(20.4%)と最も多く、次いで「5歳」が36人(19.4%)、「2歳」が29人(15.6%)と続きます。0~2歳は60人(32.3%)、3歳~6歳は123人(66.1%)となっています。

小学生児童の学年は「2年生」が49人(22.1%)と最も多く、次いで「1年生」「3年生」がそれぞれ45人(20.3%)と続きます。1~3年生の低学年は139人(62.7%)、4年生~6年生の高学年は79人(35.6%)となっています。

■ 子どもの年齢(就学前)



■ 子どもの学年(小学生)

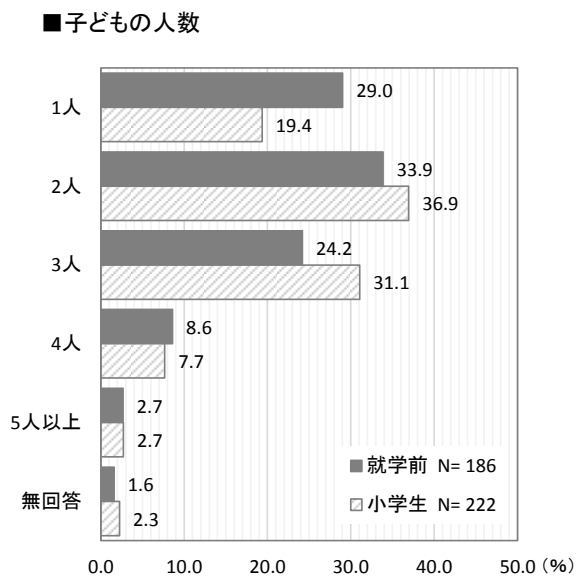


(2) 子ども（きょうだい）の人数

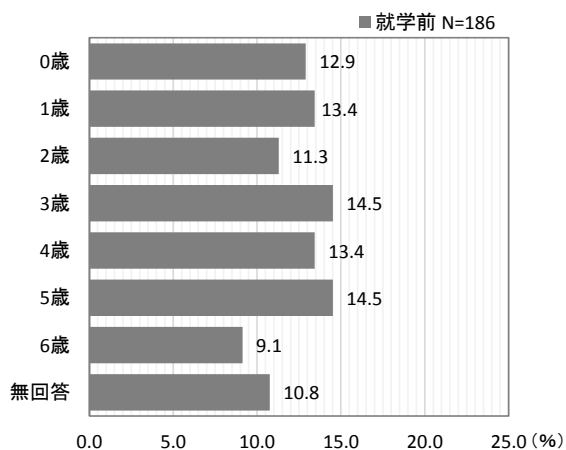
【就学前・小学生】

子ども（きょうだい）の人数は、「2人」が最も多く、就学前児童では33.9%、小学生児童では36.9%となっており、次いで、就学前児童では「1人」（29.0%）と続き、小学生児童では「3人」（31.1%）となっています。

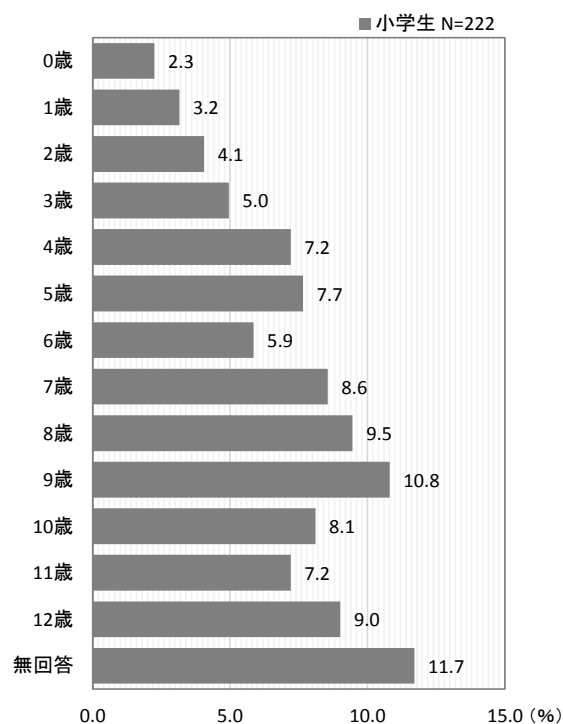
末子の年齢は、就学前児童で「3歳」「5歳」がそれぞれ14.5%と最も多くなっています。また、小学生児童では、無回答を除くと「9歳」が10.8%と最も多く、0～5歳の就学前児童の割合は29.5%となっています。



■末子の年齢(就学前児童)



■末子の年齢(小学生児童)

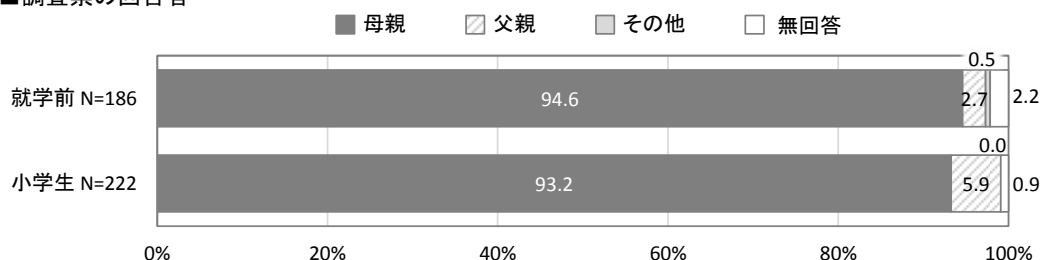


(3) 調査票の回答者

【就学前・小学生】

調査票の回答者は、「母親」が就学前児童で 94.6%、小学生児童で 93.2%と大多数を占めており、次いで「父親」(就学前児童 2.7%、小学生児童 5.9%) となっています。「父親」の割合は、就学前児童より小学生児童の方がやや高くなっています。

■ 調査票の回答者

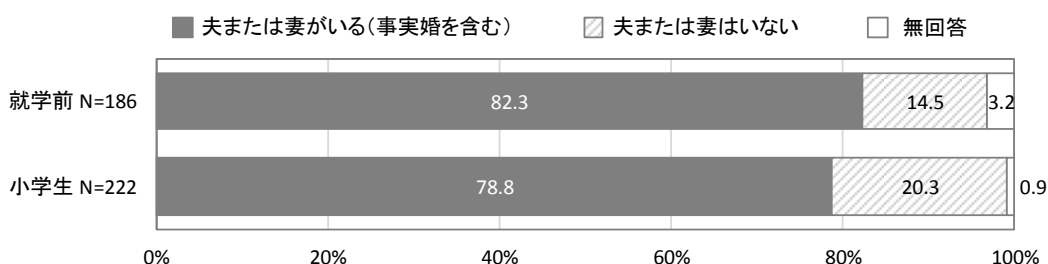


(4) 回答者の配偶関係

【就学前・小学生】

回答者の配偶関係については、「夫または妻がいる(事実婚を含む)」が就学前児童で 82.3%、小学生児童で 78.8%となっています。また、「夫または妻はいない」という割合は、就学前児童より小学生児童の方が高くなっており、小学生児童の約2割がひとり親家庭であることが推察されます。

■ 回答者の配偶関係

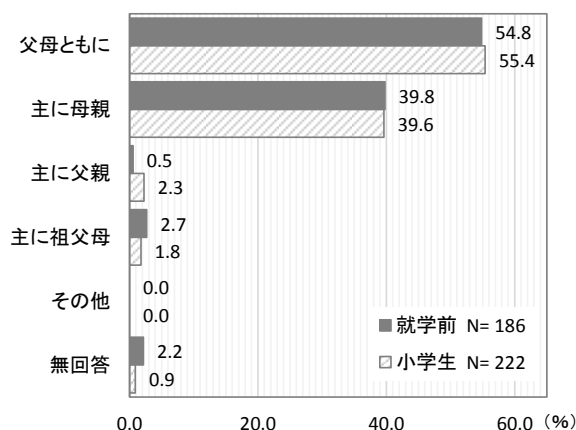


(5) 子どもの子育てを主にしている人

【就学前・小学生】

子育て(教育を含む)を主に行っているのは、「父母ともに」の割合が最も高く、次いで「主に母親」と続きます。就学前児童と小学生児童を比べると、わずかではありますが、「父母ともに」と「主に父親」という割合は小学生児童の方が高く、「主に母親」と「主に祖父母」という割合は就学前児童の方が高くなっています。

■ 子どもの子育てを主にしている人



3. 子育ての環境について

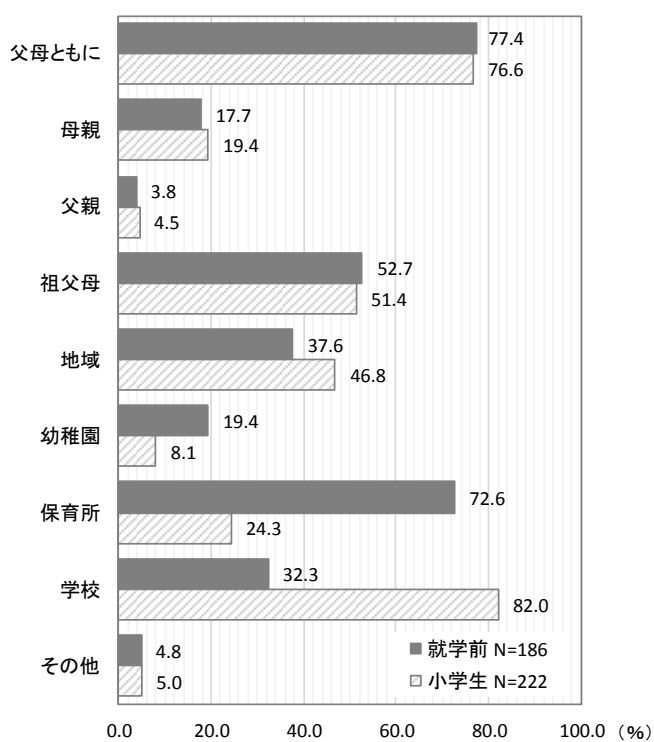
(1) 子育てに影響する環境

【就学前・小学生】

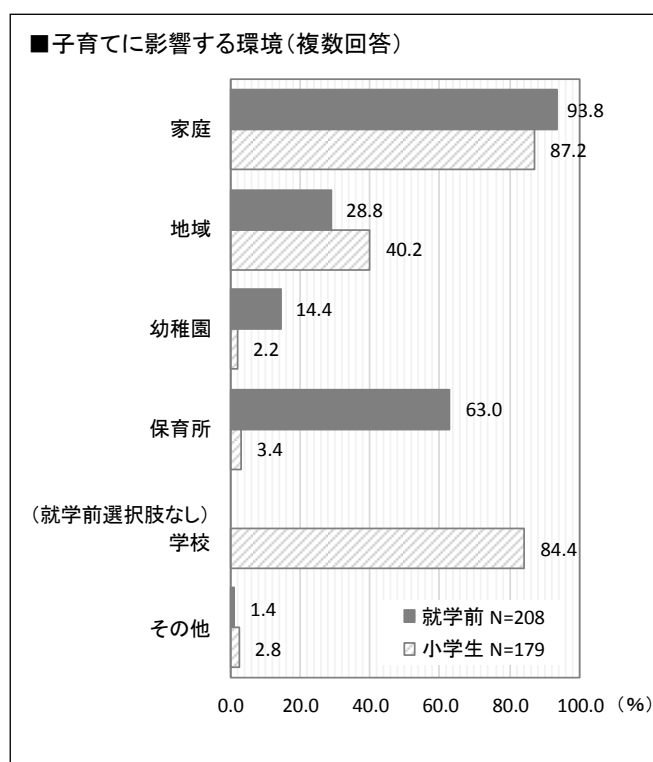
子育て（教育を含む）に影響すると思う環境は、就学前児童では「父母ともに」が77.4%と最も高く、次いで「保育所」(72.6%)、「祖父母」(52.7%)と続きます。小学生児童では「学校」が82.0%と最も高く、次いで「父母ともに」(76.6%)、「祖父母」(51.4%)と続きます。就学前児童、小学生児童ともに、現在、通園・通学している施設等における保育・教育が子育てに最も影響すると考えられています。

また、「地域」については、就学前児童(37.6%)より小学生児童(46.8%)の方が高くなっており、平成25年度調査と比較すると、どちらも増加しています。

■子育てに影響する環境(複数回答)



■子育てに影響する環境(複数回答)



(2) 子どもをみてもらえる親族・知人

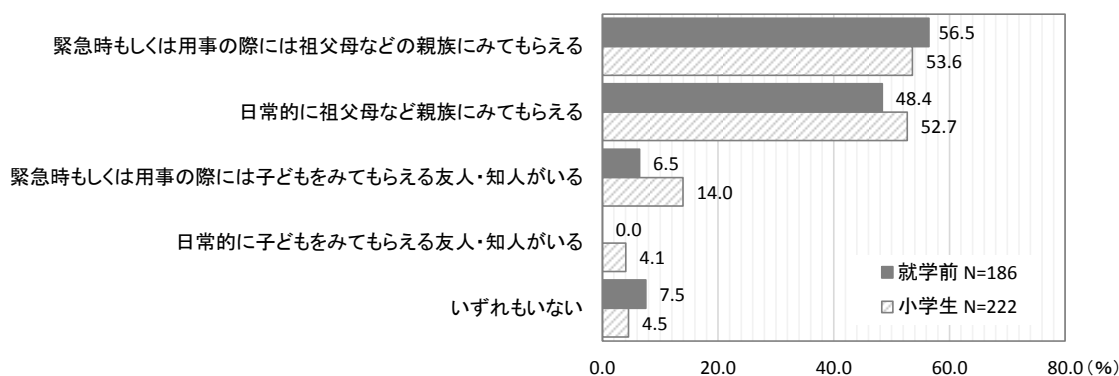
【就学前・小学生】

子どもをみてもらえる親族・知人については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる」と回答した割合が、就学前児童で56.5%、小学生児童で53.6%と最も高く、次いで「日常的に祖父母など親族にみてもらえる」が就学前児童で48.4%、小学生児童で52.7%と続きます。

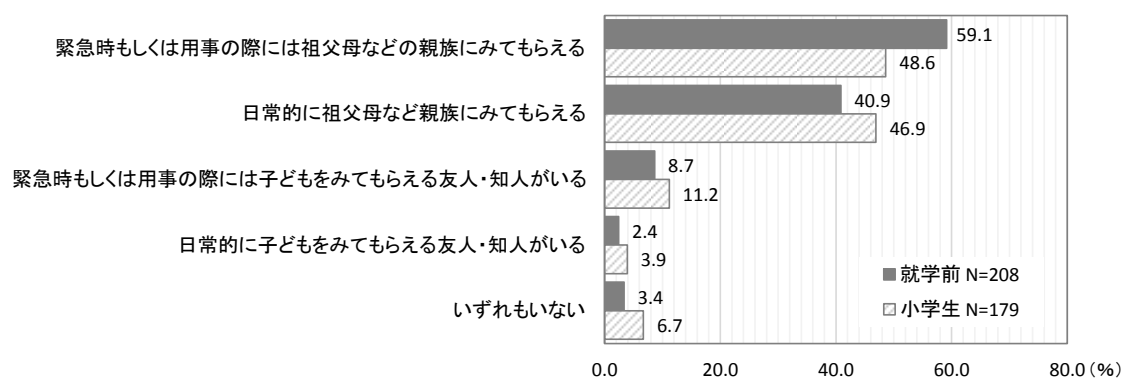
緊急時には、祖父母等の親族にみてもらえる環境にある人が半数以上、身近な環境に祖父母等がいる人が約半数程度いる一方で、「いずれもない」という回答もわずかにみられます。

平成25年度調査と比較すると、日常的、緊急時に祖父母等の親族にみてもらえる環境にある人の割合が、就学前児童、小学生児童ともに増加しています。また、就学前児童では「いずれもない」という割合が3.4%から7.5%とわずかに増加しています。

■ 子どもをみてもらえる親族・知人(複数回答)



■ 子どもをみてもらえる親族・知人(複数回答)(H25年度)



(3) 子どもをみてもらっている状況

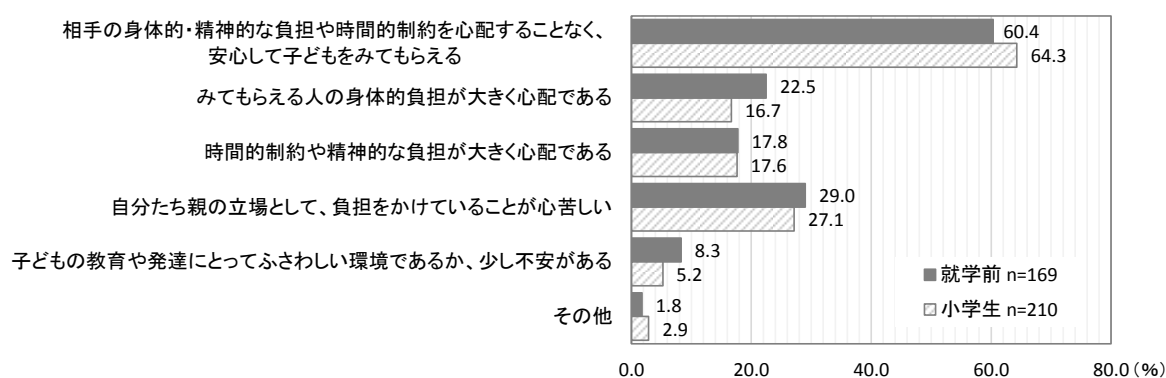
【就学前・小学生】

子どもをみてもらっている状況については、「相手の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と回答した割合が最も高く、就学前児童では60.4%、小学生児童では64.3%、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（就学前児童29.0%、小学生児童27.1%）と続きます。

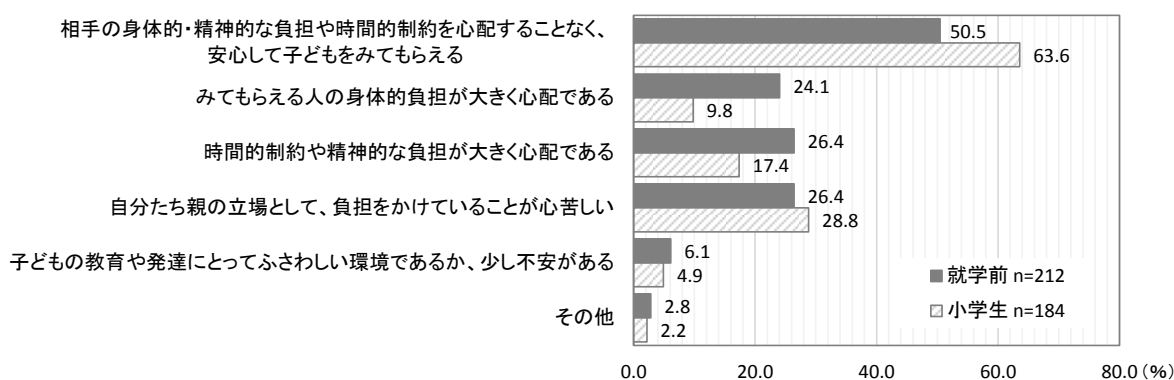
全体的に安心してみてもらえる状況にある人が6割以上いる一方で、就学前児童では「みてもらえる人の身体的負担が大きく心配である」「時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」という割合が高くなっており、乳幼児期の子どもを祖父母などの親族にみもらうことは、心苦しい、心配と感じている人が多いと考えられます。

また、平成25年度調査と比較すると、就学前児童では「相手の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」という回答が約10ポイント増加しています。

■子どもをみてもらっている状況(複数回答)



■子どもをみてもらっている状況(複数回答)(H25年度)



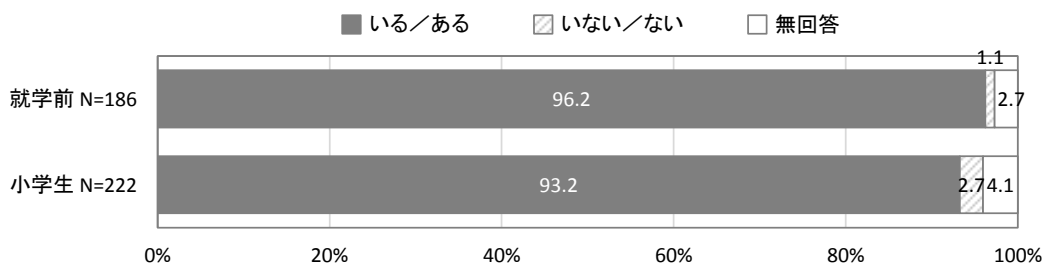
(4) 子育ての相談ができる人や場所の有無

【就学前・小学生】

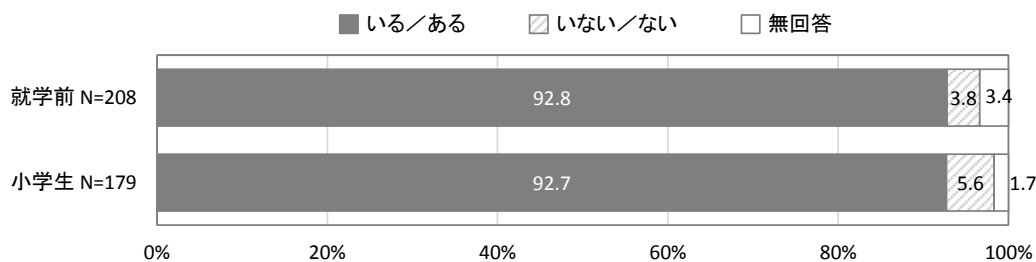
気軽に子育ての相談ができる人や場所について、「いる／ある」という割合が、就学前児童では 96.2%、小学生児童では 93.2%と大多数を占めています。「いない／ない」と回答した割合は、就学前児童より小学生児童の方がやや高くなっています。

平成 25 年度調査と比較すると、就学前児童、小学生児童ともに、相談できる人や場所は増えています。

■子育ての相談ができる人や場所の有無



■子育ての相談ができる人や場所の有無 (H25 年度)



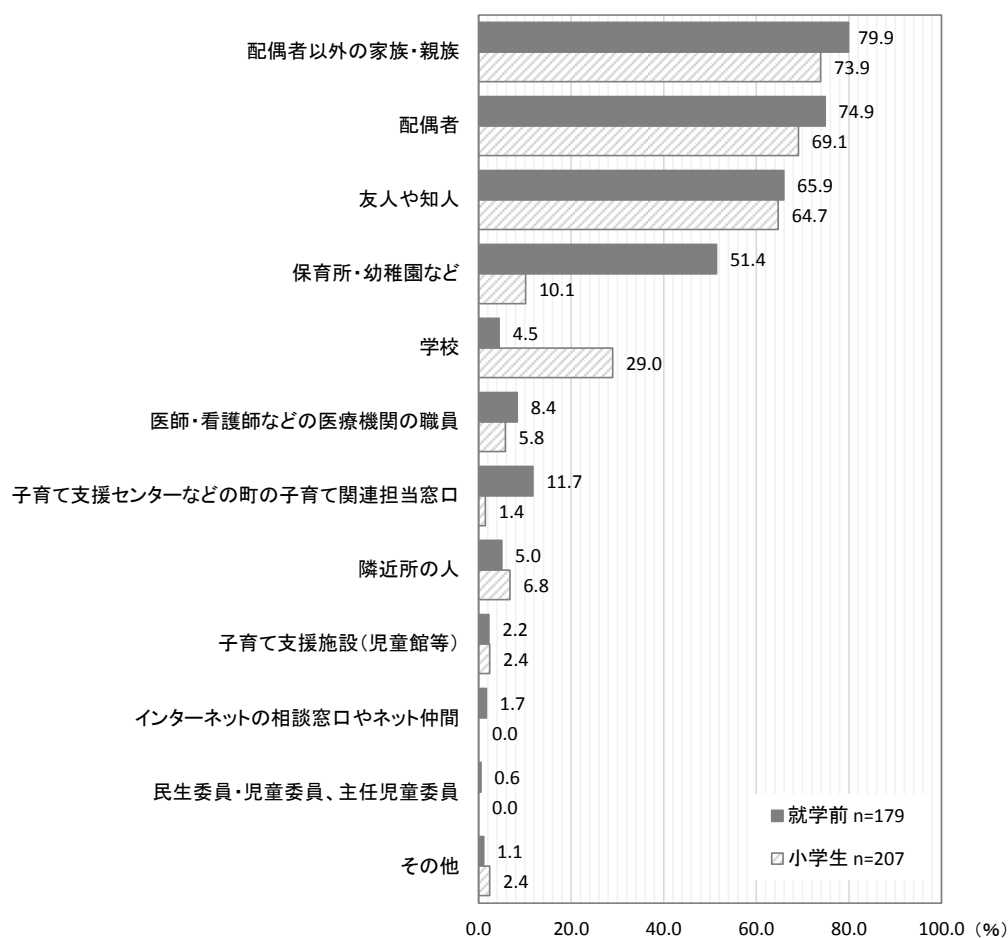
(5) 子育てについての相談先

【就学前・小学生】

子育ての相談ができる人や場所について、「配偶者以外の家族・親族」の割合が最も高く、就学前児童では79.9%、小学生児童では73.9%となっています。次いで「配偶者」「友人や知人」と続いており、身近な人を主な相談相手としていることがうかがえます。また、保育所・幼稚園・学校に相談している保護者もみられます。

「子育て支援センターなどの町の子育て関連担当窓口」「子育て支援施設（児童館等）」「民生委員・児童委員、主任児童委員」など、公的な機関等を相談する人は少なく、子育てに関する専門的な相談窓口を気軽に利用できる環境づくりが必要と考えられます。

■子育ての相談ができる人・場所等(複数回答)



4. 保護者の就労状況

(1) 就労状況

【就学前・小学生】

1) 母親の就労状況

母親の就労状況について、就学前児童では「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が30.6%と最も高く、僅差で「パート・アルバイトなどで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が29.6%となっています。

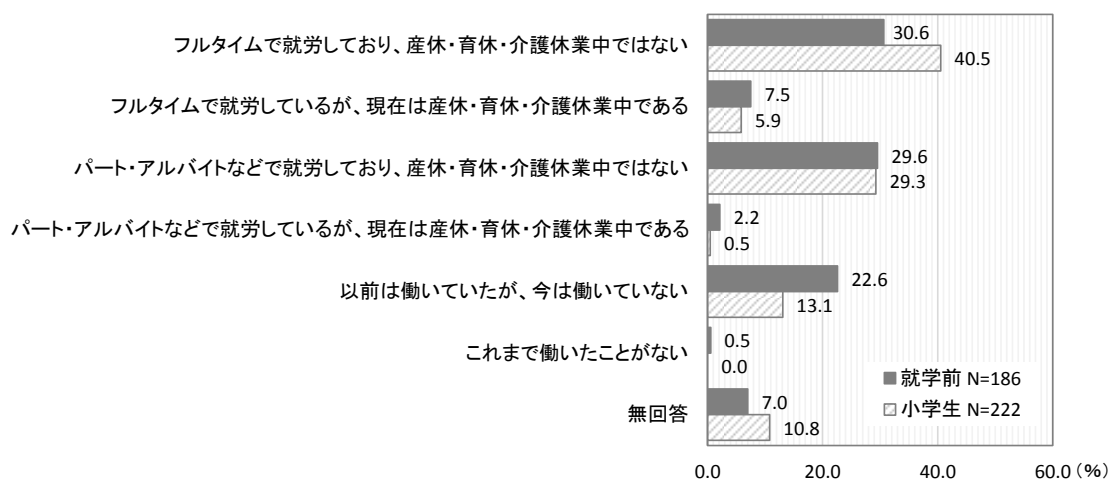
小学生児童では「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が40.5%と最も高く、次いで「パート・アルバイトなどで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が29.6%となっています。

また、“フルタイムで就労している（産休・育休・介護休業中含む）”という割合は、就学前児童で38.1%、小学生児童で46.4%、“パート・アルバイトなどで就労している（産休・育休・介護休業中含む）”という割合は、就学前児童で31.8%、小学生児童で29.8%となっています。これらを合わせた、“現在何らかの形態で就労している”母親は、就学前児童で69.9%、小学生児童で76.2%となっています。

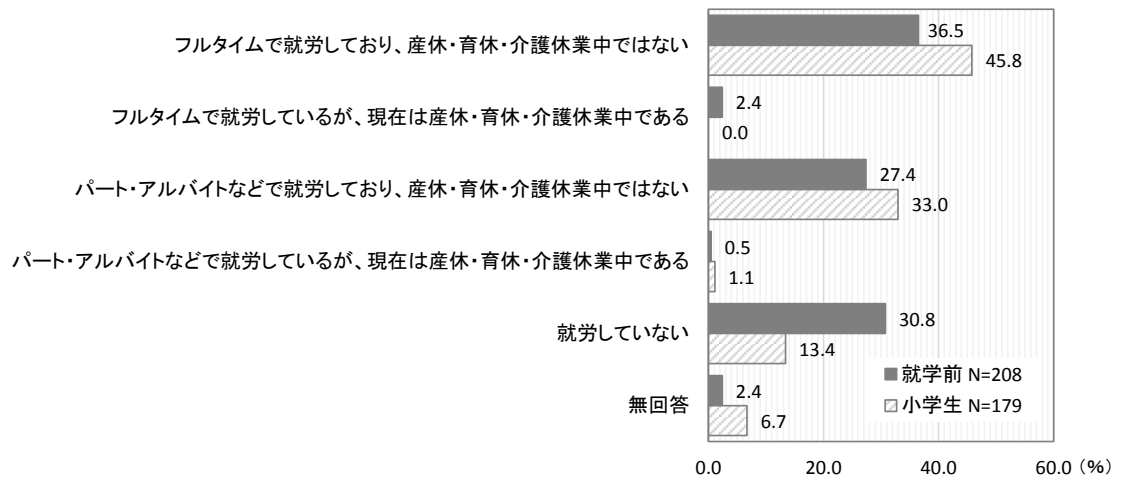
さらに、平成25年度調査と比較すると、“現在何らかの形態で就労している”という割合は就学前児童では3.3ポイント増加し、小学生児童では3.7ポイント減少しています。

“産休・育休・介護休業中（フルタイム、パート・アルバイト等で就労）”の割合は、就学前児童では9.7%、小学生児童では6.4%となっており、平成25年度調査に比べて、就学前児童では6.8ポイント増加、小学生児童では5.3ポイント増加しています。

■ 就労状況(母親)



■就労状況(母親)(H25 年度)



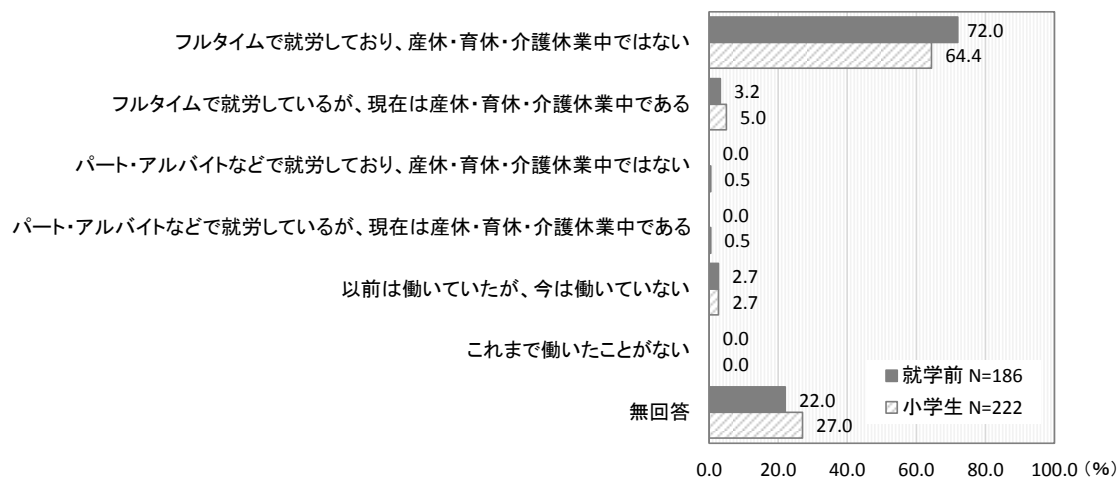
2) 父親の就労状況

父親の就労状況については、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が最も高く、就学前児童では72.0%、小学生児童では64.4%となっています。平成25年度調査と比較すると、就学前児童・小学生児童ともにその割合は増加しています。

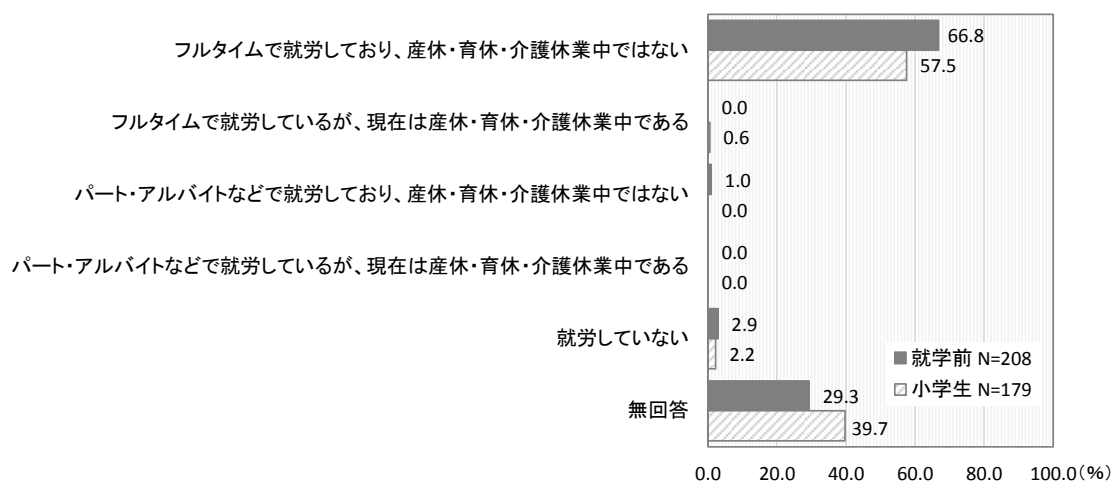
“産休・育休・介護休業中（フルタイム、パート・アルバイト等）”の割合は、就学前児童では3.2%、小学生児童では5.5%みられます。

無回答には母子家庭を含むため、割合が高くなっています。

■就労状況（父親）



■就労状況（父親）(H25 年度)



(2) 就労日数と就労時間

【就学前・小学生】

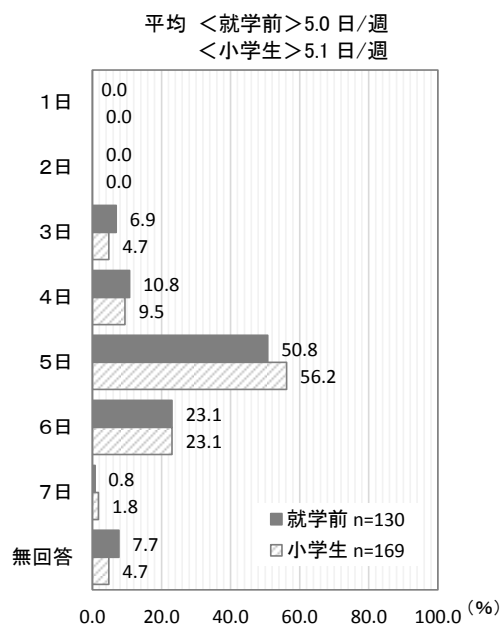
1) 母親の就労日数と就労時間

就労している母親の1週あたりの就労日数として最も多かったのは「5日」(就学前児童50.8%、小学生児童56.2%)、次いで、「6日」(就学前児童、小学生児童23.1%)となり、「5日以上」が就学前児童で74.7%、小学生児童で81.1%を占めています。また、平均日数は、就学前児童で5.0日、小学生児童で5.1日となっています。

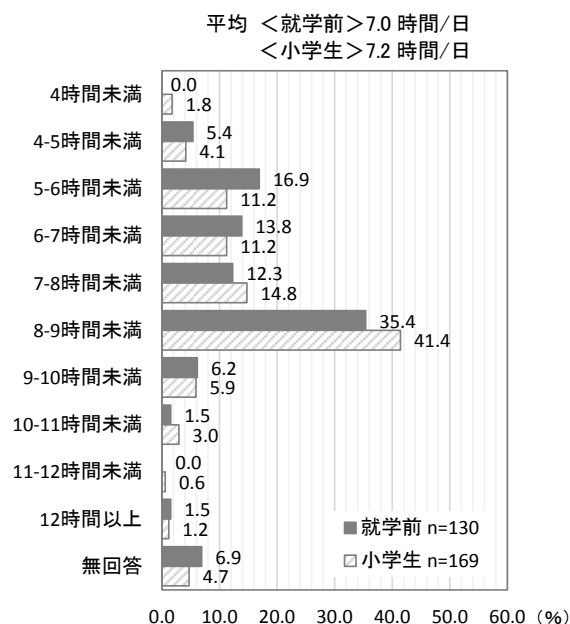
1日あたりの就労時間として最も多かったのは「8時間以上9時間未満」(就学前児童35.4%、小学生児童41.1%)、次いで、就学前児童では「5時間以上6時間未満」(16.9%)、小学生児童では「7時間以上8時間未満」(14.8%)となり、「8時間以上」の割合は、就学前児童で44.6%、小学生児童で52.1%となっています。平均時間は就学前児童で7.0時間、小学生児童で7.2時間(0.1≒6分間)となっています。

就学前児童より小学生児童の母親の方が就労日数、就労時間ともに多い傾向がみられます。

■ 1週あたりの就労日数(母親)



■ 1日あたりの就労時間(母親)



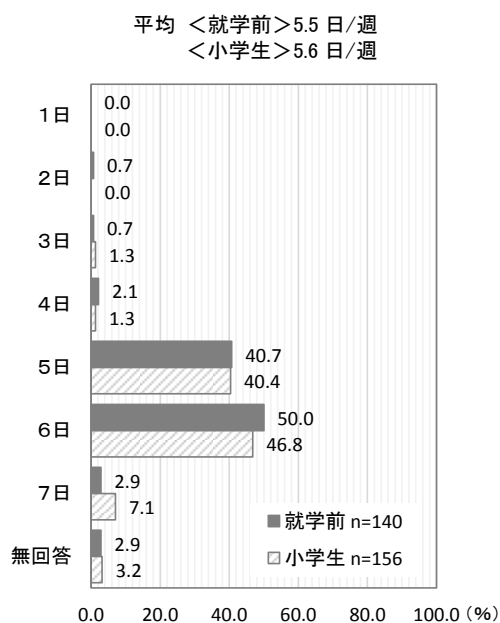
2) 父親の就労日数と就労時間

就労している父親の1週あたりの就労日数として最も多かったのは「6日」(就学前児童 50.0%、小学生児童 46.8%)、次いで「5日」(就学前児童 40.7%、小学生児童 40.4%)となり、“5日以上”の割合が大多数を占めています。また、平均日数は、就学前児童で 5.5 日、小学生児童で 5.6 日となっています。

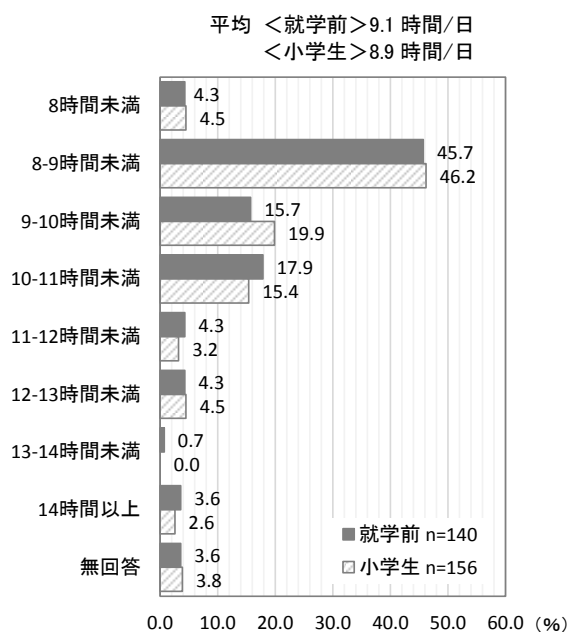
1日あたりの就労時間として最も多かったのは「8時間以上9時間未満」(就学前児童 45.7%、小学生児童 46.2%)、次いで、就学前児童では「10時間以上11時間未満」(17.9%)、小学生児童では「9時間以上10時間未満」(19.9%)となり、“8時間以上”の割合は、就学前児童で 92.2%、小学生児童で 91.8%となっています。平均時間は就学前児童で 9.1 時間、小学生児童で 8.9 時間(0.1÷6分間)となっています。

就学前児童より小学生児童の父親の方が就労日数、就労時間ともに多い傾向がみられます。

■1週あたりの就労日数(父親)



■1日あたりの就労時間(父親)



(3) 家を出る時間と帰宅時間

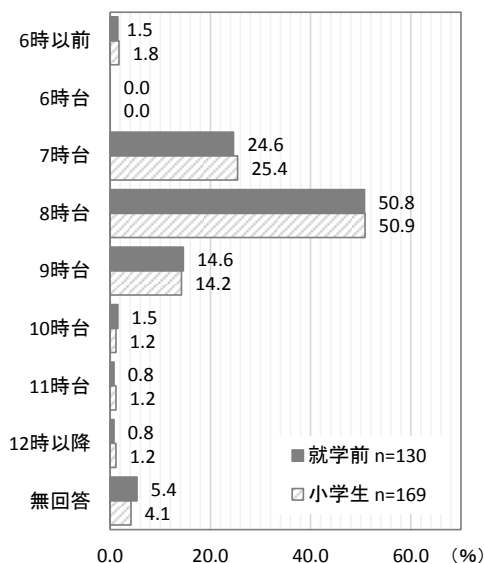
【就学前・小学生】

1) 母親の家を出る時間と帰宅時間

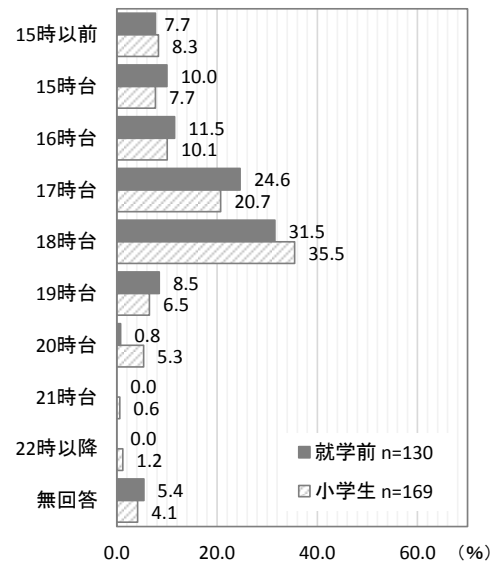
就労している母親が家を出る時間は「8時台」が最も多く、就学前児童で50.8%、小学生児童で50.9%、次いで「7時台」「9時台」となっています。

帰宅時間は「18時台」が最も多く、就学前児童で31.5%、小学生児童で35.5%、次いで「17時台」「16時台」となっています。また、「19時以降」という回答は就学前児童で9.3%、小学生児童で13.6%となっています。

■家を出る時間(母親)



■帰宅時間(母親)

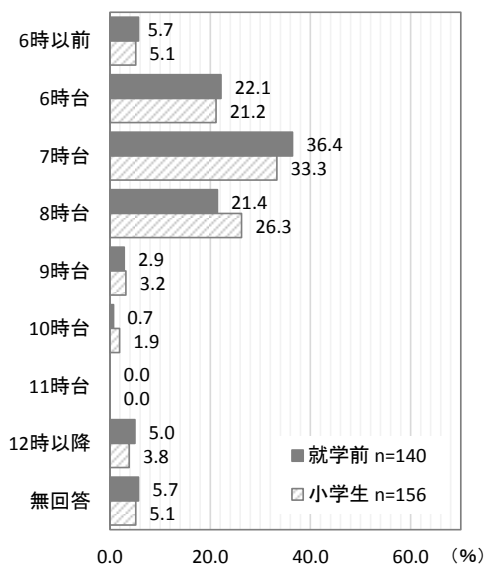


2) 父親の家を出る時間と帰宅時間

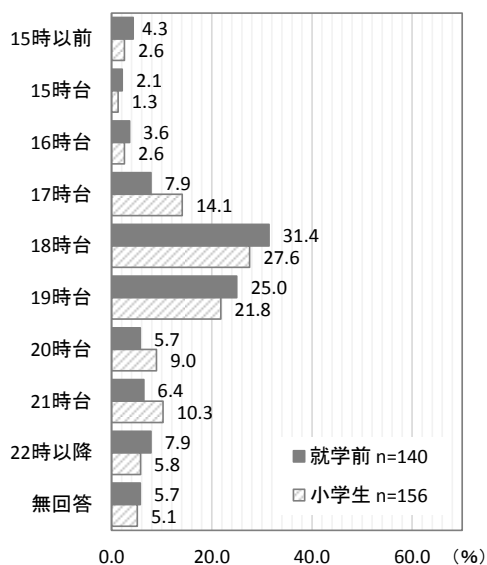
就労している父親が家を出る時間は「7時台」が最も多く、就学前児童で36.4%、小学生児童で33.3%、次いで就学前児童では「6時台」(22.1%)、小学生児童では「8時台」(26.3%)となっています。

帰宅時間は「18時台」が最も多く、就学前児童で31.4%、小学生児童で27.6%、次いで「19時台」「17時台」となっています。また、「19時以降」という回答は就学前児童で45.0%、小学生児童で46.9%となっており、母親の帰宅時間と差がみられます。

■家を出る時間(父親)



■帰宅時間(父親)



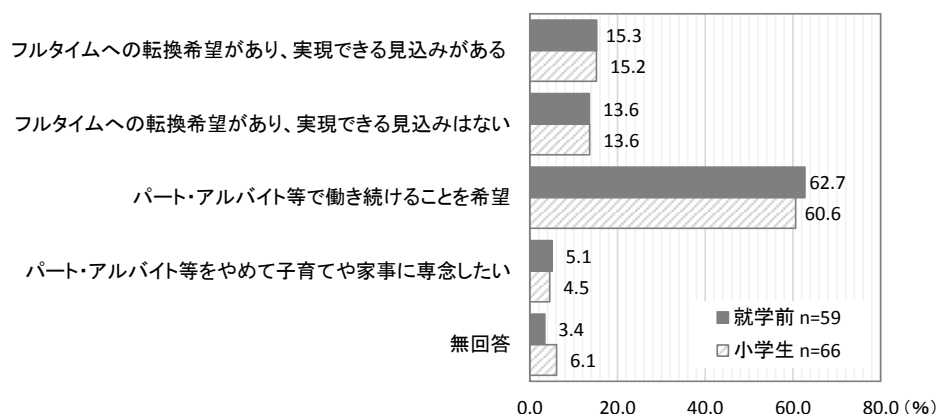
(4) フルタイムへの転換希望

【就学前・小学生】

1) 母親のフルタイムへの転換希望

現在、パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換意向は、「パート・アルバイト等で働き続けることを希望」の割合が最も高く、就学前児童で62.7%、小学生児童で60.6%となっています。また、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みはない」を合わせた“フルタイムへの転換希望あり”とする割合は、就学前児童で28.9%、小学生児童で28.8%となっています。

■フルタイムへの転換希望(母親)

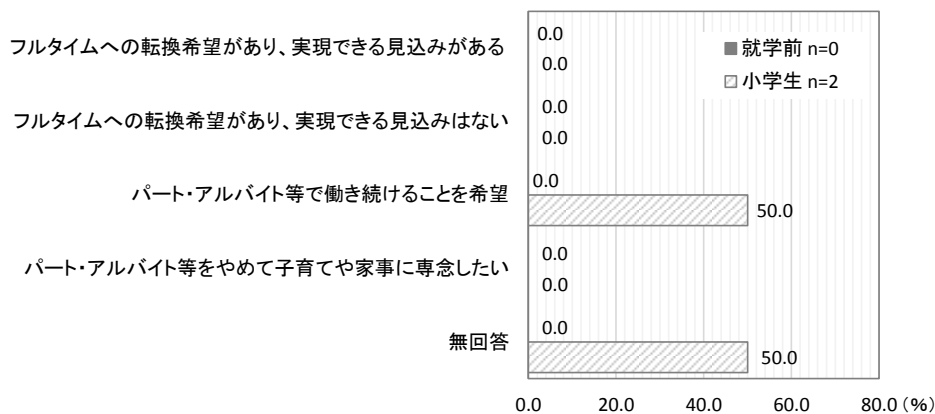


2) 父親のフルタイムへの転換希望

現在、パート・アルバイト等で就労している父親は少なく、就学前児童では0人、小学生児童で2人の回答を得ています。

転換意向は、「パート・アルバイト等で働き続けることを希望」が50.0%となっています。

■フルタイムへの転換希望(父親)



(5) 就労希望

【就学前・小学生】

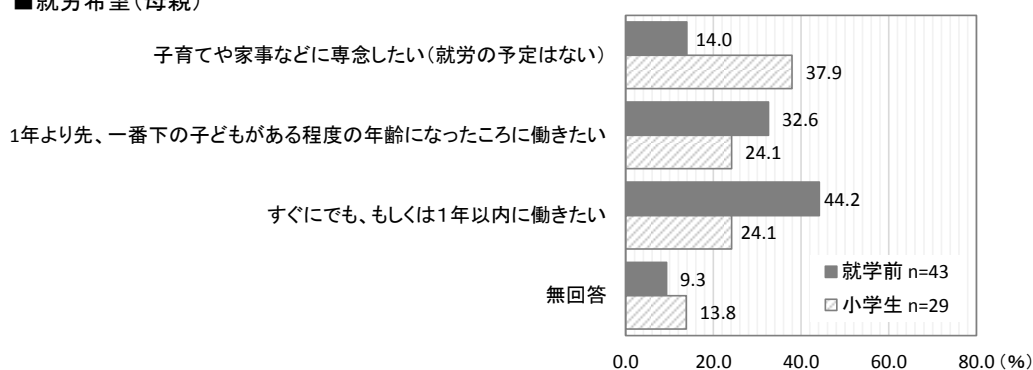
1) 母親の就労希望

ア. 母親の就労希望と就労を希望する時の子どもの年齢

現在、就労していない母親の就労意向について、就学前児童では「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」が44.2%、小学生児童では「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が37.9%とそれぞれ最も高くなっています。

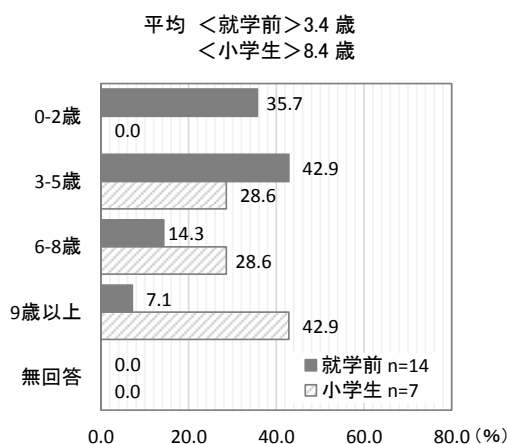
また、「1年より先、一番下の子どもがある程度の年齢になったところに働きたい」「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」を合わせた“就労意向あり”とする割合は、就学前児童で76.8%、小学生児童で48.2%を占めており、特に就学前児童の母親の方が小学生児童の母親より就労意向が高いことがうかがえます。

■就労希望(母親)



一番下の子どもが何歳を迎えた時に就労を希望するか尋ねたところ、就学前児童では「3～5歳」が42.9%と最も高く、次いで「0～2歳」(35.7%)と続き、平均は3.4歳となっています。また、小学生児童では「9歳以上」が42.9%と最も高く、次いで「3～5歳」「6～8歳」(28.6%)と続き、平均は8.4歳となっています。

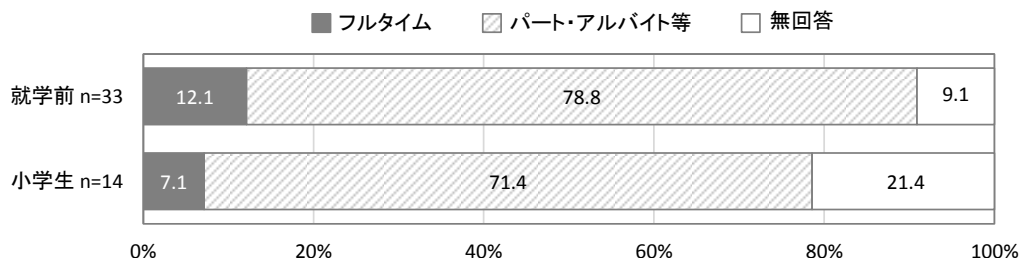
■子どもが何歳を迎えた時に就労を希望するか(母親)



イ. 母親の希望する就労形態

現在働いておらず、今後就労意向のある母親が希望する就労形態は「パート・アルバイト等」の割合が高く、就学前児童では 78.8%、小学生児童では 71.4%となっています。また、「フルタイム」を希望する割合は、就学前児童で 12.1%、小学生児童で 7.1%と就学前児童の方が高くなっています。

■希望する就労形態(母親)



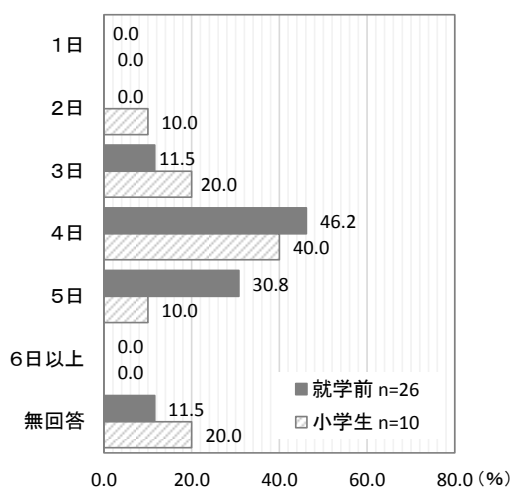
ウ. 母親の希望する就労日数と就労時間

パート・アルバイト等として希望する就労日数としては、「4日」の割合が最も高く、就学前児童では 46.2%、小学生児童では 40.0%、次いで、就学前児童では「5日」(30.8%)、小学生児童では「3日」(20.0%)と続きます。平均は就学前児童で 4.2 日、小学生児童では 3.6 日となっています。

また、パート・アルバイト等として希望する就労時間としては、就学前児童では「5時間以上6時間未満」の割合が 30.8%と最も高く、次いで「6時間以上7時間未満」(26.9%)となっています。また、小学生児童では「6時間以上7時間未満」が 30.0%と最も高く、次いで「3時間以上4時間未満」「4時間以上5時間未満」(20.0%)と続きます。平均は就学前児童で 5.2 時間、小学生児童で 4.6 時間となっており、就学前児童の方が長時間の就労を希望していることがうかがえます。

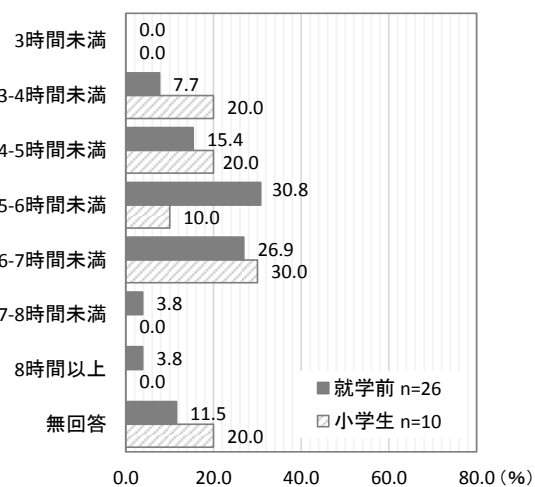
■1週あたりの就労希望日数(母親)

平均 <就学前>4.2 日/週
<小学生>3.6 日/週



■1日あたりの就労希望時間(母親)

平均 <就学前>5.2 時間/日
<小学生>4.6 時間/日

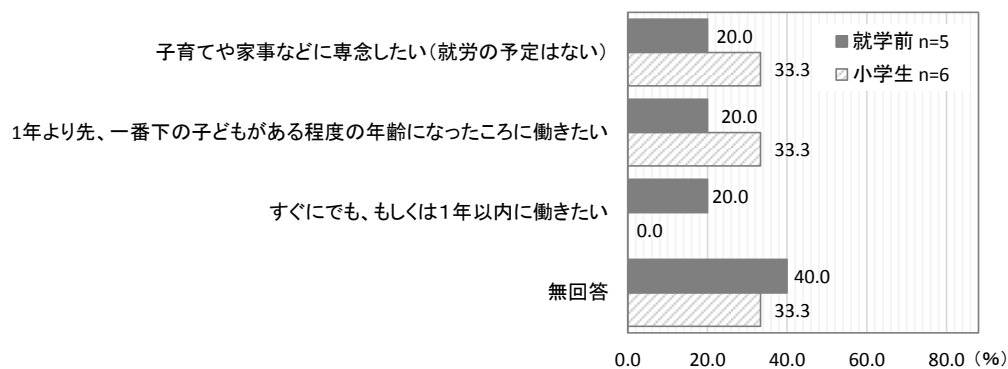


2) 父親の就労希望

現在、就労していない父親は少なく、就学前児童で5人、小学生児童で6人の回答を得ています。就労意向は、「すぐにでも、もしくは1年以内に働きたい」という回答が、就学前児童で20.0%、小学生児童で0.0%となっており、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」という回答は、小学生児童で33.3%みられます。

「1年より先、一番下の子どもがある程度の年齢になったところに働きたい」という回答は、就学前児童で20.0%、小学生児童で33.3%となっています。また、無回答が多くなっていますが、この場合には母子家庭の影響はあまり見られません。

■就労希望(父親)



5. 定期的な教育・保育事業の利用

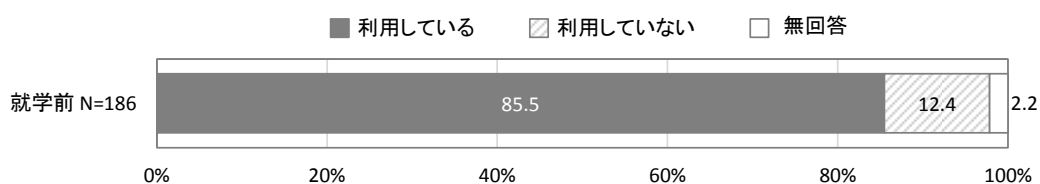
(1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無

【就学前】

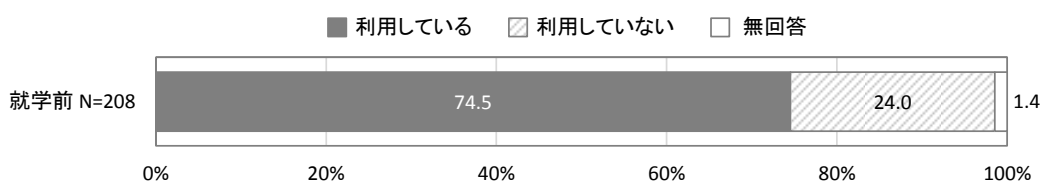
※この調査での「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している幼稚園や保育所などの事業を指します。

対象となった子どもが定期的な教育・保育事業を「利用している」が85.5%、「利用していない」が12.4%となっています。また、平成25年度調査と比較すると「利用している」という割合が11.0ポイント増加しており、5年前より教育・保育事業の利用者は増加していることがうかがえます。

■ 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無



■ 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無 (H25 年度)



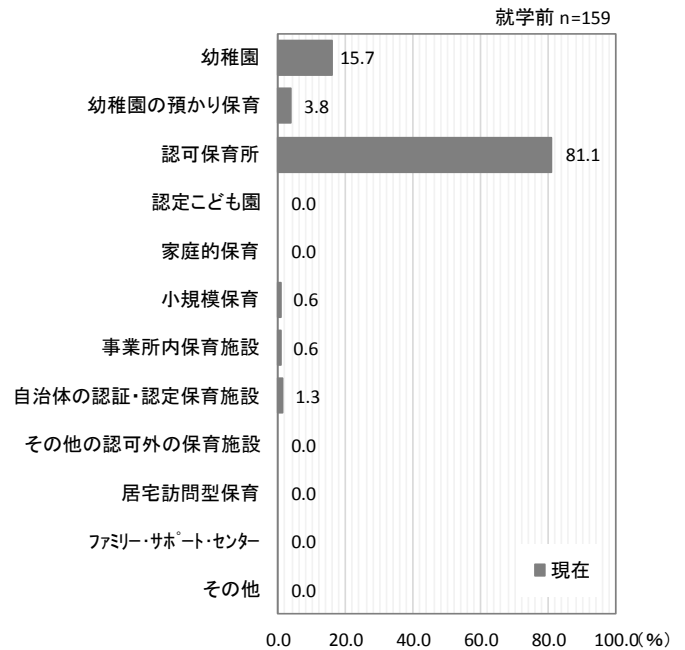
(2) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

【就学前】

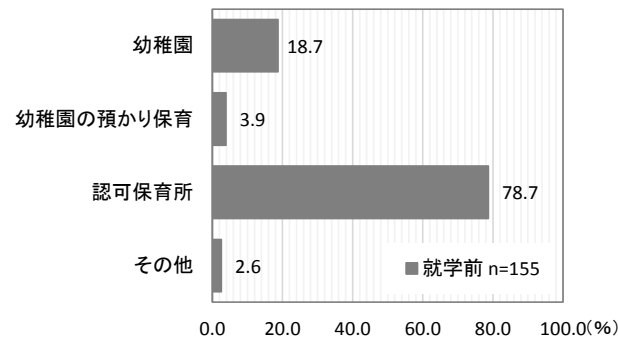
現在、利用している教育・保育事業は、「認可保育所」が81.1%と最も高く、次いで「幼稚園」(15.7%)、「幼稚園の預かり保育」(3.8%)と続き、それ以外はいずれも数%の利用率となっています。

また、平成25年度調査と比較すると、「認可保育所」の利用が増加し、「幼稚園」や「幼稚園の預かり保育」の利用はやや減少しています。

■平日の定期的な教育・保育事業の利用状況(複数回答)



■平日の定期的な教育・保育事業の利用状況(複数回答)(H25年度)

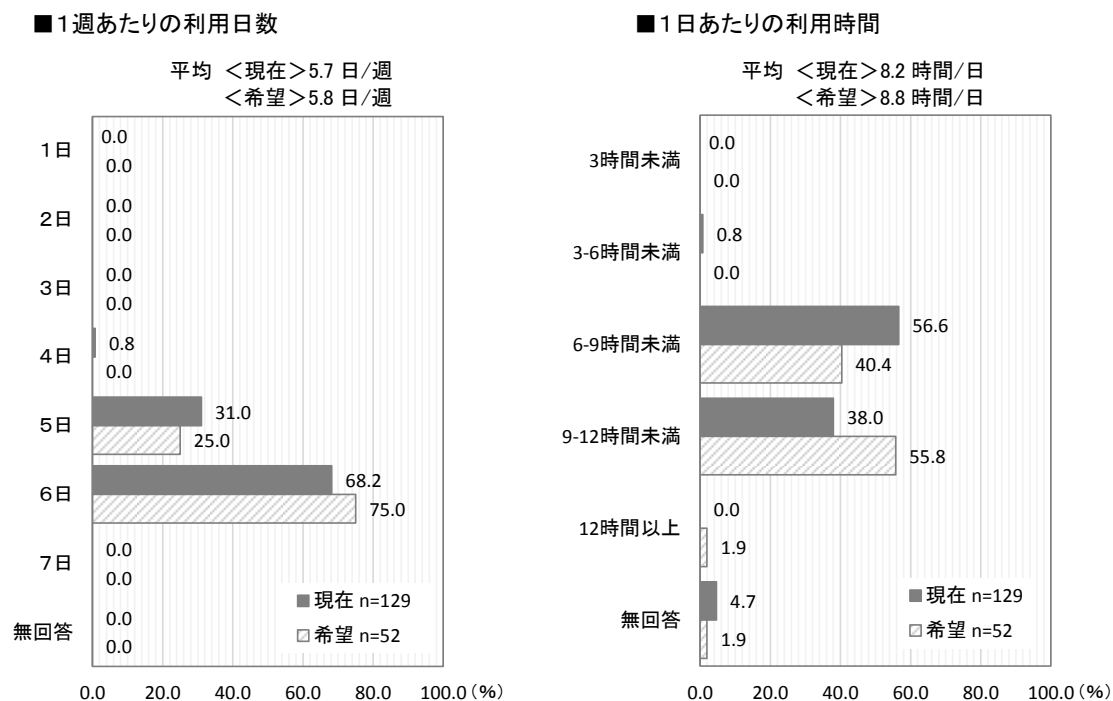


利用している教育・保育事業として最も多い<認可保育所>の利用状況は、1週あたりの現在の利用日数は「6日」が68.2%と最も高く、次いで「5日」(31.0%)となります。1日あたりの利用時間は「6時間以上9時間未満」が56.6%と最も高く、次いで「9時間以上12時間未満」(38.0%)となっています。

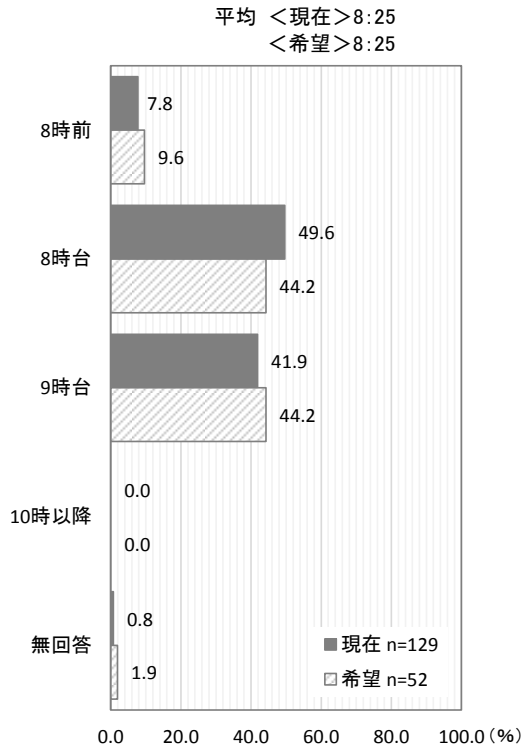
現在、認可保育所を利用している人が、本来希望する利用の程度については、現在の利用日数の平均5.7日に対して、希望の利用日数の平均は5.8日、また、現在の利用時間の平均8.2時間に対して、希望の利用時間の平均は8.8時間となっており、利用日数、利用時間ともに、現状の利用程度よりも多く利用したい人が多くなっていると考えられます。

利用開始時間帯の平均については、現在及び希望ともに「8時25分」となっています。また、利用終了時間帯の平均については、現在が「16時55分」に対して、希望が「17時20分」となっており、25分遅い終了時間の希望がみられます。

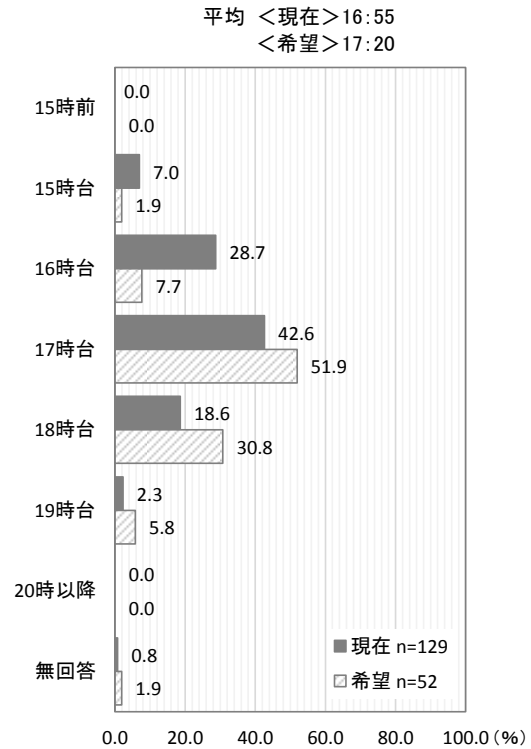
<認可保育所>



■ 利用開始の時間帯



■ 利用終了の時間帯



■ 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況と意向の日数・時間(平均)

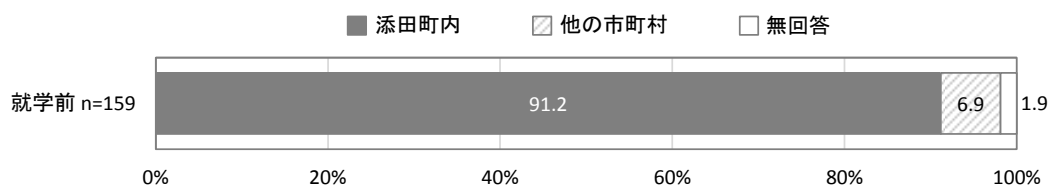
	1週あたりの 利用日数(日)		1日あたりの 利用時間(時間)		利用時間帯			
	現在	希望	現在	希望	〇時から		〇時まで	
					現在	希望	現在	希望
幼稚園	5.4	5.5	6.8	7.1	8:35	8:45	15:30	15:35
幼稚園の預かり保育	3.8	4.8	3.0	3.8	13:20	11:50	16:35	16:35
認可保育所	5.7	5.8	8.2	8.8	8:25	8:25	16:55	17:20
認定こども園	-	5.0	-	7.0	-	9:00	-	16:00
家庭的保育	-	-	-	-	-	-	-	-
小規模保育	6.0	-	7.0	-	9:00	-	16:00	-
事業所内保育施設	1.0	5.0	8.0	7.0	8:00	9:00	17:00	16:00
自治体の認証・認定保育施設	6.0	5.0	7.0	7.0	9:00	9:00	16:30	16:00
その他の認可外の保育施設	-	-	-	-	-	-	-	-
居宅訪問型保育	-	-	-	-	-	-	-	-
ファミリー・サポート・センター	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
全体	5.6	5.6	7.8	8.1	8:35	8:45	16:40	17:00

(3) 利用している平日の定期的な教育・保育事業の場所

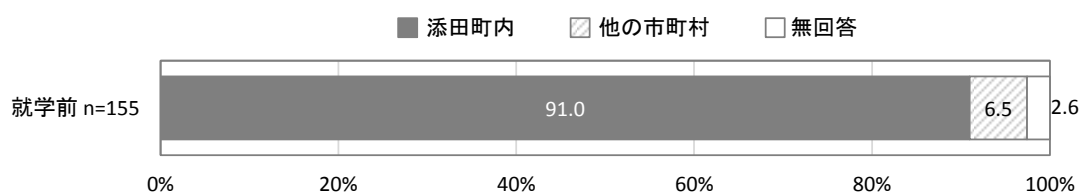
【就学前】

現在、利用している教育・保育事業の実施場所は、「添田町内」が91.2%と大多数を占めています。平成25年度調査と比較しても、大きな差はみられません。

■利用している平日の定期的な教育・保育事業の場所



■利用している平日の定期的な教育・保育事業の場所 (H25 年度)



(4) 平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由

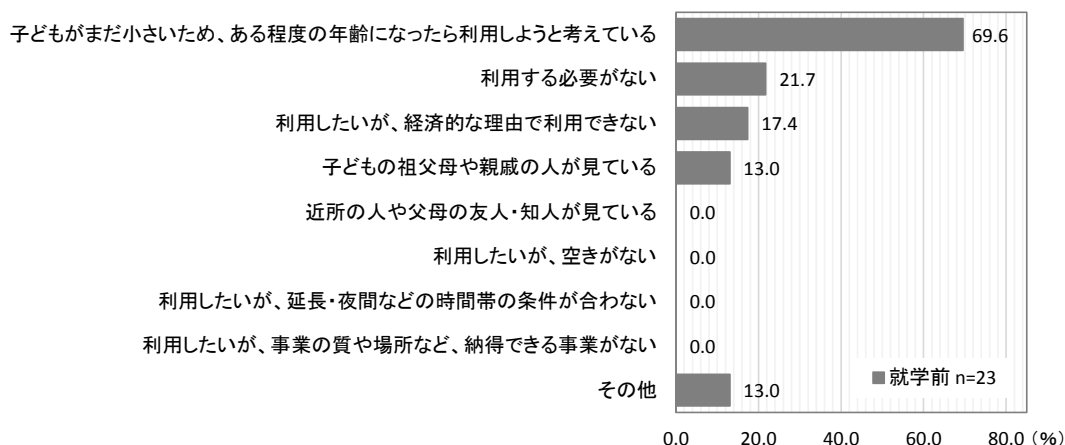
【就学前】

現在、教育・保育事業を利用していない理由としては、「子どもがまだ小さいため、ある程度の年齢になったら利用しようと考えている」という回答が69.6%と多くなっています。次いで「利用する必要がない」(21.7%)、「利用したいが、経済的な理由で利用できない」(17.4%)、「子どもの祖父母や親戚の人が見ている」(13.0%)の順に続きます。

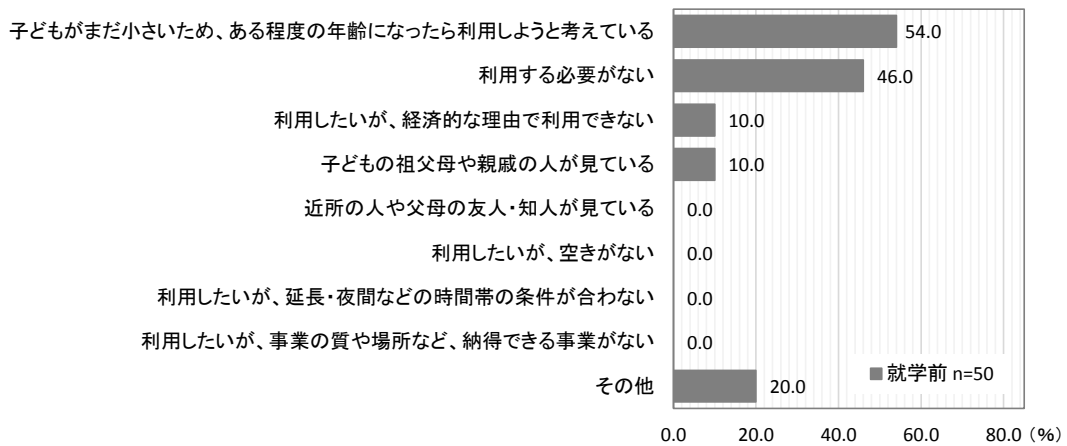
利用意向はあるものの、子どもが小さいことや経済的理由などの理由で利用していない人が多くみられます。

また、平成25年度調査と比較すると、理由の序列に違いはみられませんが、子どもが小さいことや経済的理由で利用していない人は増えている一方で、利用する必要がないと考える人は半分以下となっており、利用意向は高まっていると考えられます。

■平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由(複数回答)

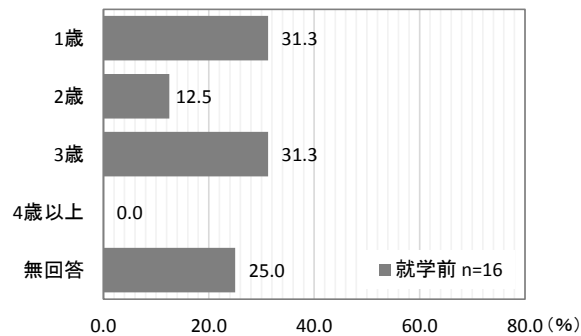


■ 平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由（複数回答）（H25 年度）



また、「子どもがまだ小さいため、ある程度の年齢になったら利用しようと考えている」と回答した人に、子どもが何歳になったら定期的な教育・保育事業を利用したいか尋ねたところ、「1歳」と「3歳」が31.3%と最も高くなっています。

■ 子どもが何歳になったら利用したいか



(5) 定期的に利用したい平日の教育・保育事業

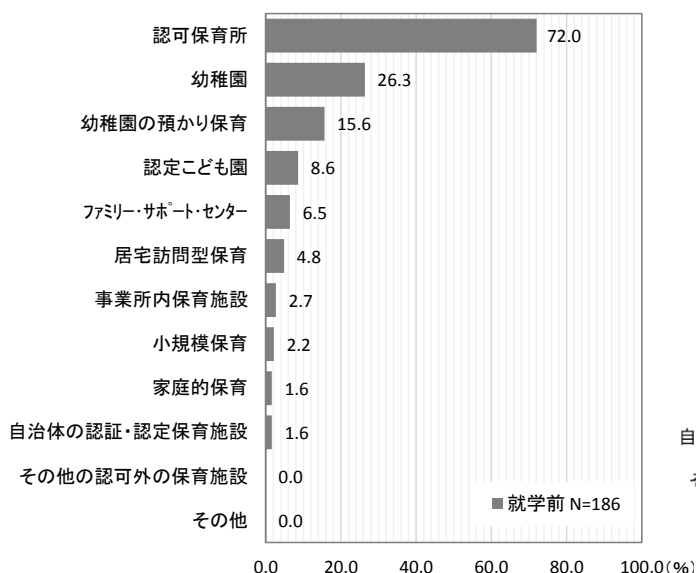
【就学前】

現在の利用状況にかかわらず、今後、定期的に利用したい平日の教育・保育事業は、就学前児童全体で「認可保育所」が72.0%と最も高く、次いで「幼稚園」(26.3%)、「幼稚園の預かり保育」(15.6%)と続きます。現在町では実施していない「認定こども園」(8.6%)や「ファミリー・サポート・センター」(6.5%)、「居宅訪問型保育」(4.8%)など、一定の希望がみられます。

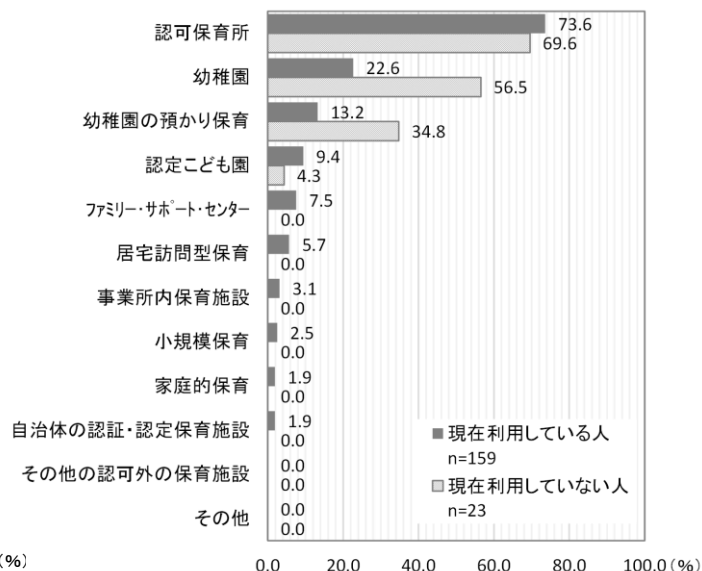
また、現在事業を利用している人に比べて、利用していない人の方が「幼稚園」(56.5%)や「幼稚園の預かり保育」(34.8%)を希望する割合が2倍以上高くなっています。

平成25年度調査と比較すると、「認可保育所」と「居宅訪問型保育」以外の項目で、利用を希望する割合は減少しています。

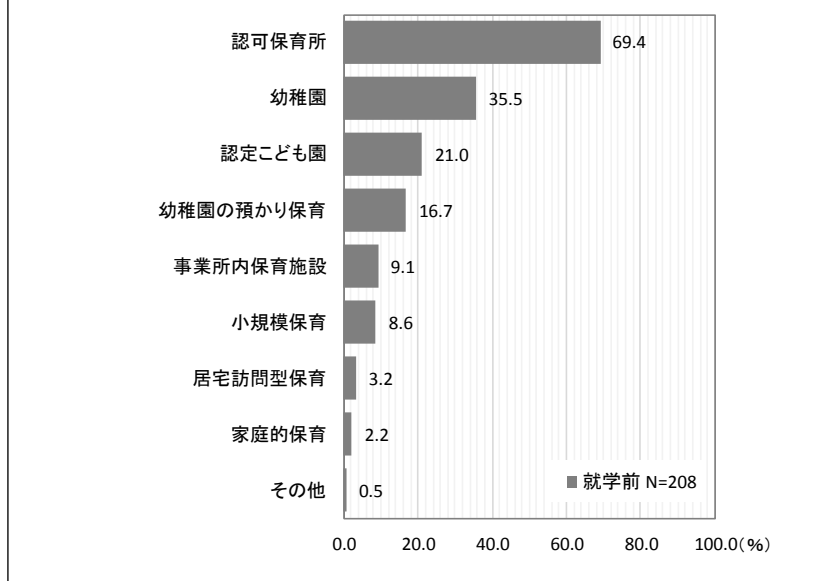
■定期的に利用したい平日の教育・保育事業(複数回答)



■定期的に利用したい平日の教育・保育事業(事業利用の有無別)(複数回答)



■定期的に利用したい平日の教育・保育事業(複数回答)(H25年度)

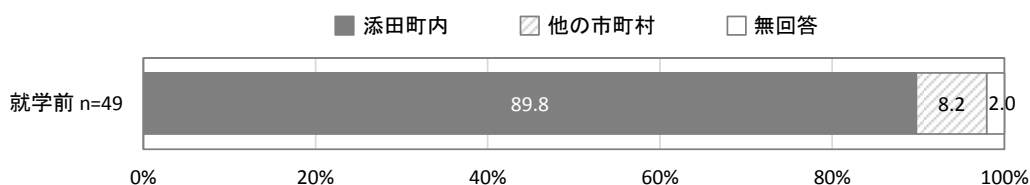


(6) 利用したい平日の定期的な教育・保育事業の場所

【就学前】

利用したい教育・保育事業の実施場所は、「添田町内」が89.8%と多くを占めていますが、「他の市町村」という回答も8.2%みられます。

■利用したい平日の定期的な教育・保育事業の場所

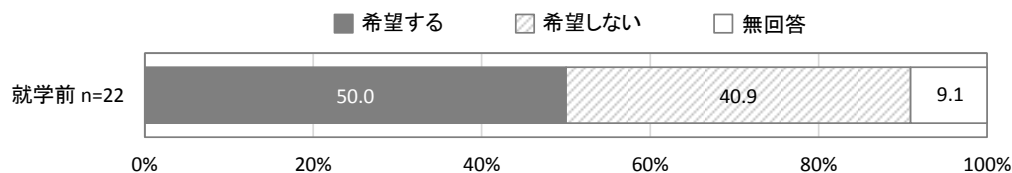


(7) 幼稚園の利用意向

【就学前】

利用したい教育・保育事業のうち、特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望するか尋ねたところ、「希望する」という回答が50.0%、「希望しない」が40.9%と希望する割合がやや高くなっています。

■幼稚園の利用を希望するか



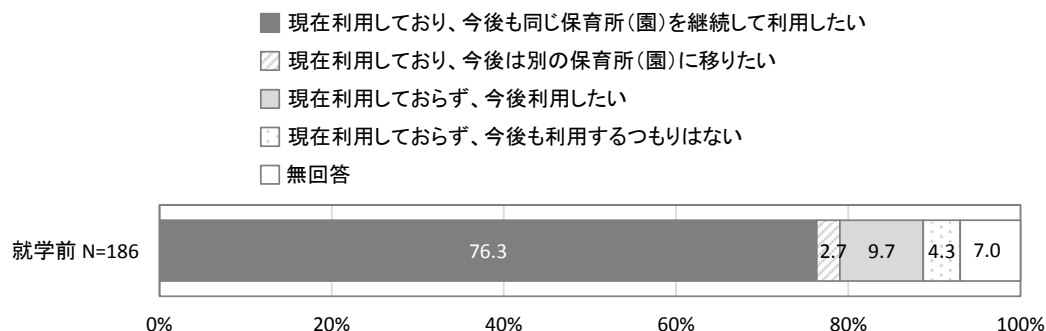
(8) 保育所の利用状況と意向

【就学前】

1) 保育所の利用状況と意向

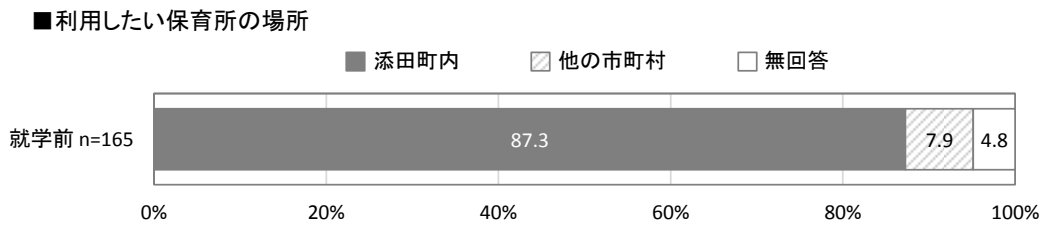
現在の保育所の利用状況と意向については「現在利用しており、今後も同じ保育所（園）を継続して利用したい」が76.3%と大半を占めており、「現在利用しており、今後は別の保育所（園）に移りたい」（2.7%）を合わせた79.0%の人が保育所（園）を利用しています。また、「現在利用しておらず、今後利用したい」が9.7%、「現在利用しておらず、今後利用するつもりはない」が4.3%となっています。

■保育所の利用状況と意向



2) 今後利用したい保育所の場所

今後、保育所（園）の利用意向がある人の中で、利用したい保育所の場所については「添田町内」が87.3%と大半を占めており、「他の市町村」が7.9%となっています。



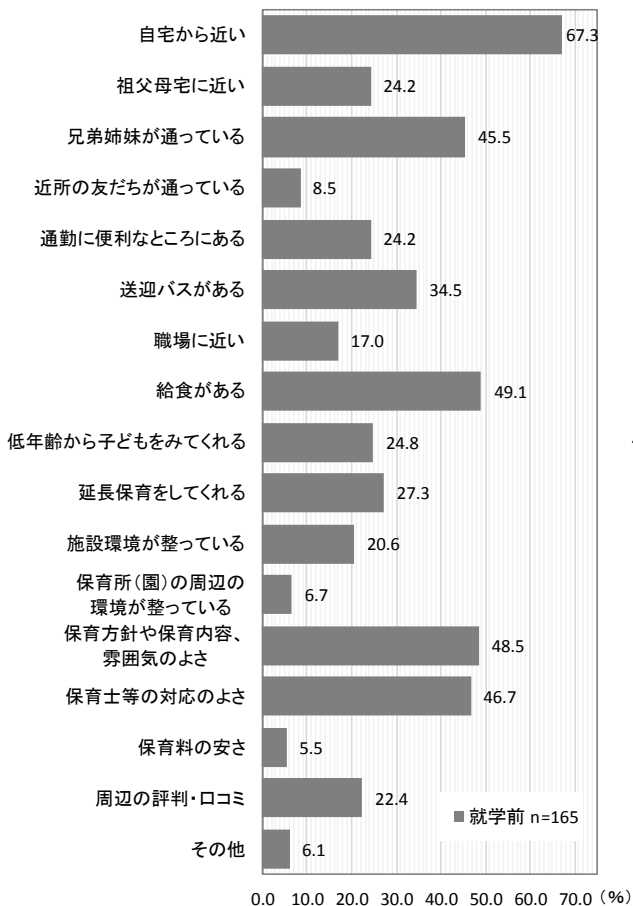
3) 保育所を選ぶ条件

現在、保育所（園）を利用している人がその施設を選んだ条件は、「自宅から近い」が67.3%と最も高く、次いで「給食がある」(50.3%)、「兄弟姉妹が通っている」「保育方針や、雰囲気よさ」「保育士等の対応よさ」(49.0%)の順に続きます。

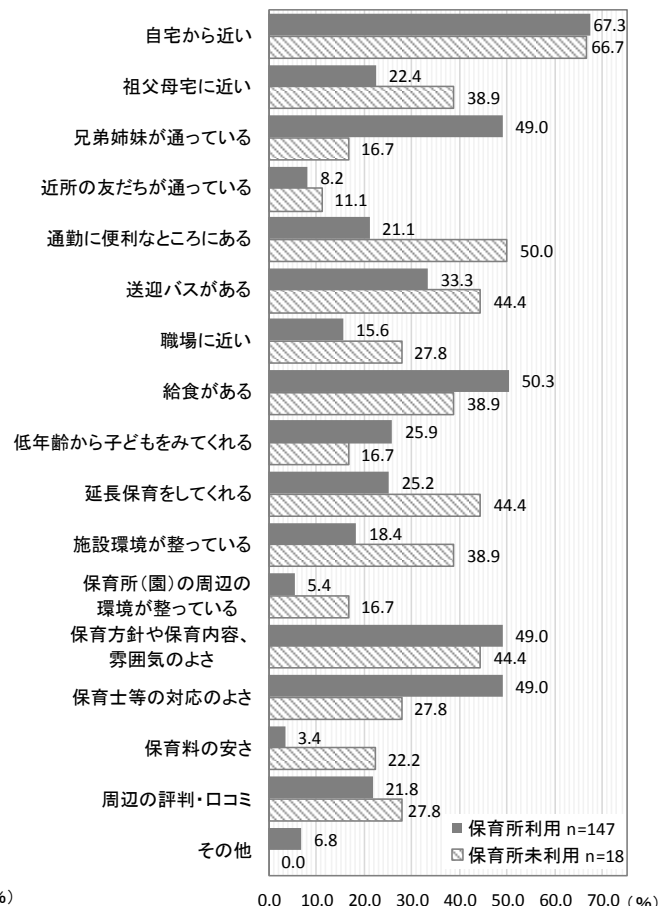
現在、保育所（園）を利用しておらず、今後利用意向のある人が施設を選ぶ条件は「自宅から近い」が66.7%と最も高く、次いで「通勤に便利なところにある」(50.0%)、「送迎バスがある」「延長保育をしてくれる」「保育方針や、雰囲気よさ」(44.4%)の順に続きます。

現在、保育所（園）を利用している人としていない人では、施設選びの条件に差がみられ、利用している人では保育所（園）が提供する保育サービスの質などを重視する傾向がみられます。また、利用していない人では、保護者の就労状況に沿った条件であることを重視していることがうかがえます。

■ 保育所を選ぶ条件(複数回答)



■ 保育所を選ぶ条件(事業利用の有無別)(複数回答)



6. 幼児教育・保育無償化について

※2019年10月から「幼児教育・保育無償化」が実施予定であることから、保育所、幼稚園、認定こども園の利用料が無償化された場合の、事業の利用意向を尋ねました。

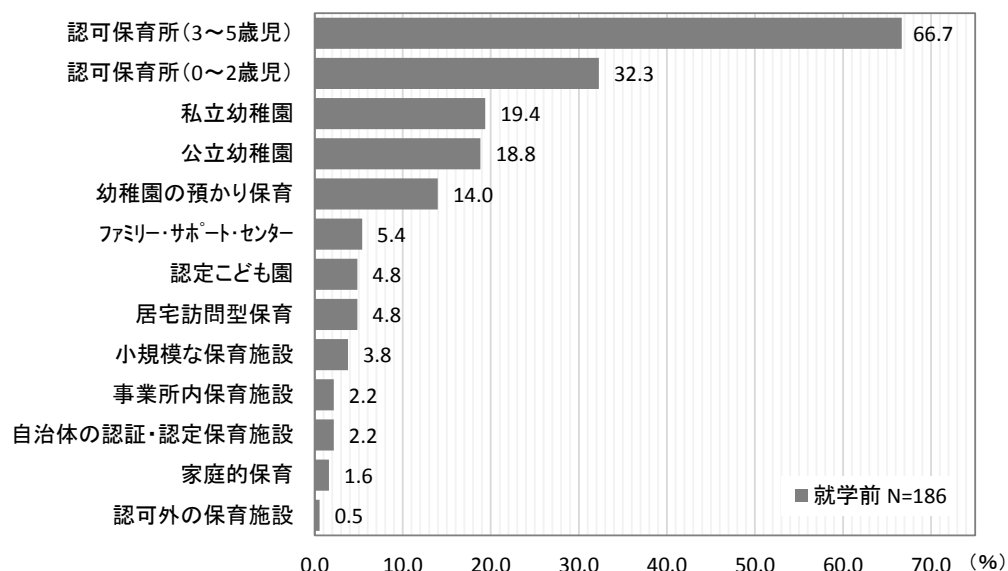
(1) 無償化の場合、定期的に利用したい事業

【就学前】

現在の利用状況にかかわらず、幼児教育・保育無償化が実施された場合、定期的に利用したい教育・保育事業を尋ねたところ、「認可保育所（3～5歳児）」が66.7%と突出して高くなっており、次いで「認可保育所（0～2歳児）」（32.3%）、「私立幼稚園」（19.4%）、「公立幼稚園」（18.8%）、「幼稚園の預かり保育」（14.0%）の順に続きます。現在利用されている事業と同様の傾向がみられます。

また、現在本町で実施していない「ファミリー・サポート・センター」や「認定こども園」「居宅訪問型保育」もわずかではありますが、利用意向がみられます。

■ 無償化の場合、定期的に利用したい事業（複数回答）



7. 地域の子育て支援事業の利用

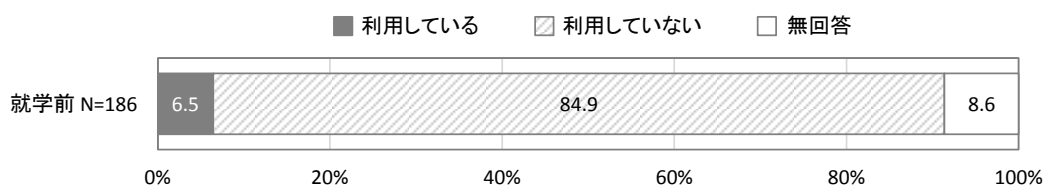
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用状況

【就学前・小学生】

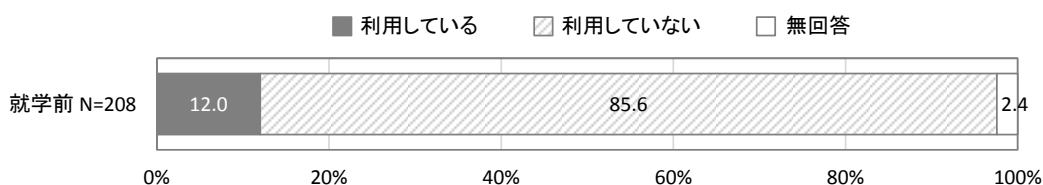
地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）の利用について、就学前児童では「利用していない」が84.9%と多くを占めており、「利用している」と回答したのは6.5%と少なくなっています。また、平成25年度調査と比較すると、「利用している」という割合は約半分となっています。また、利用している人のうち、「地域子育て支援拠点事業を利用している」が5.9%、「その他当該自治体で実施している類似の事業を利用している」が1.1%となっています。

小学生児童においても、「利用していない」が82.0%と多く、「利用している」という割合は13.6%となり、就学前児童と比べると利用は多くなっています。また、利用している人のうち、「地域子育て支援拠点事業を利用している」が9.5%、「その他当該自治体で実施している類似の事業を利用している」が4.1%となっております。

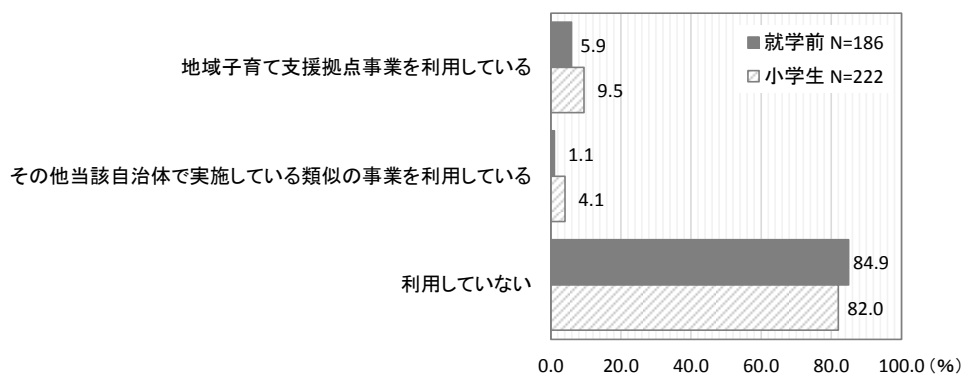
■ 地域子育て支援拠点事業の利用状況(就学前)



■ 地域子育て支援事業の利用状況(H25年度)



■ 地域子育て支援拠点事業の利用状況(複数回答)

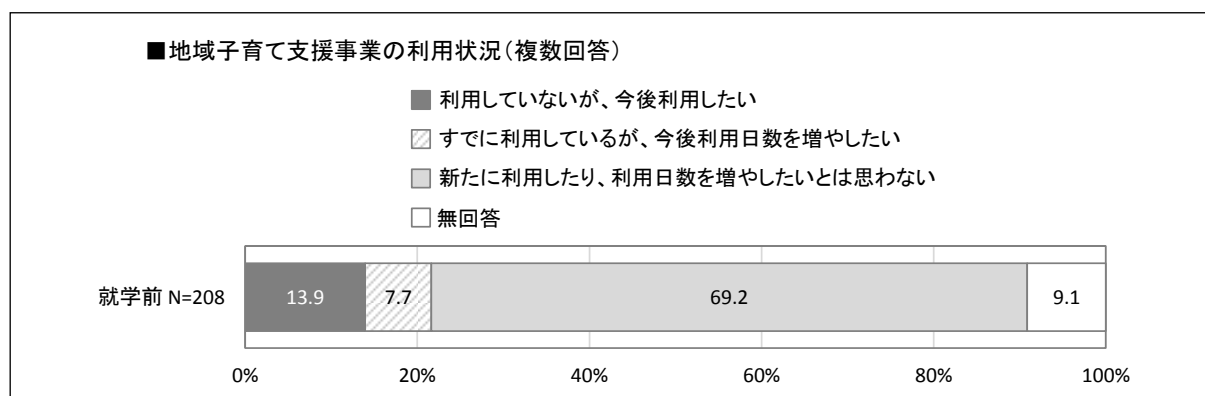
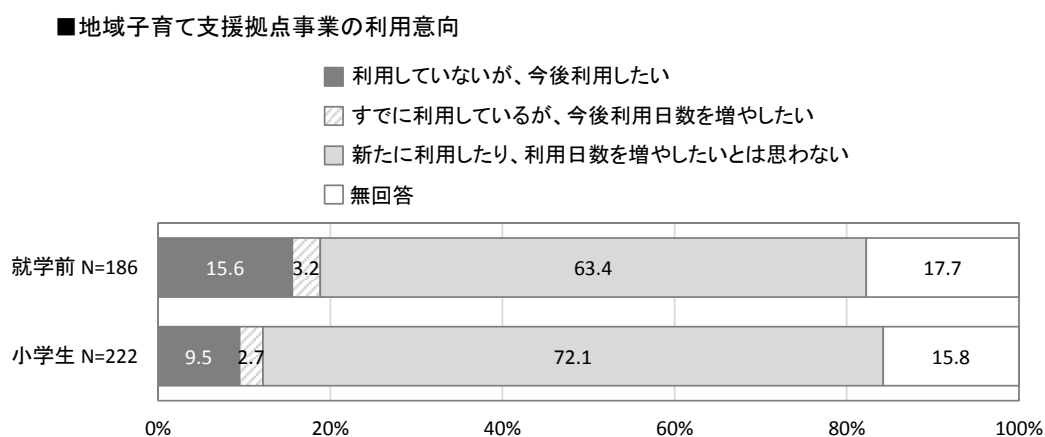


(2) 地域子育て支援拠点事業の利用意向

【就学前・小学生】

地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター）の利用意向については、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が最も高く、就学前児童で63.4%、小学生児童で72.1%となっています。利用意向のある人は、就学前児童で18.8%、小学生児童で12.2%となっており、就学前児童の方が利用意向は高いことがうかがえます。

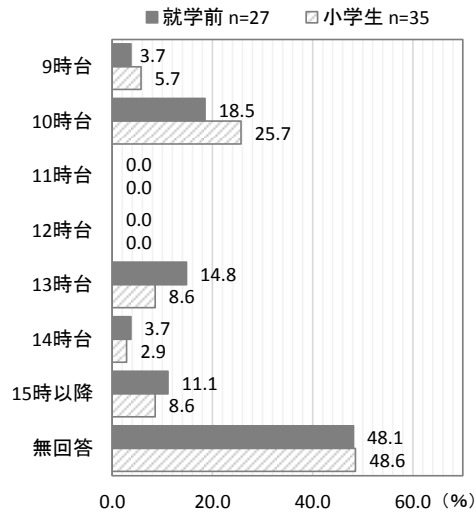
平成25年度調査と比較すると、就学前児童では「利用していないが、今後利用したい」と回答した人は増えていますが、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と回答した人は減少しています。



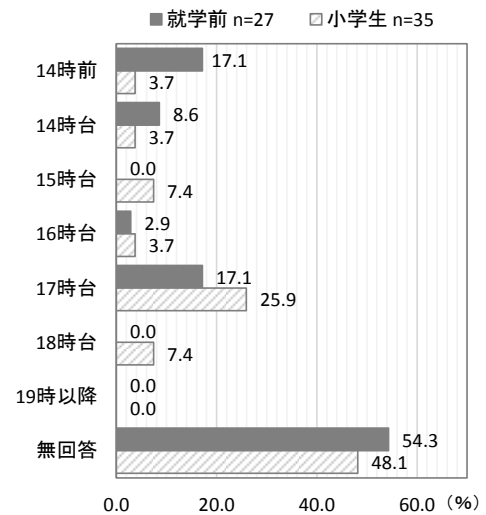
地域子育て支援拠点事業を今後利用したい、利用回数を増やしたいと考える人が希望する利用開始時間帯は「10 時台」が最も高く、就学前児童で 18.5%、小学生児童で 25.7%となっています。

希望する利用終了時間帯は、「17 時台」が最も高く、就学前児童では 17.1%、小学生児童では 25.9%となっており、就学前児童では同率で「14 時前」という回答もみられます。

■ 利用を開始したい時間帯



■ 利用を終了したい時間帯



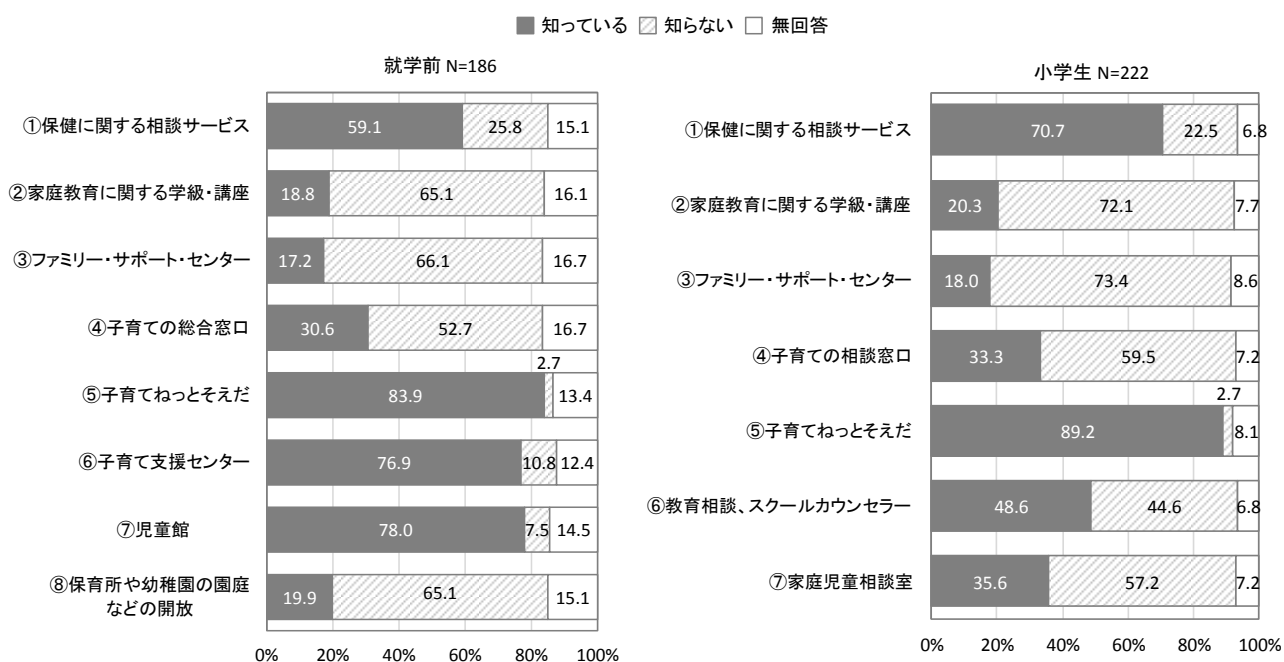
(3) 地域子育て支援事業の認知度・利用状況・利用意向

【就学前・小学生】

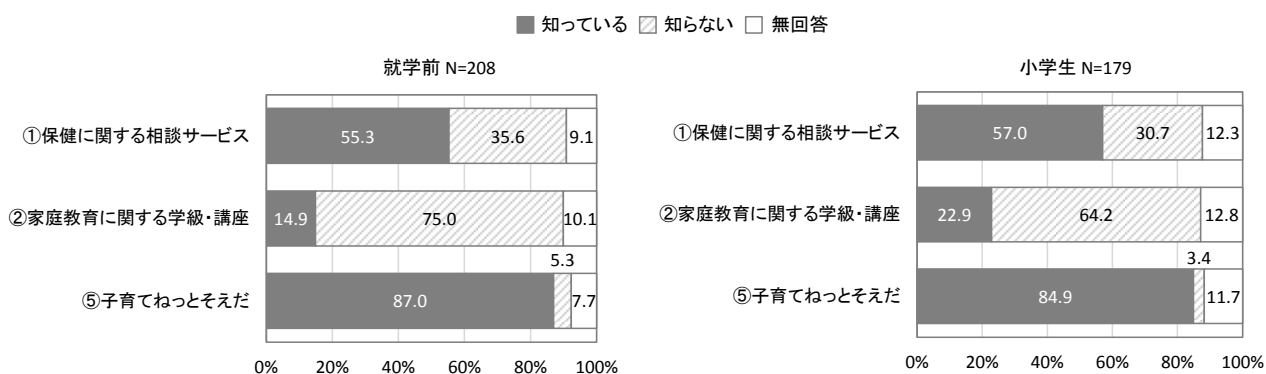
地域子育て支援事業の各事業・サービスの認知度について、「知っている」という回答は【⑤子育てねっとそえだ】が最も高く、就学前児童で83.9%、小学生児童で89.2%と認知度は高い状況にあります。次いで、就学前児童では【⑦児童館】(78.0%)【⑥子育て支援センター】(76.9%)、小学生児童では【①保健に関する相談サービス】(70.7%)、【⑥教育相談、スクールカウンセラー】(48.6%)の順に続きます。

また、就学前児童、小学生児童ともに【③ファミリー・サポート・センター】を「知らない」と回答した割合が最も高くなっています。

■地域子育て支援事業の認知度



■地域子育て支援事業の認知度(H25年度)

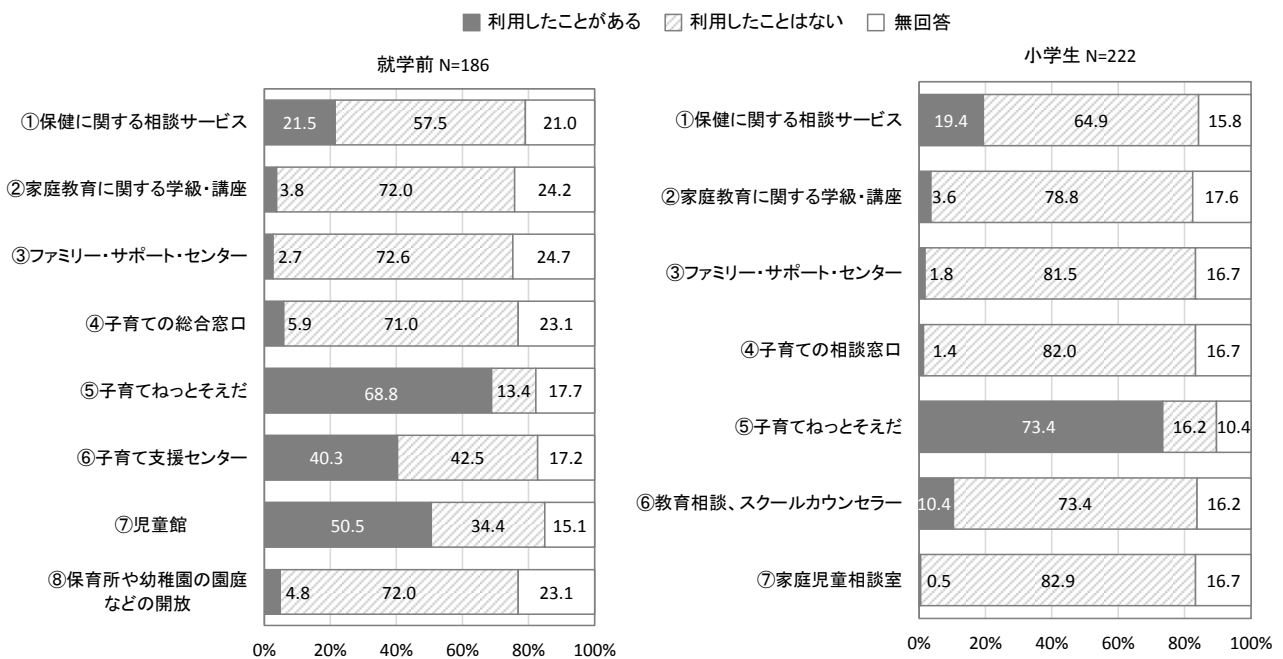


地域子育て支援事業の各事業・サービスの利用状況について、「利用したことがある」という回答は【⑤子育てねっとそえだ】が最も高く、就学前児童で68.8%、小学生児童で73.4%と他の事業・サービスに比べてかなり高くなっています。次いで、就学前児童では【⑦児童館】(50.5%)、【⑥子育て支援センター】(40.3%)、小学生児童では【①保健に関する相談サービス】(19.4%)、【⑥教育相談、スクールカウンセラー】(10.4%)の順に続きます。

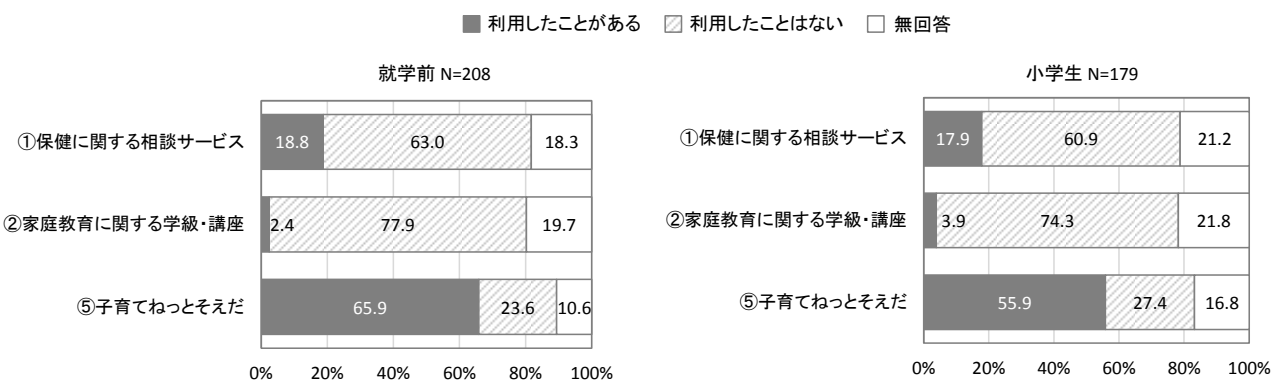
就学前児童、小学生児童ともに【①保健に関する相談サービス】の認知度は6~7割程度みられるものの、「利用したことがある」という割合は2割程度に留まっています。

また、平成25年度調査と比較すると、【①保健に関する相談サービス】【②家庭教育に関する学級・講座】を「利用したことがある」とする割合は同程度となっており、利用促進に向けた普及・啓発が必要と考えられます。

■地域子育て支援事業の利用状況



■地域子育て支援事業の利用状況(H25年度)

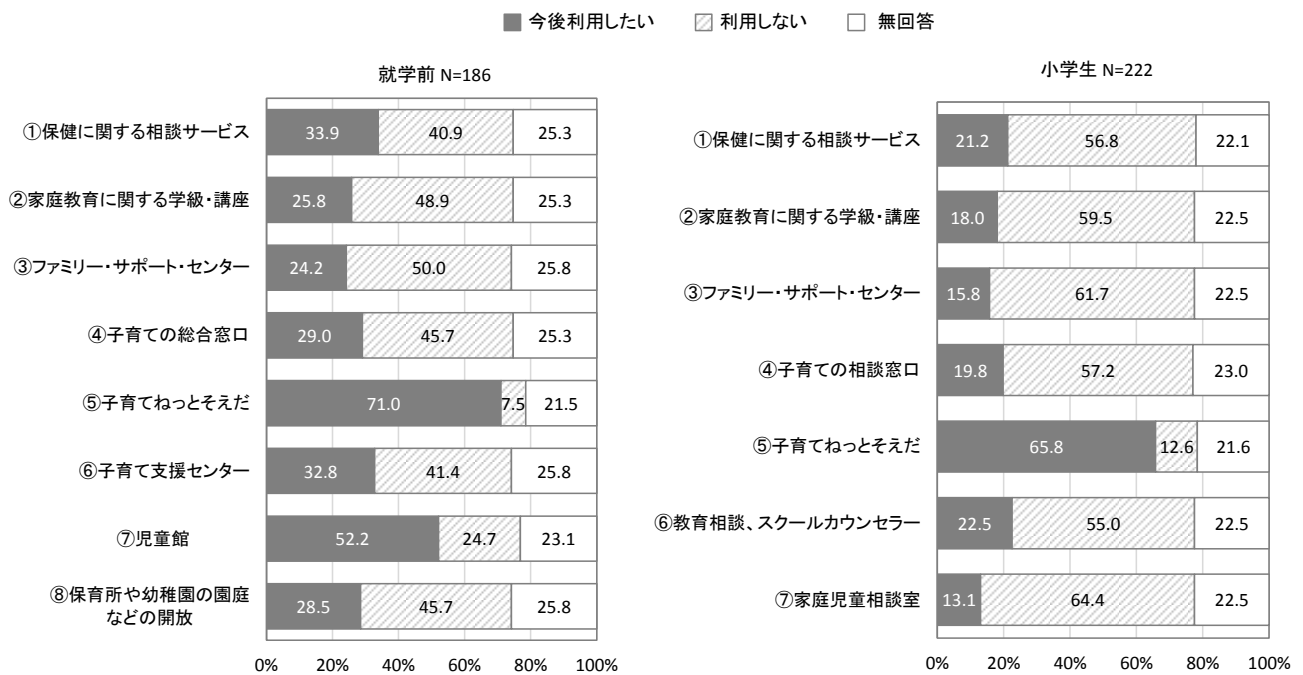


地域子育て支援事業の各事業・サービスの利用意向について、「今後利用したい」という回答は【⑤子育てねっとそえだ】が最も高く、就学前児童で71.0%、小学生児童で65.8%と他の事業・サービスに比べてかなり高くなっています。次いで、就学前児童では【⑦児童館】(52.2%)、【①保健に関する相談サービス】(33.9%)、小学生児童では【⑥教育相談、スクールカウンセラー】(22.5%)、【①保健に関する相談サービス】(21.2%)の順に続きます。

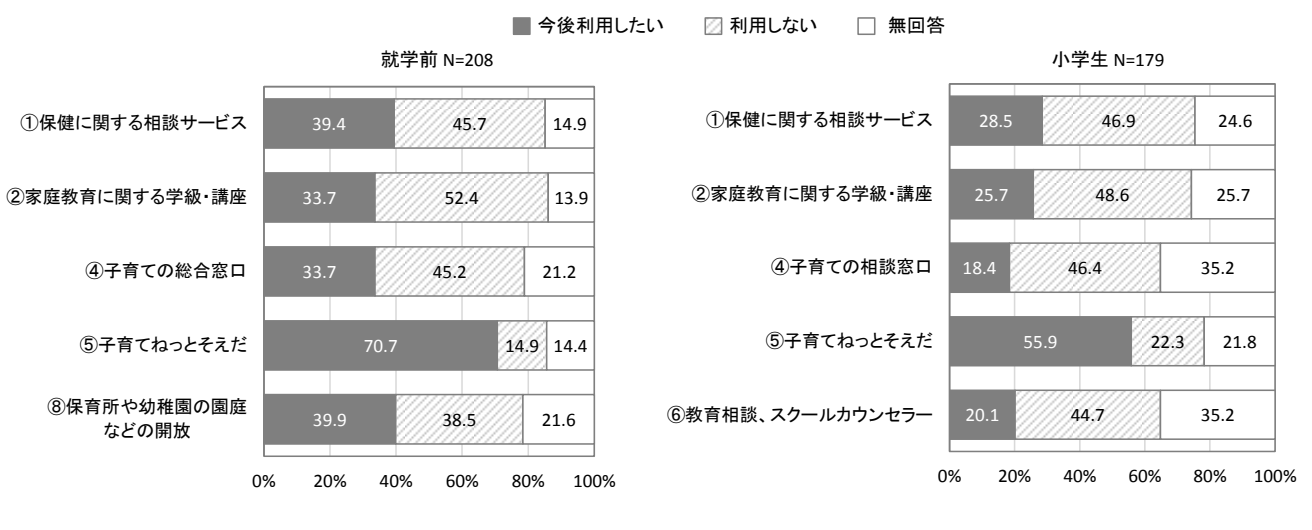
【①保健に関する相談サービス】【②家庭教育に関する学級・講座】【③ファミリー・サポート・センター】の利用意向は、就学前児童の方が小学生児童よりも高くなっています。

平成25年度調査と比較すると、【⑤子育てねっとそえだ】は、利用したことがある人、利用意向は増加しており、サービスが幅広く浸透していることがわかります。

■地域子育て支援事業の利用意向



■地域子育て支援事業の利用意向(H25年度)



8. 土曜、日曜・祝日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用

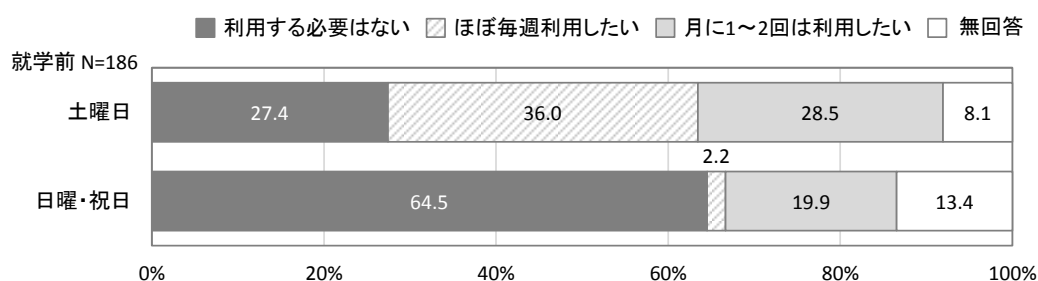
(1) 土曜、日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向

【就学前】

土曜の定期的な教育・保育事業の利用意向については「ほぼ毎週利用したい」が36.0%と最も高く、次いで「月に1~2回は利用したい」(28.5%)となっています。利用意向のある人(「ほぼ毎週利用したい」と「月に1~2回は利用したい」)は64.5%と多くなっています。

日曜・祝日の利用意向については「利用する必要はない」が64.5%と大半を占めています。利用意向のある人(「ほぼ毎週利用したい」と「月に1~2回は利用したい」)は22.1%となっており、土曜の利用意向の半分以下となります。日曜・祝日は、保護者などが自宅で子どもをみれる環境があるため、利用意向は低いと推察されます。

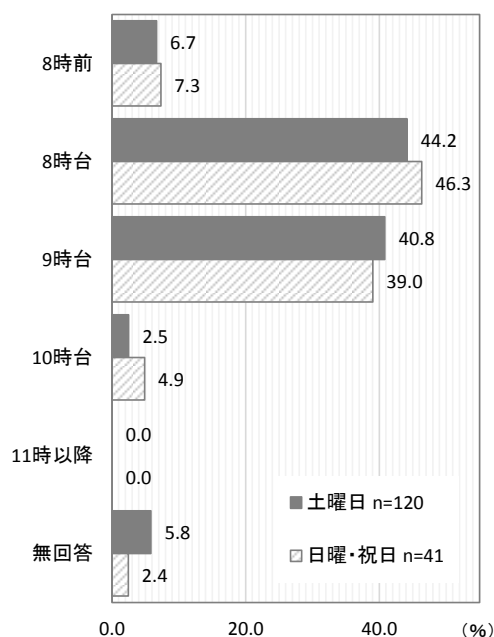
■土曜、日曜・祝日に定期的な教育・保育事業の利用意向



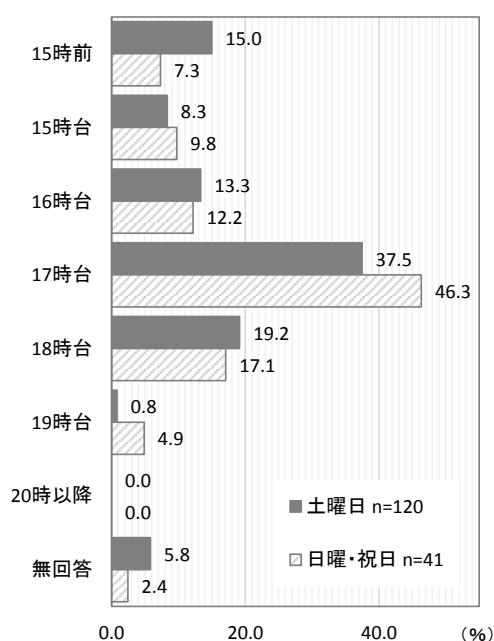
利用意向のある人が希望する利用開始時間帯は、土曜、日曜・祝日のいずれにおいても「8時台」が最も高く、次いで「9時台」となっています。

利用終了時間帯は「17時台」が最も高く、次いで「18時台」となっています。また、日曜・祝日の利用意向がある人では「17時台」の割合が46.3%と高くなっています。

■利用を開始したい時間帯



■利用を終了したい時間帯

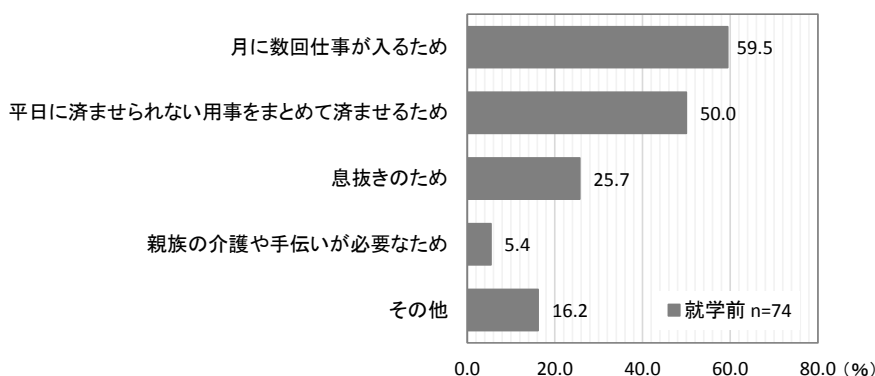


(2) 不定期に教育・保育事業を利用したい理由

【就学前】

土曜もしくは日曜・祝日に、教育・保育事業をたまに利用したい理由は「月に数回仕事が入るため」と回答した人が59.5%と最も多く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(50.0%)、「息抜きのため」(25.7%)の順に続きます。事業利用の理由は、就労や保護者の用事を済ませるためと考えている人が多くなっています。

■不定期に教育・保育事業のを利用したい理由(複数回答)

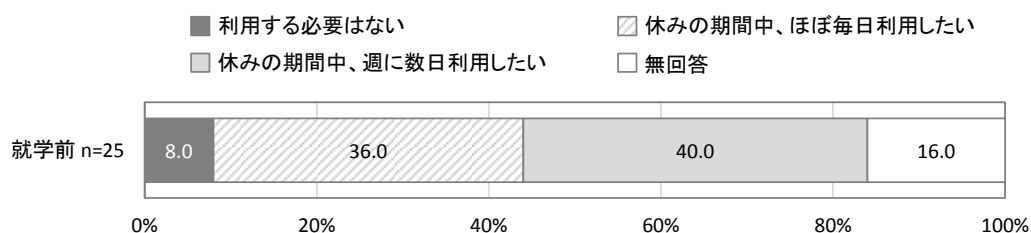


(3) 長期休暇中の教育・保育事業の利用意向(幼稚園利用者)

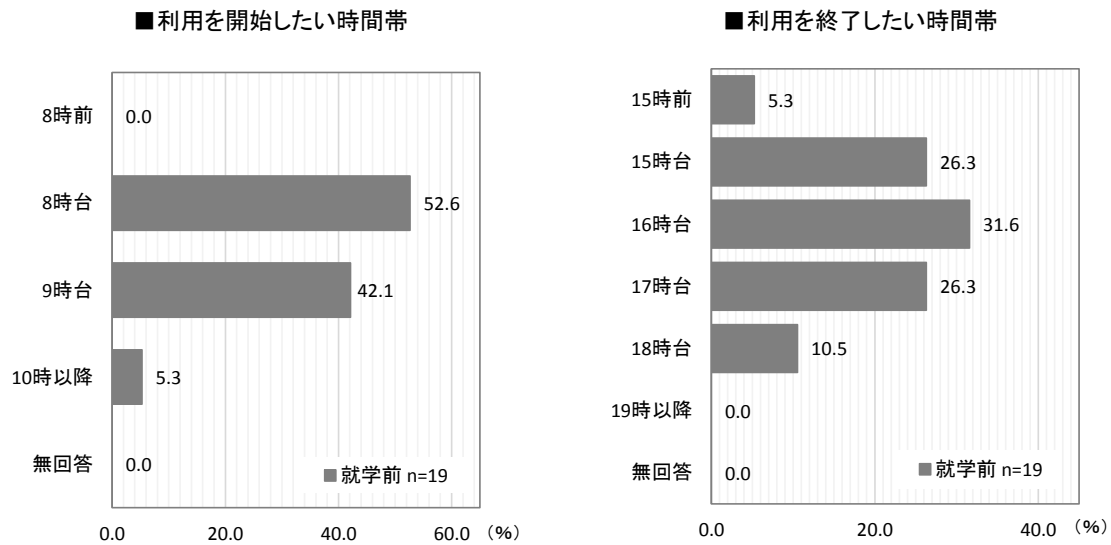
【就学前】

幼稚園利用者で、夏休み・冬休みなど長期休暇期間中の教育・保育事業の利用意向については「休みの期間中、週に数回利用したい」が40.0%と最も高く、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」(36.0%)を合わせた76.0%に利用意向がみられます。「利用する必要はない」という回答は8.0%とわずかとなり、利用意向は高いことがうかがえます。

■長期休暇中の教育・保育事業の利用意向(幼稚園利用者)



長期休暇期間中に利用意向のある人が希望する利用開始時間帯は、「8時台」が52.6%と最も高く、次いで「9時台」(42.1%)となっています。また、希望する利用終了時間帯は「16時台」が31.6%と最も高く、次いで「15時台」「17時台」(26.3%)となっています。

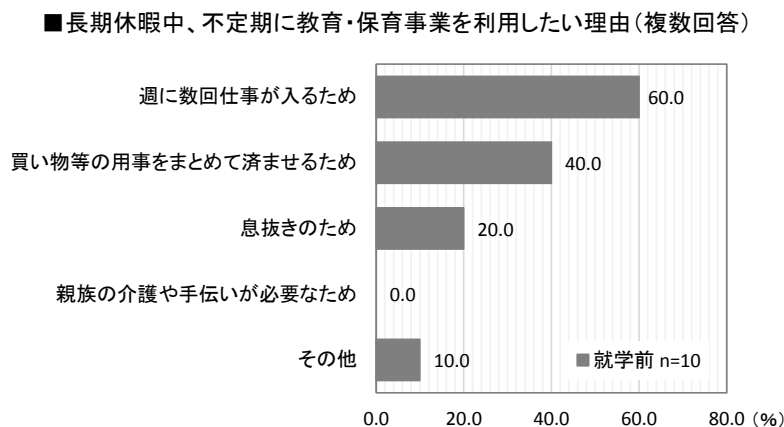


(4) 長期休暇中、不定期に教育・保育事業を利用したい理由

【就学前】

長期休暇中、教育・保育事業をたまに利用したい理由として「週に数回仕事が入るため」と回答した人が60.0%と最も多く、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」(40.0%)、「息抜きのため」(20.0%)の順に続きます。

土曜日、日曜・祝日同様に、就労や保護者の用事を済ませるためと考えている人が多くなっています。



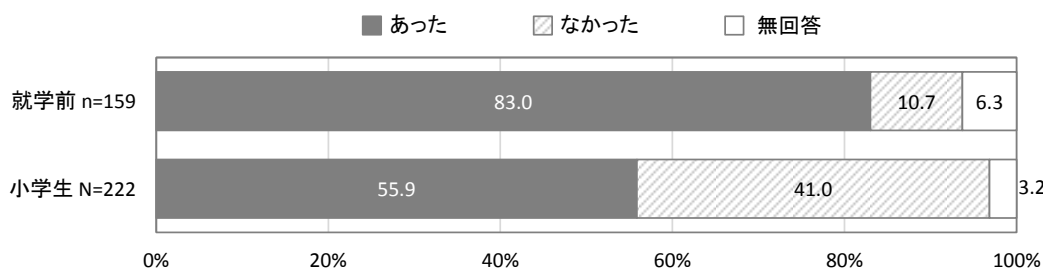
9. 病気になった時の対応

(1) 子どもが病気になった時の対応

【就学前・小学生】

子どもが病気やけがで、平日の定期的な教育・保育事業や小学校を休まなければならなかったことが「あった」という割合は、就学前児童で83.0%、小学生児童で55.9%となっており、特に就学前児童でその傾向が多いことがうかがえます。

■ 子どもが病気になった時に、幼稚園・保育所や小学校を休んだことがあるか



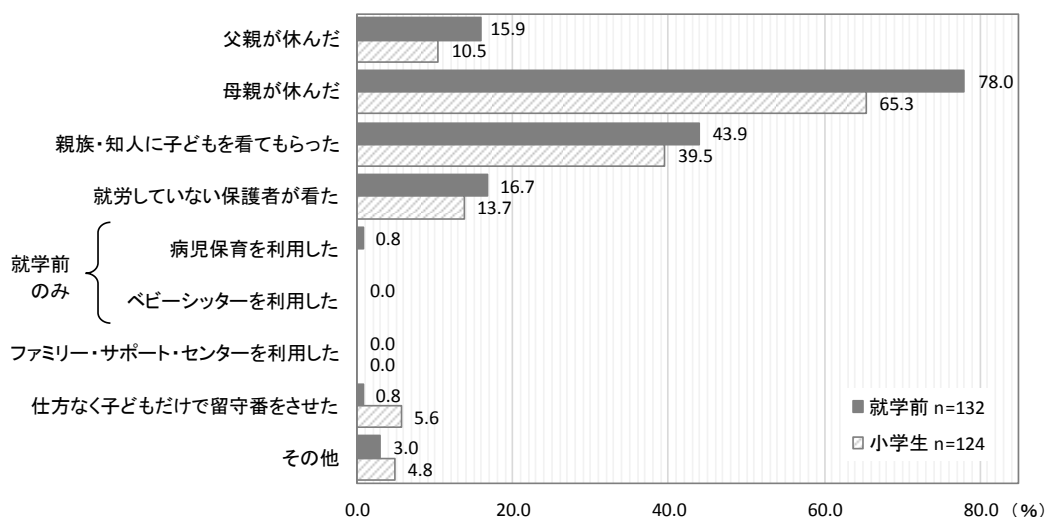
通常の教育・保育事業や小学校を休まなければならなかった場合の対処方法としては、「母親が休んだ」が就学前児童で78.0%、小学生児童で65.3%と最も多く、次いで「親族・知人に子どもを看てもらった」(就学前児童43.9%、小学生児童39.5%)となっており、父親が休むより母親や親族・知人が看ることが多くなっています。

就学前児童では、「父親が休んだ」「母親が休んだ」「親族・知人に子どもを看てもらった」「就労していない保護者が見た」という回答が小学生児童よりも多く、「病児保育を利用した」という回答は0.8%とかなり少なくなっています。

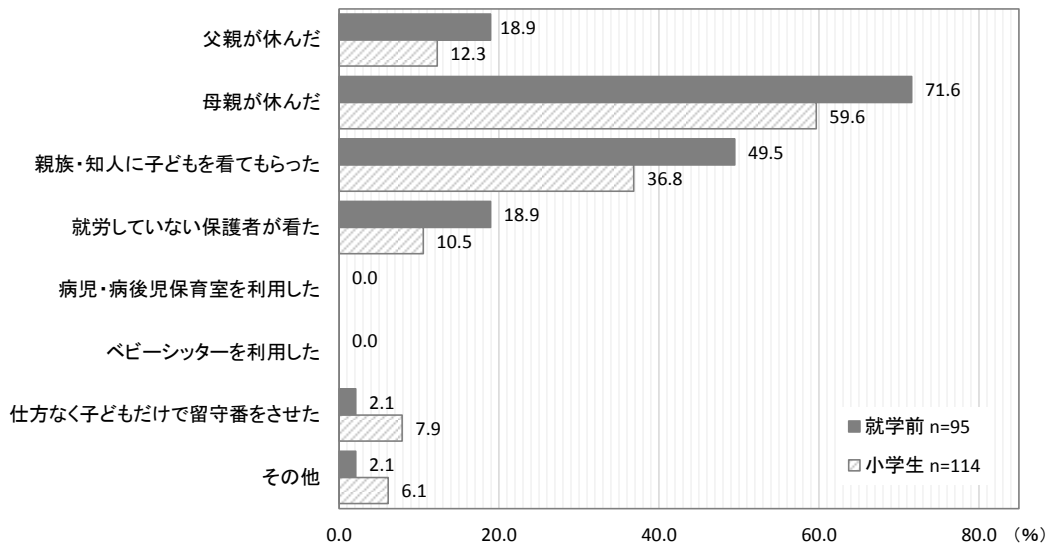
小学生児童では、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」という割合が、就学前児童よりも多くみられます。

平成25年度調査と比較すると、就学前児童、小学生児童ともに「父親が休んだ」「親族・知人に子どもを看てもらった」「就労していない保護者が見た」という割合がいずれも減少し、「母親が休んだ」が増加しています。

■ 子どもが病気になった時の対処法(複数回答)



■子どもが病気になった時の対処法(複数回答)(H25年度)



対処方法の年間日数については、就学前児童では「母親が休んだ」が平均9.2日、「就労していない保護者が見た」が平均6.4日、「親族・知人に子どもを看てもらった」が平均6.8日となっています。小学生児童では「就労していない保護者が見た」が平均4.9日、「母親が休んだ」が平均4.6日、「親族・知人に子どもを看てもらった」が平均4.3日となっています。

就学前児童では、「父親が休んだ」日数より「母親が休んだ」日数の方が約6日多くなっています。また、「母親が休んだ」平均日数は、小学生児童より就学前児童の方が約4日多くなっており、就学前児童の場合、母親が休むことが多くなっています。

■子どもが病気になった時に対処した年間日数(平均)

	平均日数(日/年)	
	就学前	小学生
父親が休んだ	3.3	2.1
母親が休んだ	9.2	4.6
親族・知人に子どもを看てもらった	6.8	4.3
就労していない保護者が見た	6.4	4.9
病児保育を利用した	6.0	-
ベビーシッターを利用した	-	-
ファミリー・サポート・センターを利用した	-	-
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	1.0	3.0
その他	3.3	2.2
全体	7.4	2.0

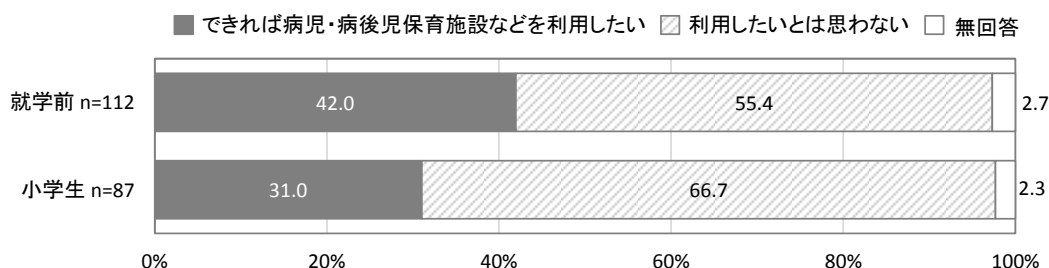
(2) 病児・病後児保育施設の利用意向

【就学前・小学生】

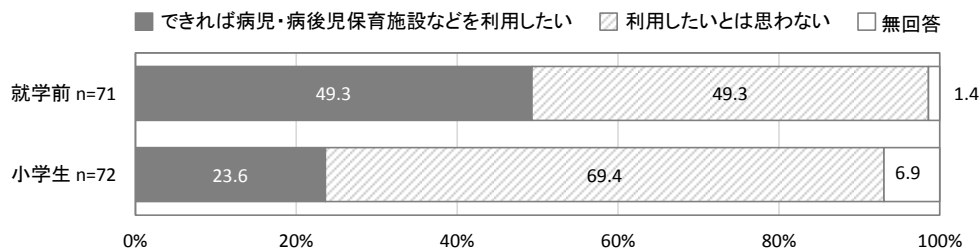
父親もしくは母親が休んだと回答した人のうち、病児・病後児保育施設の利用意向について「利用したいとは思わない」が就学前児童で55.4%、小学生児童で66.7%と高いものの、「できれば病児・病後児保育施設などを利用したい」という割合が、就学前児童では42.0%、小学生児童では31.0%となっており、就学前児童の方が小学生児童に比べて利用したいと考える人が多くなっています。

また、平成25年度調査と比較すると、利用意向がある人は就学前児童では減少し、小学生児童では増加しています。

■ 病児・病後児保育施設を利用したいか



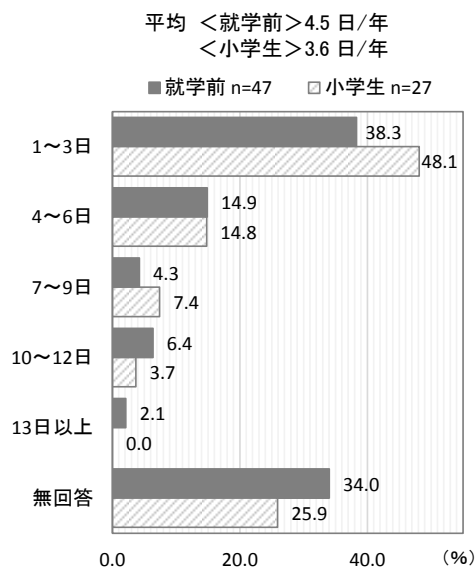
■ 病児・病後児保育施設を利用したいか (H25年度)



病児・病後児保育事業を利用したいと回答した人のうち、希望する年間利用日数は、就学前児童で「1～3日」が38.3%と最も高く、「4～6日」(14.9%)、平均で4.5日となっています。

小学生児童では「1～3日」が48.1%と最も高く、「4～6日」(14.8%)、平均で3.6日となっています。就学前児童の母親では、仕事を休んで看ることが多いため、事業の利用希望日数が多いことも推察されます。

■ 病児・病後児保育施設の年間利用希望日数



(3) 病児・病後児保育施設を利用する場合の望ましい事業形態

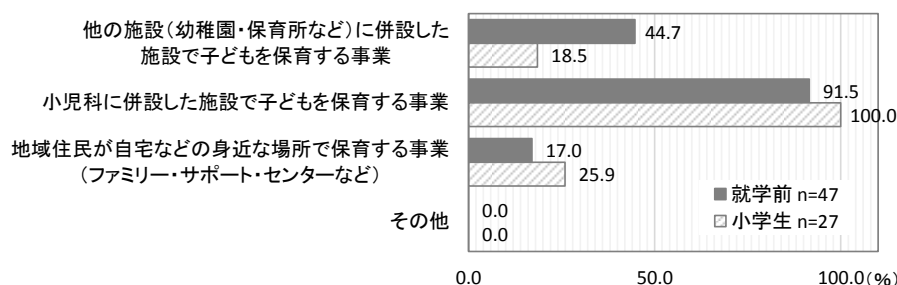
【就学前・小学生】

病児・病後児保育施設を利用したいと回答した人のうち、望ましい事業形態は「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が最も高く、就学前児童で 91.5%、小学生児童で 100.0%、次いで、就学前児童では「他の施設（幼稚園・保育所など）に併設した施設で子どもを保育する事業」（44.7%）が高く、小学生児童では「地域住民が自宅などの身近な場所で保育する事業（ファミリー・サポート・センターなど）」（25.9%）と続きます。

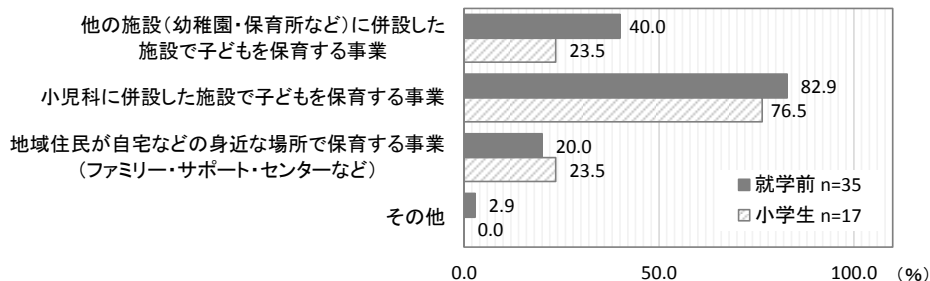
平成 25 年度調査と比較すると、特に小学生児童では「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」の希望が増加しています。

就学前児童、小学生児童の多くが、専門的な医療や看護を受けられる施設等での保育を希望していることがうかがえます。

■病児・病後児保育施設を利用する場合の望ましい事業形態（複数回答）



■病児・病後児保育施設を利用する場合の望ましい事業形態（複数回答）（H25 年度）



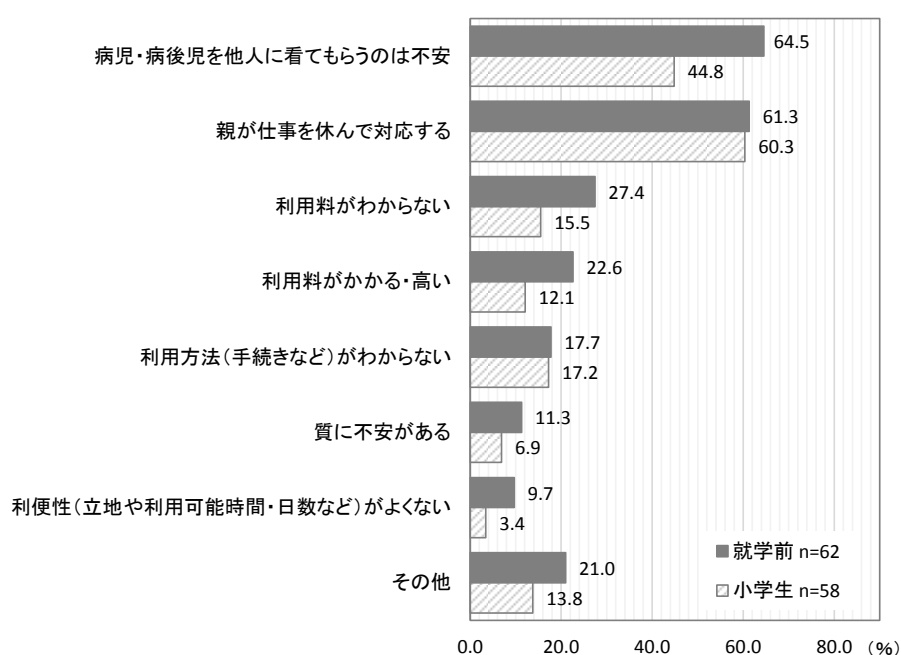
(4) 病児・病後児保育施設を利用しない理由

【就学前・小学生】

病児・病後児保育施設を利用したいと思わない理由として、就学前児童では「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が64.5%と最も高く、次いで「親が仕事を休んで対応する」(61.3%)、「利用料がわからない」(27.4%)と続きます。また、小学生児童では「親が仕事を休んで対応する」が60.3%と最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」(44.8%)、「利用方法(手続きなど)がわからない」(17.2%)の順に続きます。

「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」「利用料がわからない」「利用料がかかる・高い」「質に不安がある」「利便性(立地や利用可能時間・日数など)がよくない」という理由で利用したいと思わない保護者は、特に就学前児童に多くみられます。

■病児・病後児保育施設を利用しない理由(複数回答)

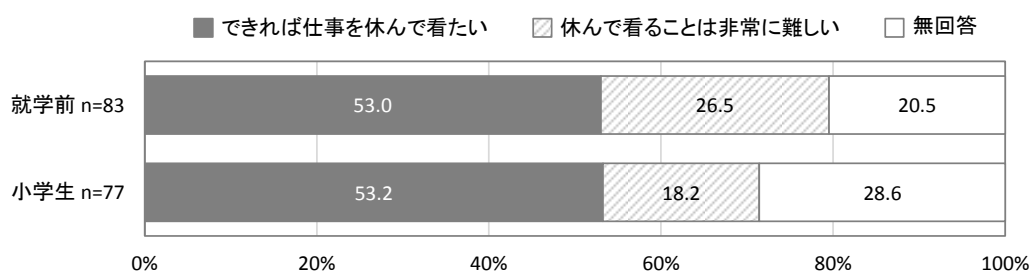


(5) 両親のどちらかが休んで見る意向

【就学前・小学生】

父親または母親が休む以外の対処方法をとった人が、できれば両親のどちらかが仕事を休んで看ることについては「できれば仕事を休んで看たい」が最も高く、就学前児童では53.0%、小学生児童では53.2%となっています。一方、「休んで看ることは非常に難しい」という回答は小学生児童より就学前児童に多くみられます。

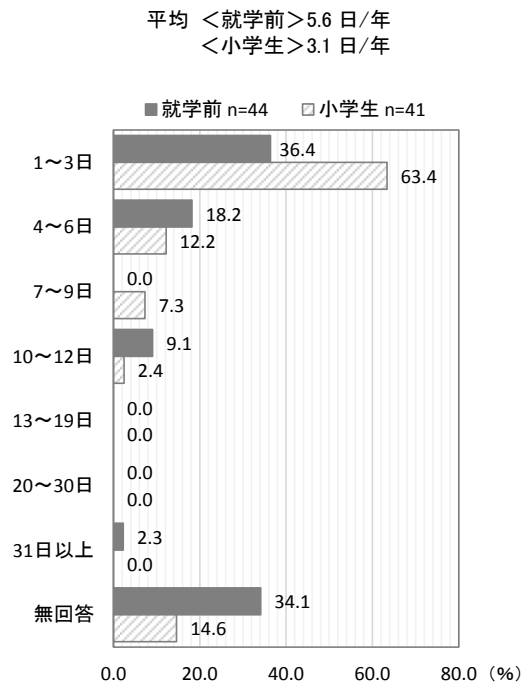
■できれば両親のどちらかが休んで看たいと思ったか



両親のどちらかが仕事を休んで看たいと思った年間日数は、「1～3日」が最も高く、就学前児童では36.4%、小学生児童では63.4%、次いで「4～6日」と続きます。

平均年間日数は、就学前児童で5.6日、小学生児童で3.1日となっています。小学生児童より就学前児童の方が、両親のいずれかが休んで看たいという日数が長くなっています。

■両親のどちらかが休んで看たいと思った年間日数



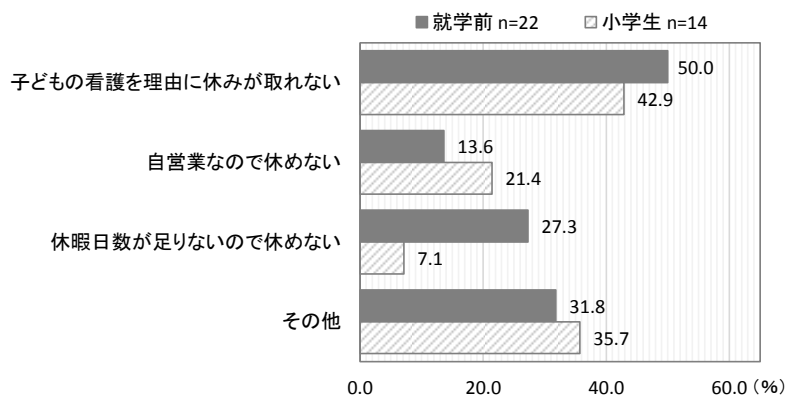
(6) 仕事を休んで看ることが難しい理由

【就学前・小学生】

両親のどちらかが仕事を休んで看することは難しいと考える理由については「子どもの看護を理由に休みが取れない」が最も高く、就学前児童で50.0%、小学生児童で42.9%となっており、特に就学前児童にその傾向が多くみられます。次いで、就学前児童では「休暇日数が足りないので休めない」(27.3%)、小学生児童では「自営業なので休めない」(21.4%)の順に続きます。

「その他」では、「人手不足のため休めない」「職場に負担をかける」「看護休暇に対する理解がない」といった意見があげられています。

■仕事を休んで看ることが難しい理由



10. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用

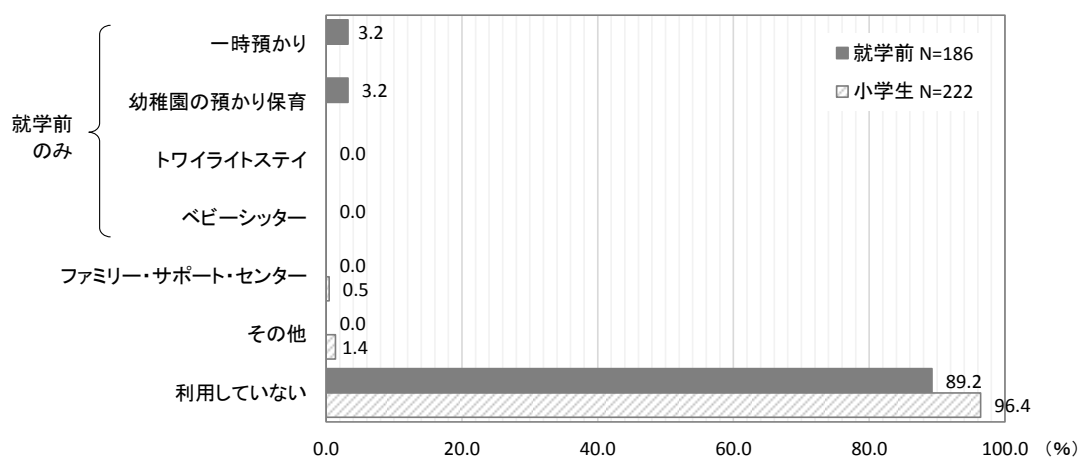
(1) 不定期的な一時預かりの利用状況

【就学前・小学生】

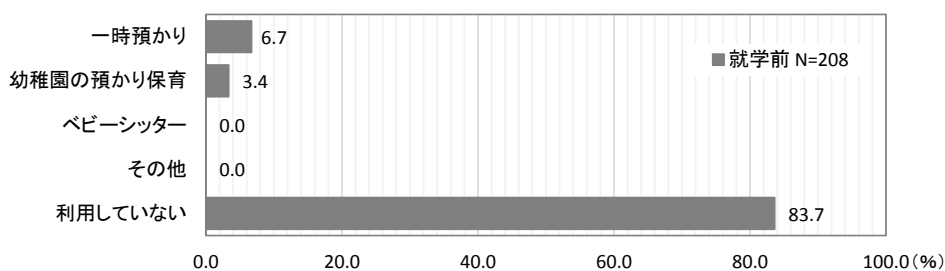
不定期に利用している事業については、就学前児童、小学生児童ともに「利用していない」が多くを占めていますが、就学前児童では「一時預かり」や「幼稚園の預かり保育」(3.2%)の利用もわずかにみられます。

平成25年度調査と比較すると、就学前児童では「一時預かり」「幼稚園の預かり保育」の利用は減少しています。

■ 不定期的な一時預かりの利用状況(複数回答)



■ 不定期的な一時預かりの利用状況(複数回答)(H25年度)

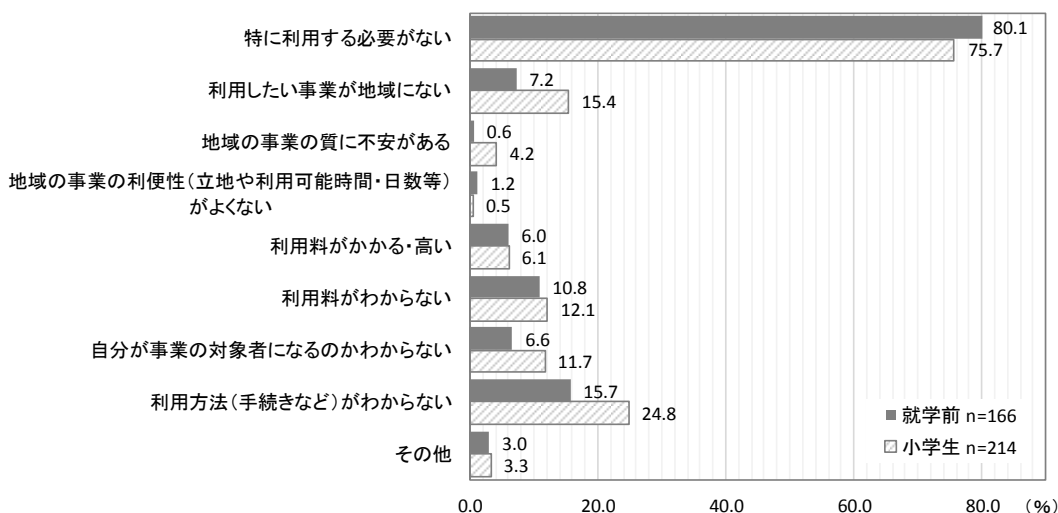


(2) 不定期な一時預かりを利用していない理由

【就学前】

不定期な一時預かり事業を利用していない理由について、「特に利用する必要がない」という回答が就学前児童では80.1%、小学生児童では75.7%と大多数を占めており、次いで「利用方法(手続きなど)がわからない」が就学前児童で15.7%、小学生児童で24.8%となっています。また、「利用したいが事業が地域にない」という回答が就学前児童で7.2%、小学生児童で15.4%となっており、利用意向のある人がいることもうかがえます。

■ 不定期な一時預かりを利用していない理由(複数回答)

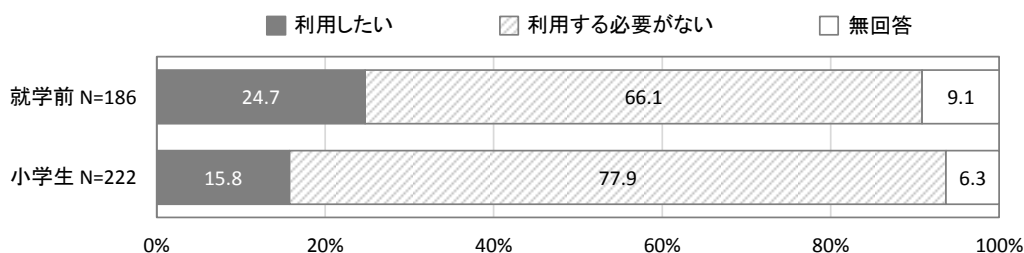


(3) 不定期な一時預かりの利用意向

【就学前・小学生】

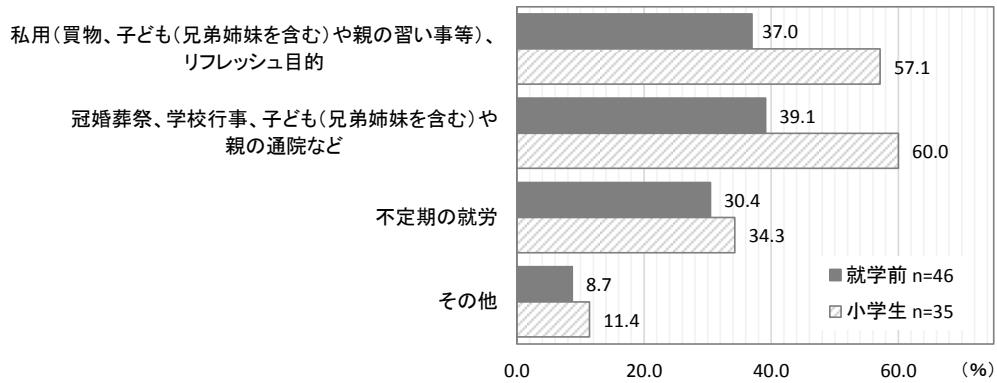
不定期な一時預かり等を「利用したい」という回答は、就学前児童で24.7%、小学生児童で15.8%となっており、小学生児童では「利用する必要がない」が77.9%と大半を占めていることから、利用意向は就学前児童に多いことがうかがえます。

■ 不定期な一時預かりの利用意向



不定期な一時預かり等を利用する目的については、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院など」が最も高く、就学前児童で 39.1%、小学生児童で 60.0%となっています。次いで「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」（就学前児童 37.0%、小学生児童 57.1%）、「不定期の就労」（就学前児童 30.4%、小学生児童 34.3%）の順に続きます。

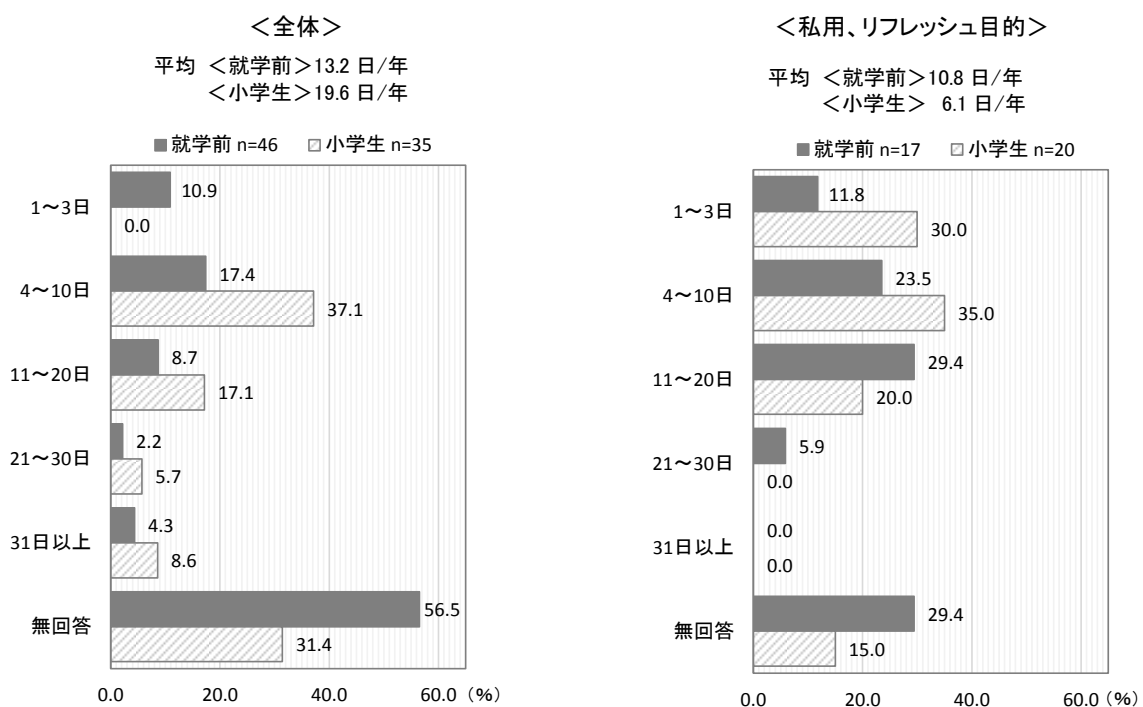
■ 不定期な一時預かりを利用したいと思う目的（複数回答）



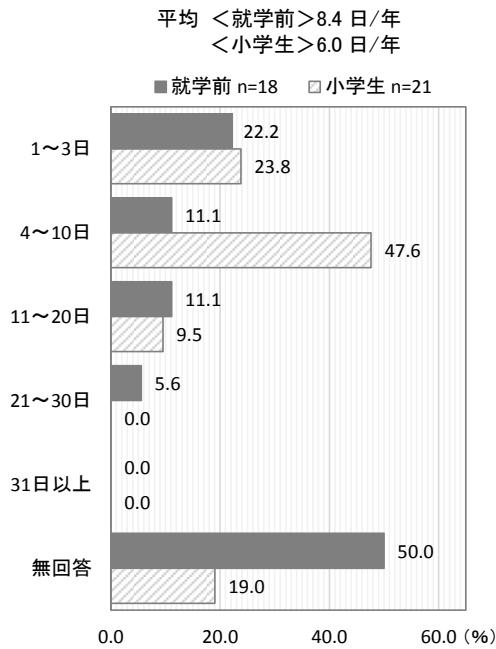
不定期な一時預かりを利用したい年間利用日数（合計）は、「4～10日」が最も多く、平均日数は、就学前児童で 13.2 日、小学生児童で 19.6 日となっています。

目的別にみると、平均日数が最も多いのは「不定期の就労」（就学前児童 13.8 日、小学生児童 14.8 日）、次いで「私用、リフレッシュ目的」（就学前児童 10.8 日、小学生児童 6.1 日）、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」（就学前児童 8.4 日、小学生児童 6.0 日）、となっています。利用したい年間日数の平均は、全体でみると小学生児童の方が多い傾向にありますが、保護者の私用やリフレッシュ目的、冠婚葬祭、学校行事などでは、就学前児童の方が小学生児童より利用したい人が多くなっています。

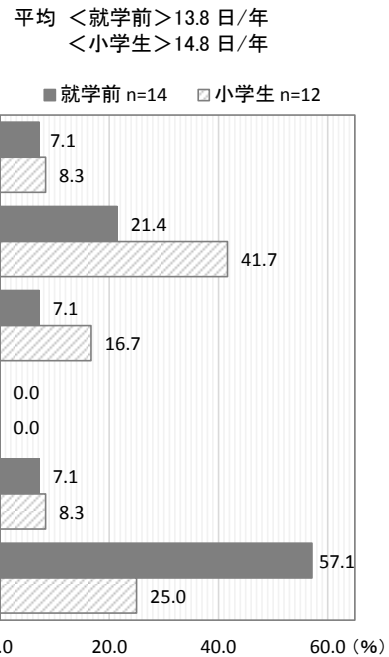
■ 不定期な一時預かりを利用したい年間日数



<冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など>



<不定期の就労>



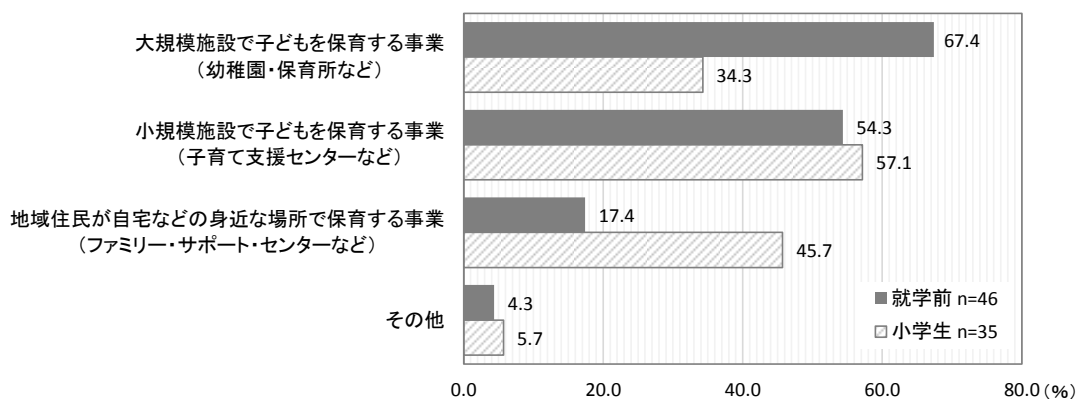
(4) 不定期な一時預かりを利用する場合の望ましい事業形態

【就学前】

不定期な一時預かりを利用する場合の望ましい事業形態について、就学前児童では「大規模施設で子どもを保育する事業（幼稚園・保育所など）」の割合が67.4%と最も高く、次いで「小規模施設で子どもを保育する事業（子育て支援センターなど）」が54.3%となっています。また、小学生児童では「小規模施設で子どもを保育する事業（子育て支援センターなど）」が57.1%と最も高く、次いで「地域住民が自宅などの身近な場所で保育する事業（ファミリー・サポート・センターなど）」が45.7%となっています。

就学前児童では、幼稚園や保育所などの普段から利用している施設等における一時預かりを希望し、小学生児童では小規模かつ身近な地域で行う一時預かりを希望する人が多いと推察されます。

■ 不定期な一時預かりを利用する場合の望ましい事業形態

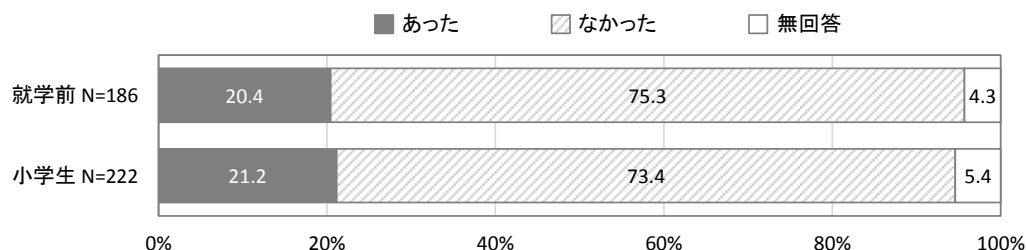


(5) 保護者の用事で子どもを家族以外に泊りがけで預けたこと

【就学前・小学生】

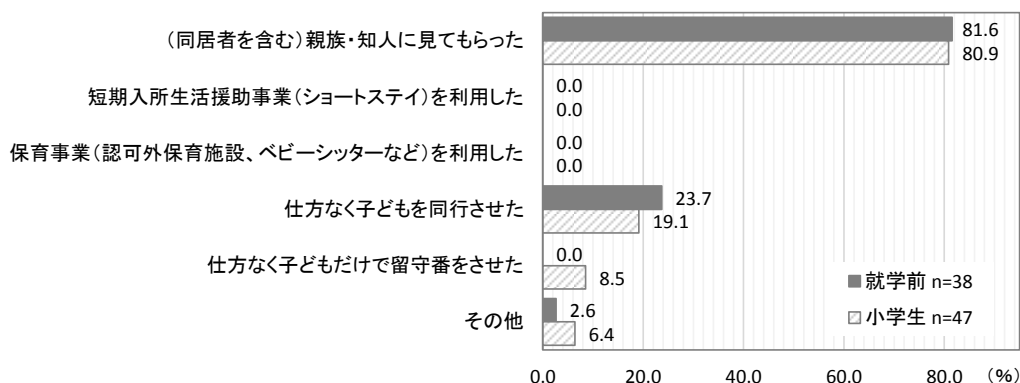
過去1年に保護者の用事により、子どもを泊りがけで家族以外に預けたことが「あった」と回答した人は、就学前児童で20.4%、小学生児童では21.2%となっています。

■保護者の用事で子どもを家族以外に泊りがけで預けた経験(過去1年)



預け先としては、「(同居者を含む)親族・知人に見てもらった」という回答が多く、就学前児童では81.6%、小学生児童では80.9%となっています。短期入所生活援助事業や保育事業などのサービスを利用した人はいませんでした。

■保護者の用事で子どもを家族以外に泊りがけで預けた状況(過去1年)



泊りがけで家族以外に預けた年間泊数としては、就学前児童では「(同居者を含む)親族・知人に見てもらった」が平均5.6日、「仕方なく子どもを同行させた」が平均1.0日となっています。小学生児童では「(同居者を含む)親族・知人に見てもらった」が平均3.2日、「仕方なく子どもを留守番させた」が平均1.6日となっています。親族・知人に見てもらった人は、小学生児童より就学前児童の方が多くなっています。

■保護者の用事で子どもを家族以外に泊りがけで預けた年間泊数(平均)

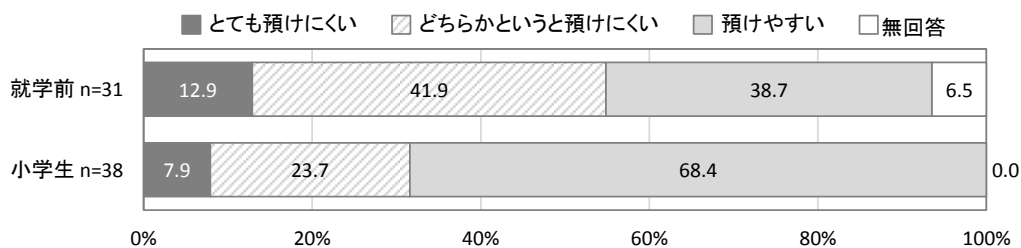
	平均泊数(泊/年)	
	就学前	小学生
(同居者を含む)親族・知人に見てもらった	5.6	3.2
短期入所生活援助事業(ショートステイ)を利用した	-	-
保育事業(認可外保育施設、ベビーシッターなど)を利用した	-	-
仕方なく子どもを同行させた	1.0	1.6
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	-	-
その他	2.0	2.7
全体	4.8	2.9

(6) 子どもを親族・知人に泊りがけで預ける困難度

【就学前・小学生】

子どもを親族・知人に泊りがけで預けた場合の預けやすさについては、「預けやすい」という回答は、小学生児童で 68.4%と多くなっていますが、就学前児童では 38.7%と少なく、“預けにくい”（「とても預けにくい」と「どちらかというと預けにくい」）と回答した人が 54.8%と半数を超えています。そのため、小学生児童よりも就学前児童のような低年齢の子どもを親族・知人に預けることに困難を感じている人が多いことがうかがえます。

■ 子どもを親族・知人に泊りがけで預ける困難度



1.1. 小学校終了後の放課後の過ごし方

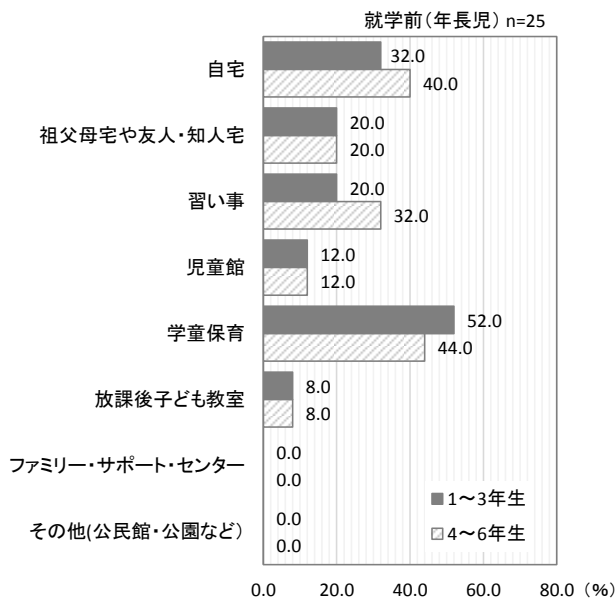
(1) 放課後の過ごし方の状況と意向

【就学前・小学生】

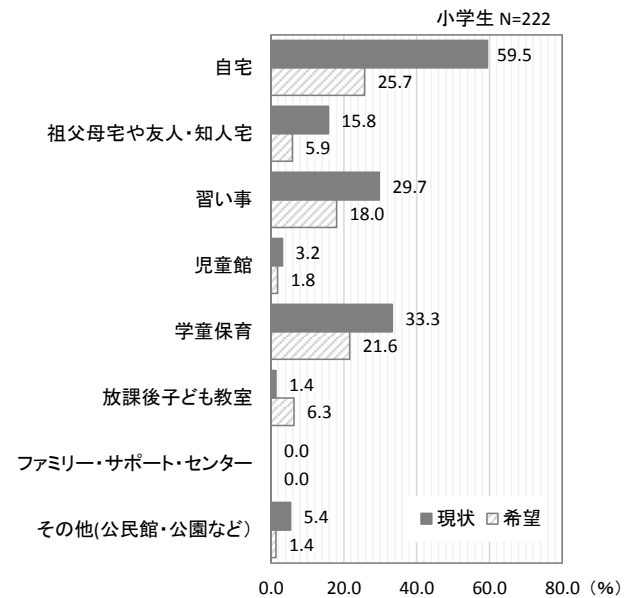
就学前児童（年長児）が小学校に就学した時の放課後の過ごし方の希望については、低学年（1～3年生）、高学年（4～6年生）ともに、「学童保育」の割合が高くなっており、次いで「自宅」となっています。「学童保育」の利用意向は、平成25年度調査に比べて増加しています。

小学生児童の現在の放課後の過ごし方は「自宅」が59.5%と最も高く、次いで「学童保育」（33.3%）、「習い事」（29.7%）の順に続いており、希望についても現在の利用状況と同様の傾向がみられます。平成25年度調査の利用意向（希望）と比較すると、「学童保育」は増加し、「自宅」「祖父母宅や友人・知人宅」「習い事」「児童館」などが大きく減少しています。

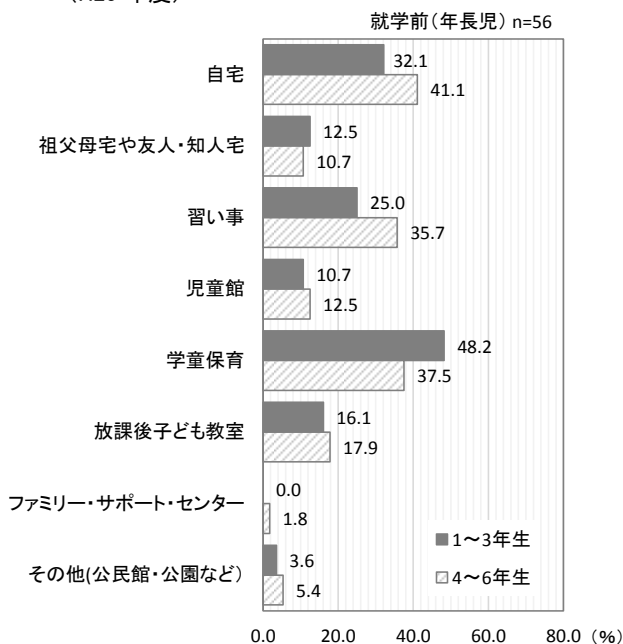
■放課後の過ごし方の意向(就学前(年長児))(複数回答)



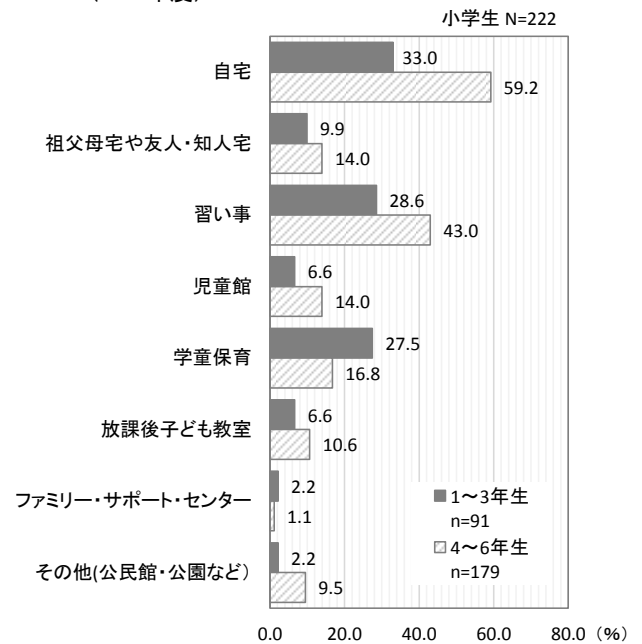
■放課後の過ごし方の状況と意向(小学生)(複数回答)



■放課後の過ごし方の意向(就学前(年長児))(複数回答) (H25年度)



■放課後の過ごし方の状況と意向(小学生)(複数回答) (H25年度)



就学前児童が、放課後の時間に過ごす場所の利用日数の意向をみると、最も利用意向が多い「自宅」については、低学年（1～3年生）で4.0日、高学年（4～6年生）で3.7日となっており、「学童保育」については、低学年で5.0日、高学年で4.9日となります。平成25年度調査と比較すると、低学年・高学年ともに、自宅や知り合いの家で過ごさせたいと考える人は減少し、学童保育を利用したいと考える人が増加しています。

小学生児童が、放課後の時間に過ごす場所の週あたりの現状と希望をみると、最も利用状況が多い「自宅」については、現状と希望ともに平均4.4日、「学童保育」については、現状が平均4.8日、希望が平均4.7日となります。「児童館」については、現状の利用日数を希望の日数が上回っています。

平成25年度調査と比較すると、小学生児童の現状については「祖父母宅や友人・知人宅」「習い事」「児童館」などの利用日数が増加しています。また、「学童保育」は利用意向ならびに利用希望日数も増えています。「自宅」「祖父母宅や友人・知人宅」「児童館」「放課後子ども教室」の利用意向は減少傾向にあるものの、利用を希望する人の利用頻度については増えていることがうかがえます。

■放課後に過ごす場所の1週あたり利用日数の状況と意向(平均)

	平均日数(日/週)			
	就学前(年長児)		小学生	
	1～3年生	4～6年生	現状	希望
自宅	4.0	3.7	4.4	4.4
祖父母宅や友人・知人宅	4.0	1.0	3.7	3.5
習い事	2.3	2.2	2.2	2.0
児童館	2.0	2.7	2.7	3.0
学童保育	5.0	4.9	4.8	4.7
放課後子ども教室	1.0	1.0	3.0	2.3
ファミリー・サポート・センター	-	-	-	-
その他(公民館・公園など)	-	-	2.5	2.3
全体	3.8	3.5	3.8	3.6

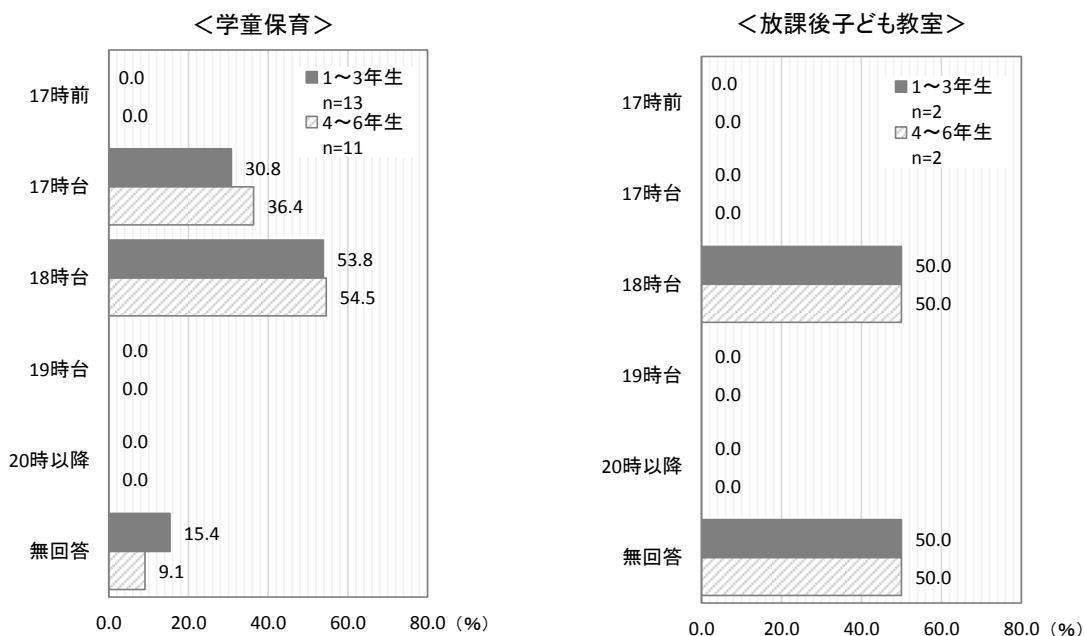
■放課後に過ごす場所の1週あたり利用日数の状況と意向(平均)(H25年度)

	平均日数(日/週)			
	就学前(年長児)		小学生	
	1～3年生	4～6年生	現状	希望
自宅	4.2	4.2	4.6	3.9
祖父母宅や友人・知人宅	4.3	3.5	2.4	2.3
習い事	1.8	2.2	1.9	2.4
児童館	2.2	2.4	1.8	1.5
学童保育	4.8	4.6	4.8	4.4
放課後子ども教室	2.9	2.0	3.2	1.3
ファミリー・サポート・センター	-	2.0	1.0	1.5
その他(公民館・公園など)	1.5	2.3	1.0	2.2

就学前児童（年長児）で、放課後に学童保育の利用意向がある人のうち、希望する利用終了時間帯については、低学年（1～3年生）、高学年（4～6年生）ともに、「18時台」が最も多く、次いで「17時台」となっています。

放課後子ども教室の利用意向がある人は2人と少なくなっていますが、希望する利用終了時間帯は、低学年、高学年ともに「18時台」となっています。

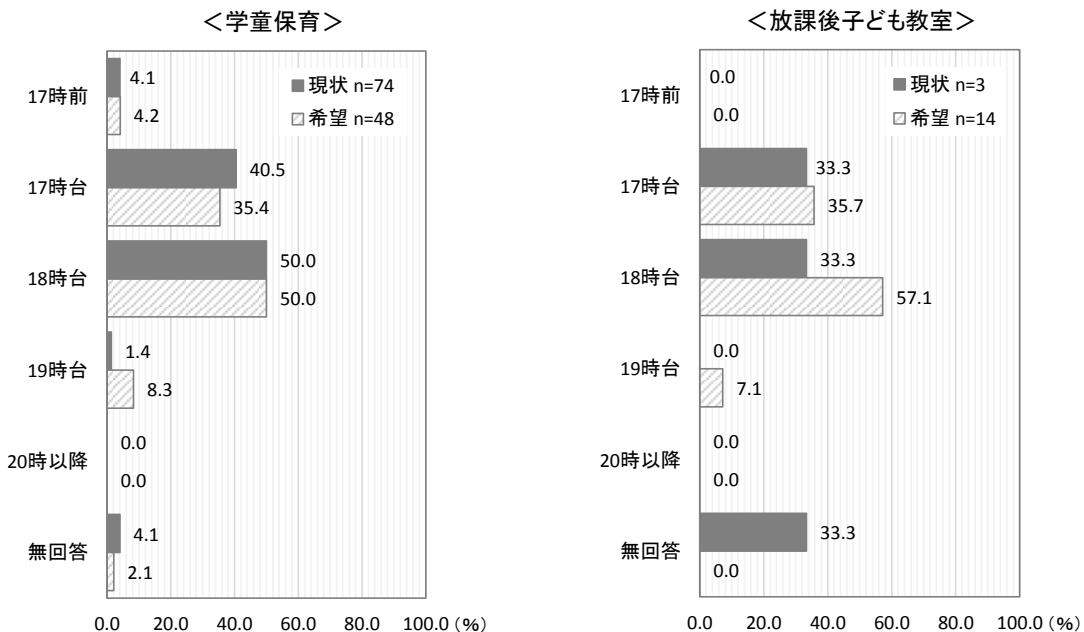
■利用終了の時間帯の意向(就学前(年長児))



小学生児童で、放課後に学童保育を利用している人の利用終了時間帯をみると、現状では「18時台」が50.0%と最も多く、希望についても「18時台」が最も多くなっています。また、終了時間帯が「17時台」を希望する人は35.4%と現状に比べて低く、「19時台」を希望する人も8.3%みられます。

同様に、放課後子ども教室を利用している人は3人と少なくなっていますが、現状は「17時台」「18時台」となっています。利用意向のある人では、「18時台」が57.1%と最も高くなっています。

■利用終了の時間帯の状況と意向(小学生)



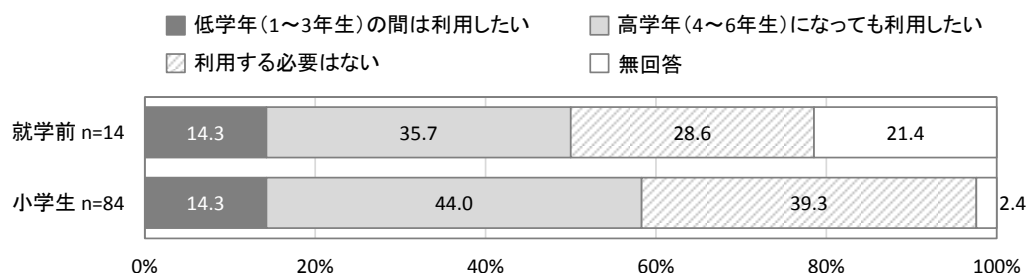
(2) 土曜日、長期休暇中の学童保育の利用意向

【就学前・小学生】

就学前児童が就学した際、土曜日の学童保育の利用意向は、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が14.3%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が35.7%となっており、土曜日の利用意向は50.0%となっています。

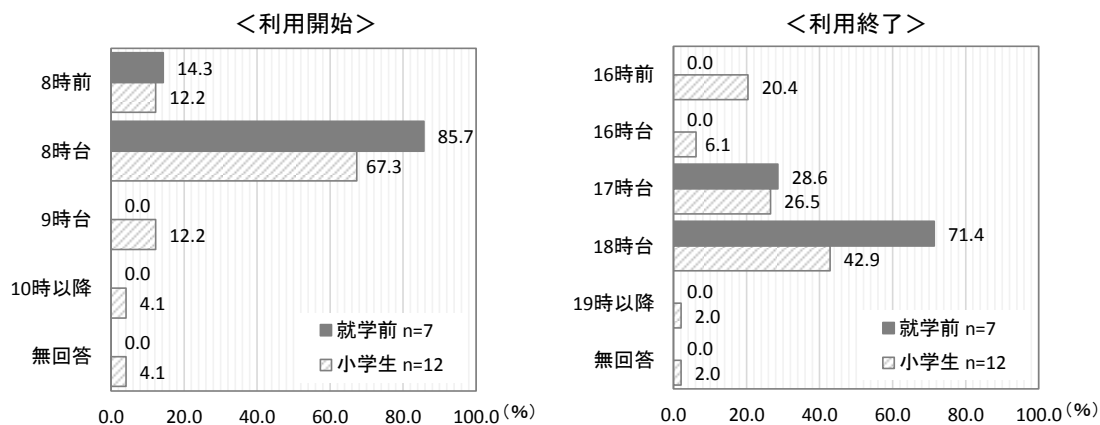
小学生児童の土曜日の学童保育の利用意向は、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が14.3%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が44.0%となっており、土曜日の利用意向は58.3%となっています。

■土曜日の学童保育の利用意向



土曜日に学童保育の利用意向がある人のうち、希望する利用開始時間帯は、就学前児童、小学生児童ともに「8時台」が多く、次いで「8時前」となっています。希望する利用終了時間帯は「18時台」が最も多く、次いで「17時台」となっています。また、就学前児童では「17時台」または「18時台」に二極化しています。

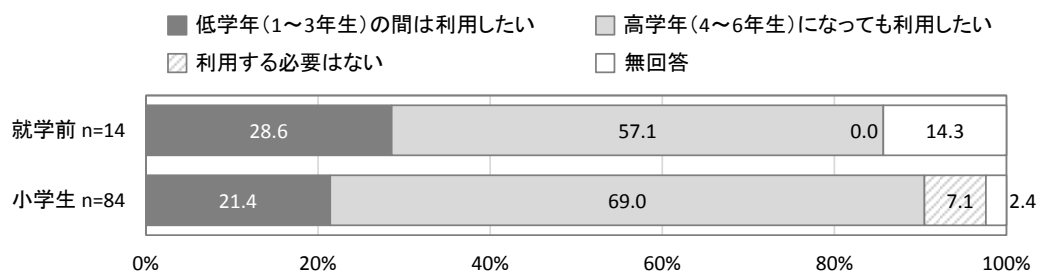
■土曜日に学童保育を利用したい時間帯



就学前児童が就学した際、夏休み・冬休みなどの長期休暇中の学童保育の利用意向は、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が28.6%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が57.1%となっており、長期休暇中の利用意向は85.7%となっています。

小学生児童の長期休暇中の学童保育の利用意向は、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が21.4%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が69.0%となっており、長期休暇中の利用意向は90.4%となっています。

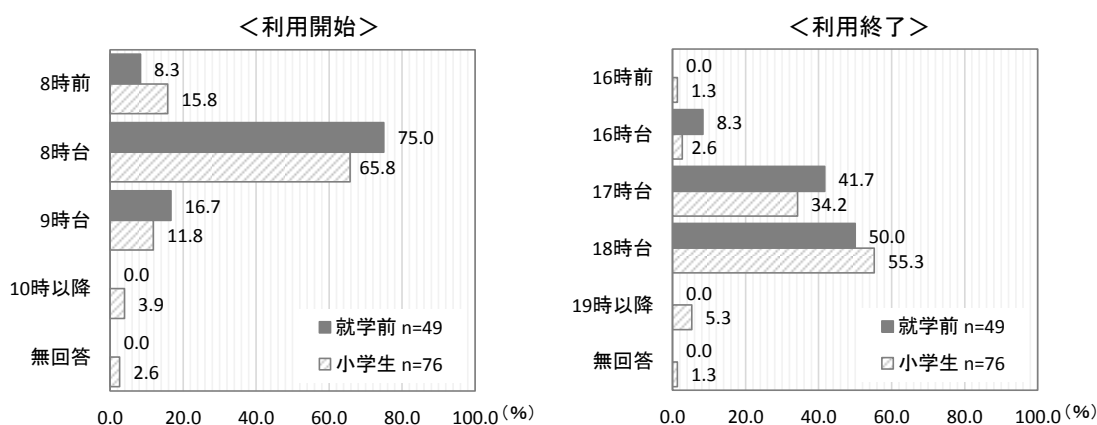
■長期休暇中の学童保育の利用意向



長期休暇中に学童保育の利用意向がある人のうち、希望する利用開始時間帯は、就学前児童、小学生児童ともに「8時台」が多く、次いで就学前児童では「9時台」、小学生児童では「8時前」がそれぞれ多くなっています。希望する利用終了時間帯は、就学前児童、小学生児童ともに「18時台」が最も多く、次いで「17時台」となっています。

小学生児童では、就学前児童より「18時台」の希望が多く、また「19時以降」の希望も5.3%とわずかではありますがニーズがあります。

■長期休暇中に学童保育を利用したい時間帯



1.2. 育児と仕事の両立

(1) 育児休業の取得について

【就学前・小学生】

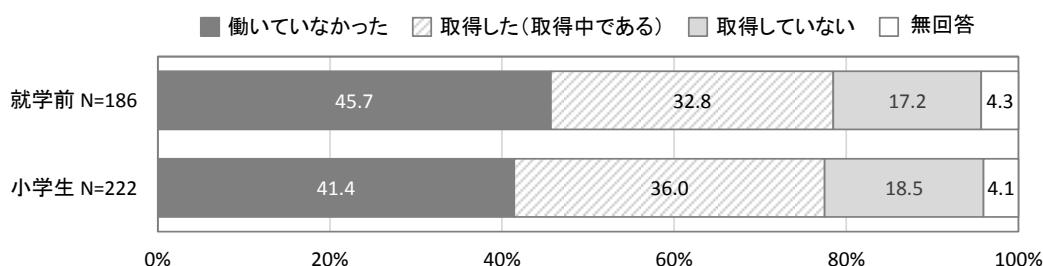
1) 育児休業の取得状況

対象児童が生まれた時の母親の育児休業制度の取得について、「働いていなかった」が就学前児童で 45.7%、小学生児童で 41.4%と最も高くなっています。「取得した（取得中である）」と「取得していない」を比較すると、取得者の方が多いことがうかがえます。小学生児童の方が、就学前児童よりも育児休業制度の取得率が高く、就学前児童の方が「働いていなかった」という割合が高くなっています。

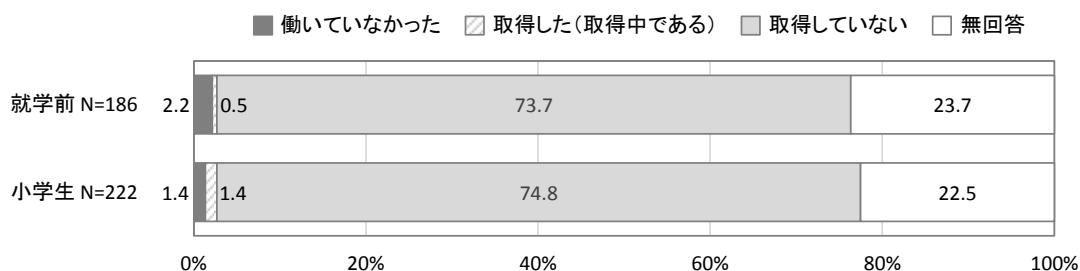
父親の育児休業制度の取得について、「取得していない」が大多数を占めており、就学前児童では 73.7%、小学生児童では 74.8%となり、「取得した（取得中である）」とする割合は就学前児童で 0.5%、小学生児童で 1.4%とかなり低くなっています。

就学前児童の両親の育児休業取得について、平成 25 年度調査と比較すると、母親の取得率（「取得した（取得中である）」）は 1.1 ポイント増加し、父親の取得率は同率となっており、育児休業の取得状況は5年前とほとんど変わりありません。

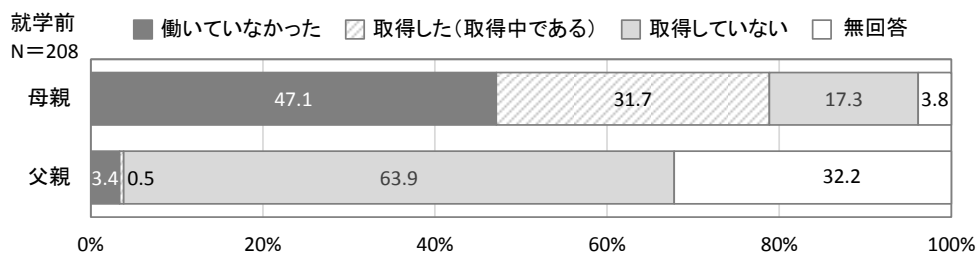
■ 育児休業の取得状況(母親)



■ 育児休業の取得状況(父親)



■ 育児休業の取得状況(H25 年度)

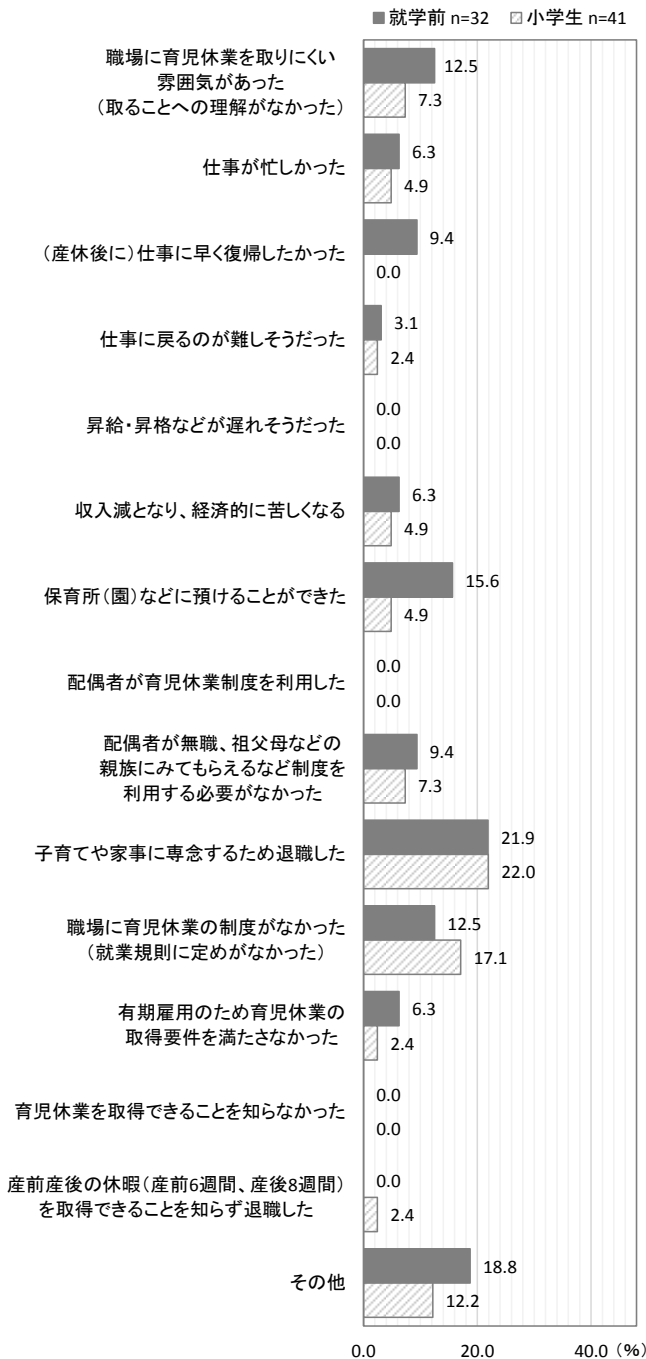


2) 育児休業を取得していない理由

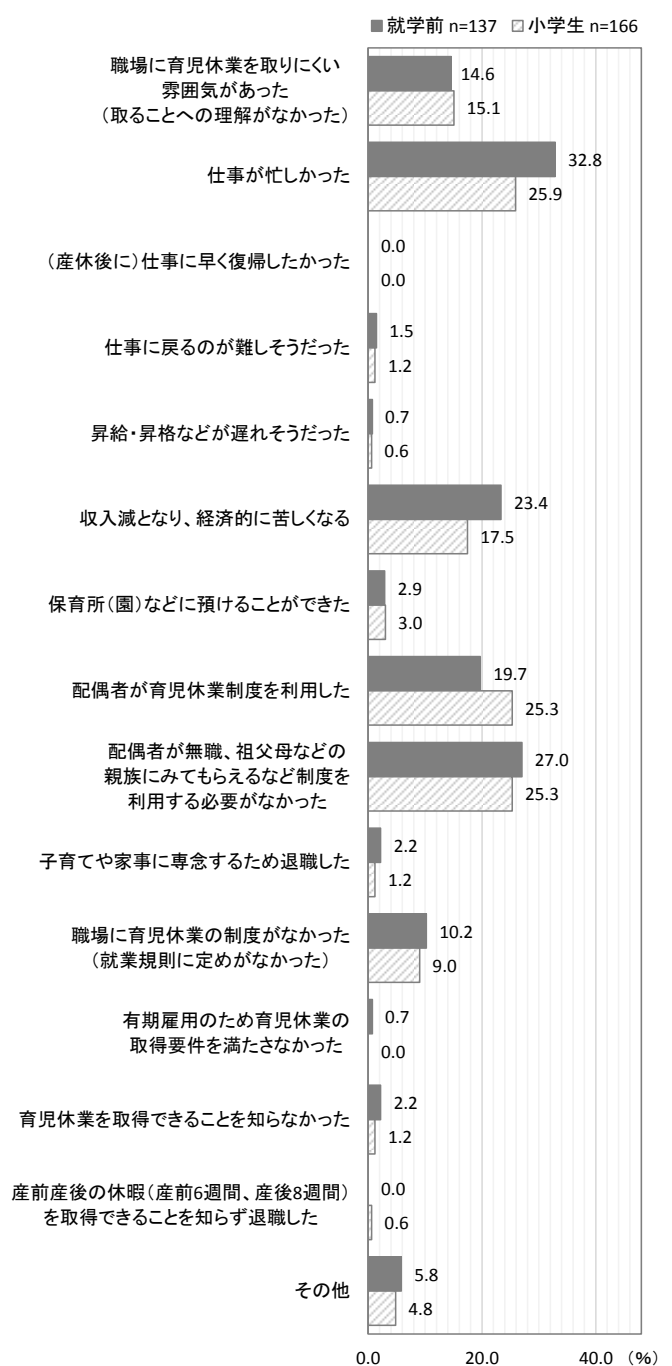
育児休業制度を取得していない理由として、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が最も多く、就学前児童で21.9%、小学生児童で22.0%となっています。「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった（取ることへの理解がなかった）」「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」などの回答も多くみられ、職場において育児休業制度への理解が不足していることがうかがえます。

父親では「仕事が忙しかった」が最も多く、就学前児童では32.8%、小学生児童では25.9%となっています。「配偶者が無職、祖父母などの親族にみてもらえるなど制度を利用する必要がなかった」「配偶者が育児休業制度を利用した」「収入減となり、経済的に苦しくなる」という回答も多くなっています。母親では「子育てや家事に専念するため退職した」という理由が父親より多く、父親では「仕事が忙しかった」「収入減となり、経済的に苦しくなる」という理由が母親より多くなっています。

■ 育児休業を取得していない理由(母親)(複数回答)

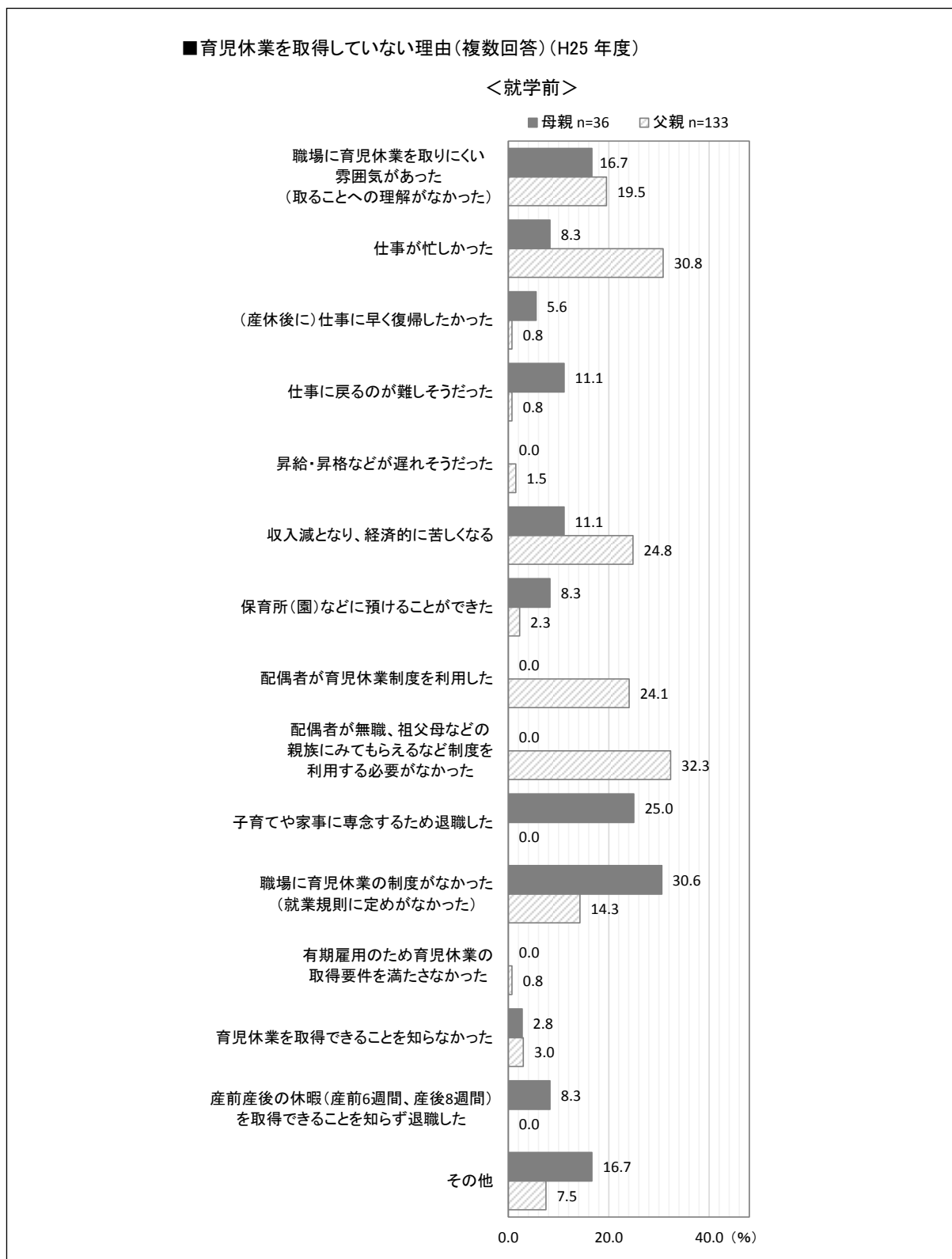


■ 育児休業を取得していない理由(父親)(複数回答)



育児休業制度を取得していない理由を平成 25 年度調査と比較すると、母親では「(産休後に)仕事に早く復帰したかった」「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」という理由が増加しています。

父親では「仕事に戻るのが難しそうだった」「保育所(園)などに預けることができた」「子育てや家事に専念するため退職した」という理由が増加しています。



(2) 育児休業からの職場復帰

【就学前・小学生】

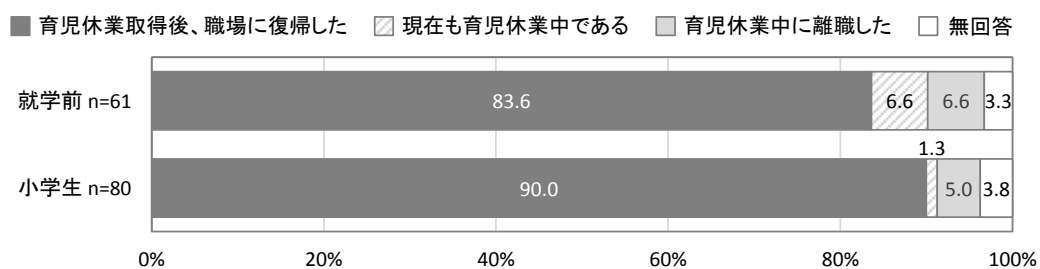
1) 職場復帰の状況

母親が育児休業を取得した後の職場復帰については、「育児休業取得後、職場に復帰した」という割合が最も高く、就学前児童で83.6%、小学生児童で90.0%となっています。

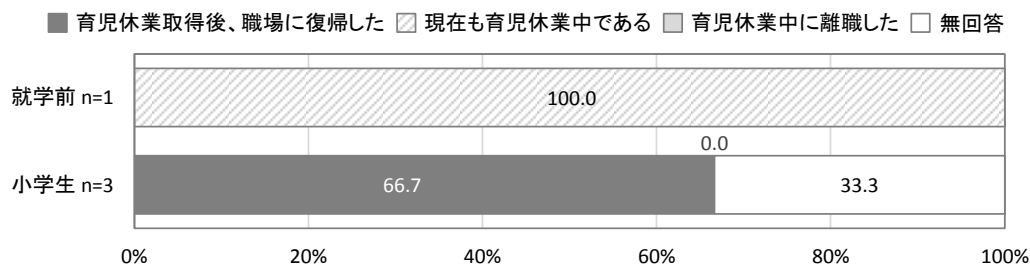
また、「育児休業中に離職した」という割合は、小学生児童より就学前児童の方が高くなっています。

育児休業を取得した父親は、就学前児童で1人、小学生児童で3人と少なく、就学前児童では「現在も育児休業中である」、小学生児童では「育児休業取得後、職場に復帰した」という回答を得ています。

■ 職場復帰の状況(母親)



■ 職場復帰の状況(父親)



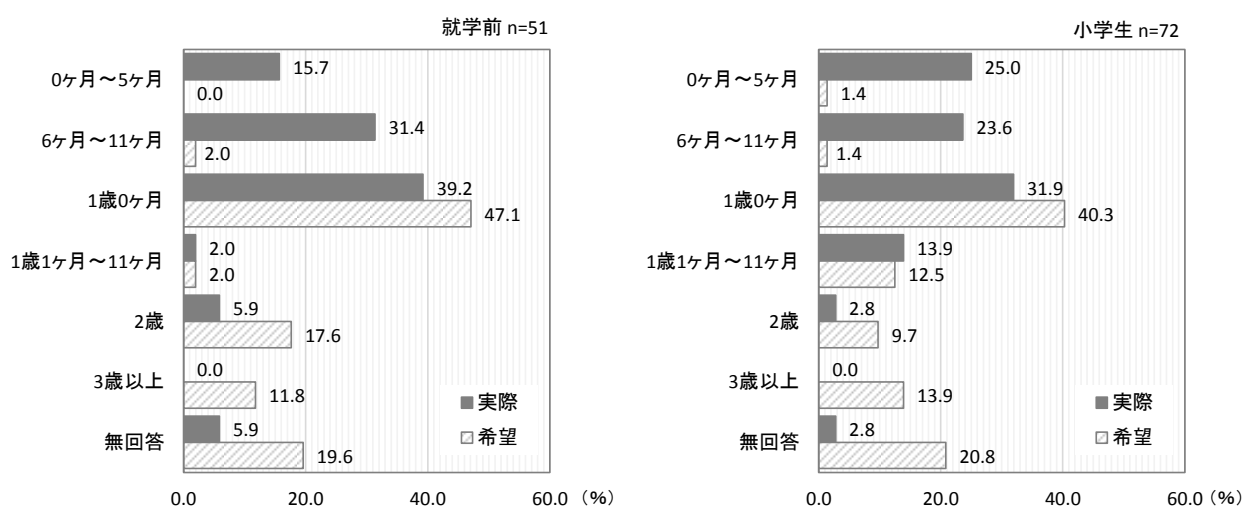
2) 職場復帰した時の子どもの年齢

実際に育児休業から職場復帰した時の子どもの月齢について、就学前児童の母親では「1歳0ヶ月」が39.2%と最も多く、次いで「6ヶ月～11ヶ月」(31.4%)、「0ヶ月～5ヶ月」(15.7%)となっており、“1歳0ヶ月以内”が86.3%と多くを占めています。また、復帰時期の希望を尋ねたところ、「1歳0ヶ月」が47.1%と最も多く、次いで「2歳」(17.6%)、「3歳以上」(11.8%)となっており、“1歳0ヶ月以内”が49.1%と実際の復帰時期に比べて少なくなっています。

小学生児童の母親が実際に復帰した時期は、「1歳0ヶ月」が31.9%と最も多く、次いで「0ヶ月～5ヶ月」(25.0%)、「6ヶ月～11ヶ月」(23.6%)となっており、“1歳0ヶ月以内”が80.5%と多くを占めています。また、復帰時期の希望としては、「1歳0ヶ月」が40.3%と最も多く、次いで「3歳以上」(13.9%)、「1歳1ヶ月～1歳11ヶ月」(12.5%)となり、“1歳0ヶ月以内”が43.1%と実際の復帰時期に比べて少なくなっています。

就学前児童、小学生児童の母親は希望よりも短い期間で復帰している人が多いと推察されます。

■ 職場復帰した時の子どもの年齢(母親)



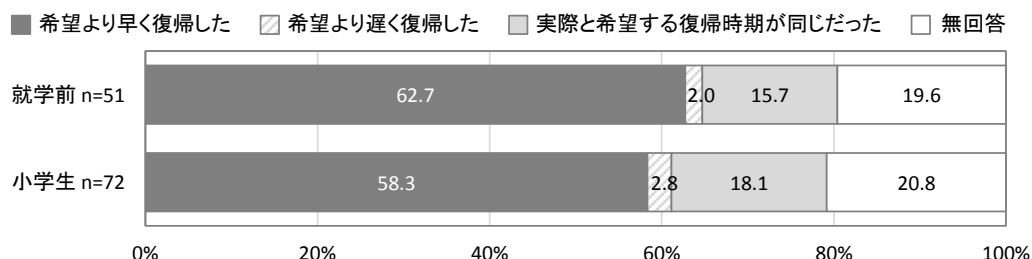
■ 職場復帰した時の子どもの年齢(父親)

回答なし

3) 職場復帰した時期

職場復帰した時期について「希望より早く復帰した」が最も高く、就学前児童では62.7%、小学生児童では58.3%となっており、多くの方が希望より早く復帰しています。「実際と希望する復帰時期が同じだった」とする割合は、就学前児童より小学生児童の方が高くなっています。

■ 職場復帰した時期(母親)



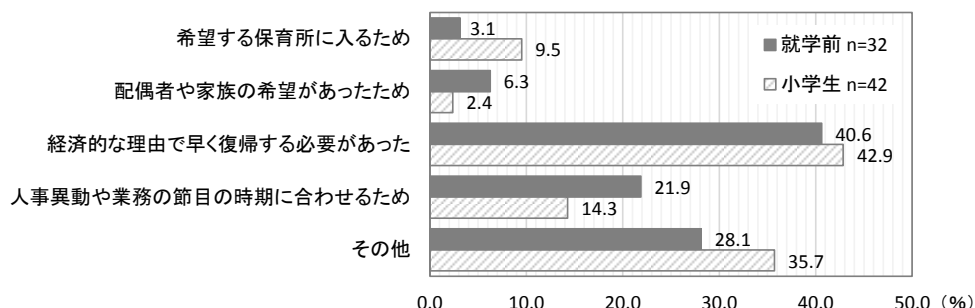
■ 職場復帰した時期(父親)

回答なし

4) 希望より早く(遅く) 復帰した理由

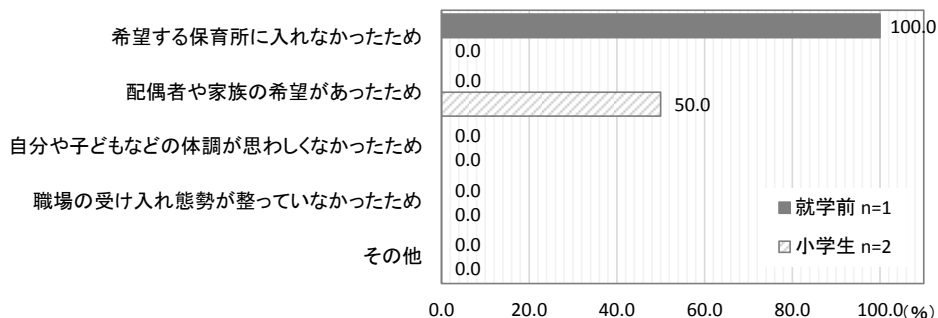
母親が希望より早く復帰した理由については、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が最も多く、就学前児童で40.6%、小学生児童で42.9%となっています。次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(就学前児童 21.9%、小学生児童 14.3%)となっています。

■ 希望より早く復帰した理由(母親)



母親が希望より遅く復帰した人は少なくなっていますが、就学前児童では「希望する保育所に入れなかったため」、小学生児童では「配偶者や家族の希望があったため」という回答を得ています。

■ 希望より遅く復帰した理由(母親)



■ 希望より早く(遅く) 復帰した理由(父親)

回答なし

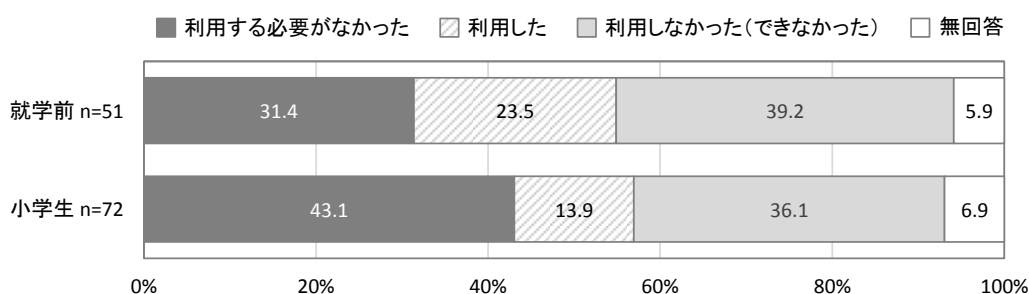
(3) 短時間勤務制度の取得について

【就学前・小学生】

1) 短時間勤務制度の利用の有無

母親が育児休業から職場復帰した際の短時間勤務制度の利用について、就学前児童では「利用しなかった（できなかった）」が39.2%と最も高く、小学生児童では「利用する必要がなかった」が43.1%と最も高くなっています。「利用した」という回答は、就学前児童で23.5%、小学生児童で13.9%となっており、就学前児童の利用率の方が小学生児童よりも高くなっています。

■ 短時間勤務制度の利用の有無(母親)



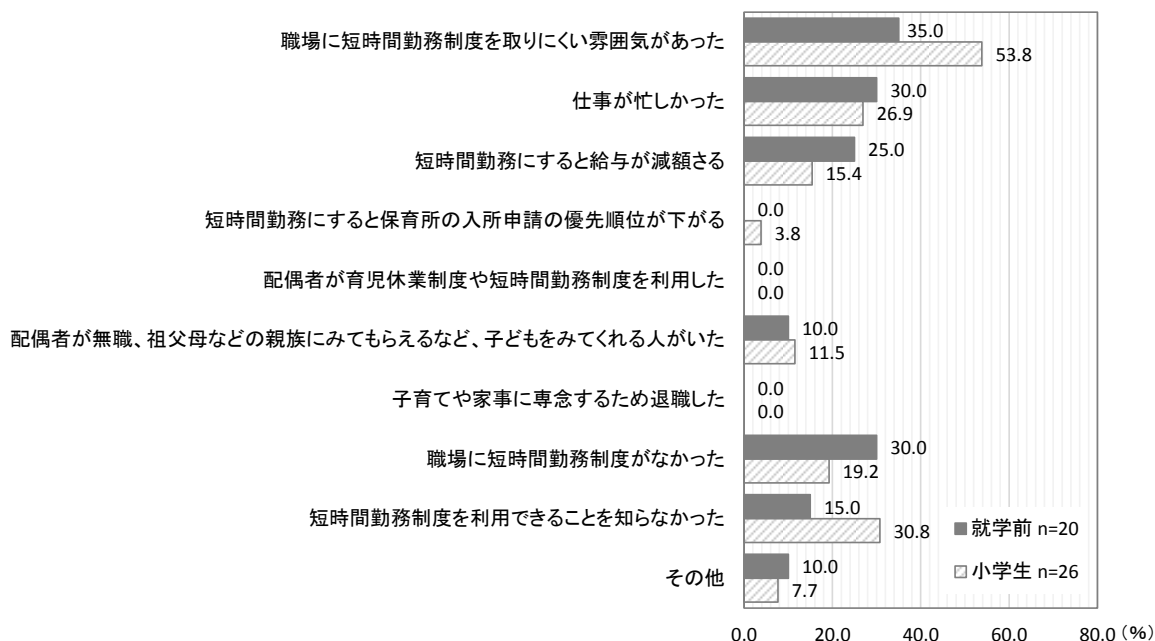
■ 短時間勤務制度の利用の有無(父親)

回答なし

2) 短時間勤務制度を利用していない理由

母親が短時間勤務制度を利用していない理由は、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が最も多く、就学前児童で35.0%、小学生児童で53.8%となっています。就学前児童では「仕事が忙しかった」「職場に短時間勤務制度がなかった」(30.0%)、小学生児童では「短時間勤務制度を利用できることを知らなかった」(30.8%)という回答も多く、職場において短時間勤務制度への理解や体制が不足していることがうかがえます。

■ 短時間勤務制度を利用していない理由(母親)



■ 短時間勤務制度を利用していない理由(父親)

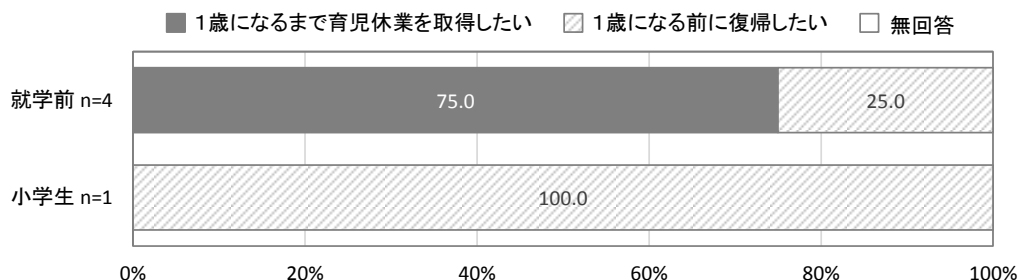
回答なし

(4) 子どもが1歳まで育児休業を取得する意向

【就学前・小学生】

現在、育児休業中である母親は就学前児童で4人、小学生児童で1人と少なくなっていますが、子どもが1歳になった時に必ず利用できる事業がある場合、それまでに育児休業を取得することへの意向としては、就学前児童では「1歳になるまで育児休業を取得したい」、小学生児童では「1歳になる前に復帰したい」という回答を得ています。

■子どもが1歳まで育児休業を取得する意向(母親)



■子どもが1歳まで育児休業を取得する意向(父親)

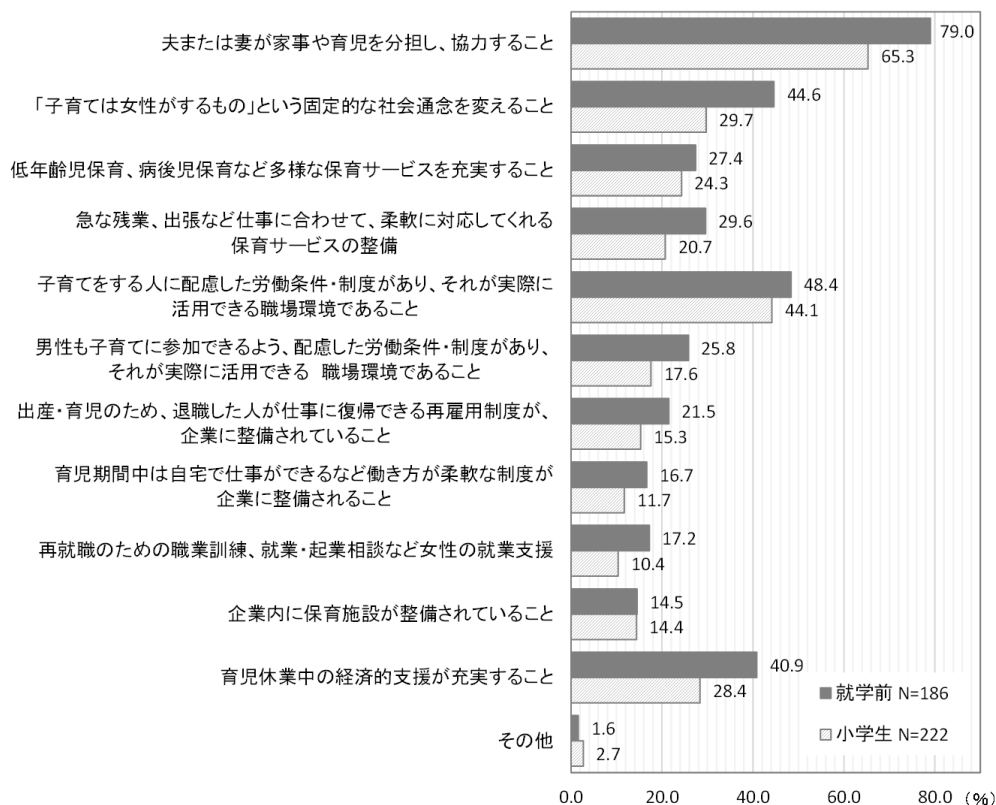
回答なし

(5) 子どもを育てながら働くために必要なこと

【就学前・小学生】

子どもを育てながら、働くために必要なことは、「夫または妻が家事や育児を分担し、協力すること」が最も多く、就学前児童で79.0%、小学生児童で65.3%、次いで、「子育てをする人に配慮した労働条件・制度があり、それが実際に活用できる職場環境であること」(就学前児童48.4%、小学生児童44.1%)と続きます。家事や子育てなど性別による役割分担意識の解消、労働環境の是正などを必要とする人が多くみられます。

■育児をしながら働くために必要なこと(複数回答)



13. 子どもの日常生活や遊び、地域活動など

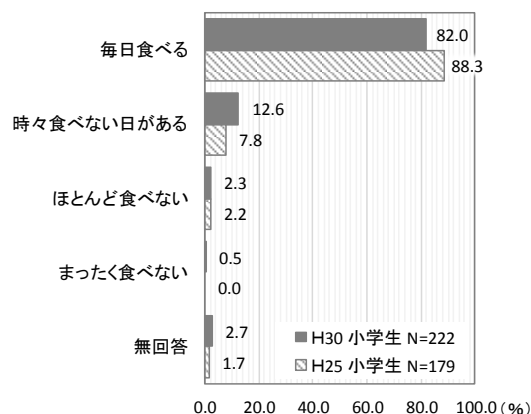
(1) 子どもの日常生活

【小学生】

1) 朝食の摂取状況

小学生児童の朝食の摂取状況は「毎日食べる」という割合が82.0%と大多数を占めていますが、平成25年度調査と比較するとその割合は減少しており、「時々食べない日がある」という割合が増加しています。

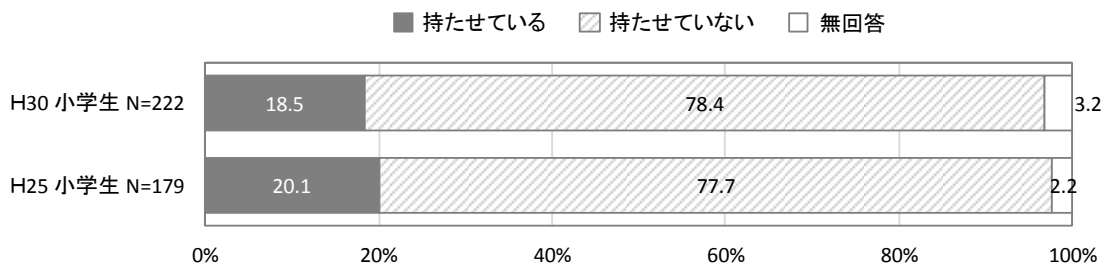
■朝食の摂取状況(H30とH25調査の比較)



2) 携帯電話の所持

小学生児童の携帯電話の所持については「持たせていない」が78.4%と高く、「持たせている」と回答したのは18.5%となっています。また、平成25年度調査と比較すると、「持たせている」という割合はやや減少しています。

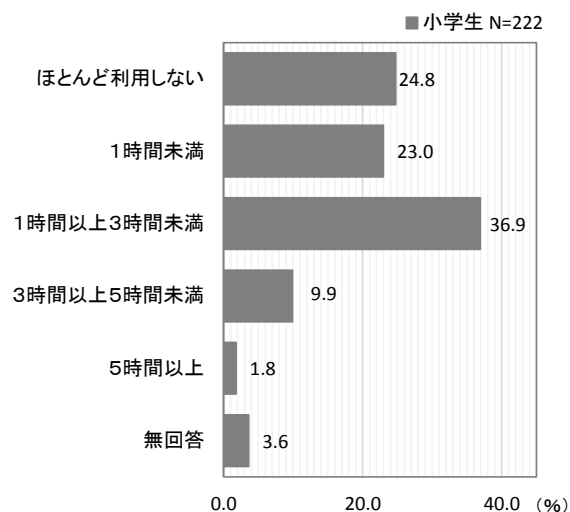
■携帯電話の所持(H30とH25調査の比較)



3) 多機能端末の1日の利用時間

小学生児童がパソコンや携帯電話などの多機能端末を平日に利用している時間は、「1時間以上3時間未満」が36.9%と最も高く、次いで「ほとんど利用しない」(24.8%)となっています。「3時間以上」の割合も1割程度みられます。

■多機能端末の1日の利用時間



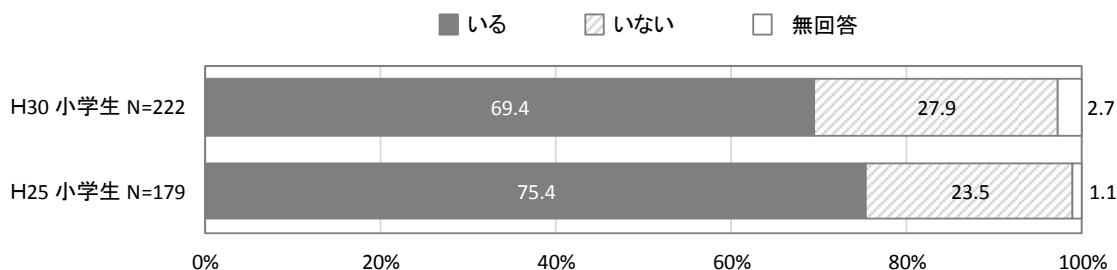
(2) 子どもの遊び

【小学生】

1) 子どもの遊び相手の有無

小学生児童では、近所に子どもの遊び相手が「いる」と回答したのは69.4%と大半を占めていますが、平成25年度調査と比較すると減少しています。

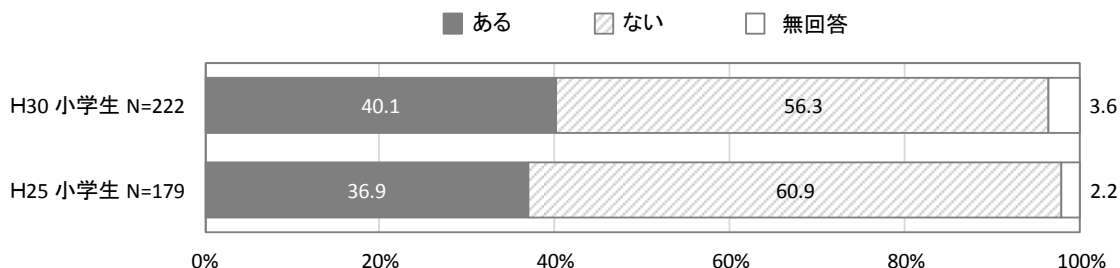
■子どもの遊び相手の有無(H30とH25調査の比較)



2) 子どもの遊び場所の有無

小学生児童では、近くに安心して遊べる場所が「ある」という割合が40.1%、「ない」が56.3%となっています。平成25年度調査と比較すると、「ある」という割合は増加しています。

■子どもの遊び場所の有無



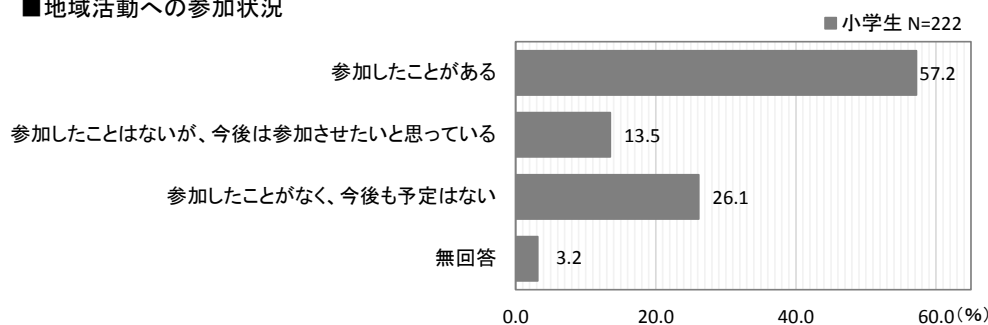
(3) 地域活動への参加状況

【小学生】

1) 地域活動への参加状況

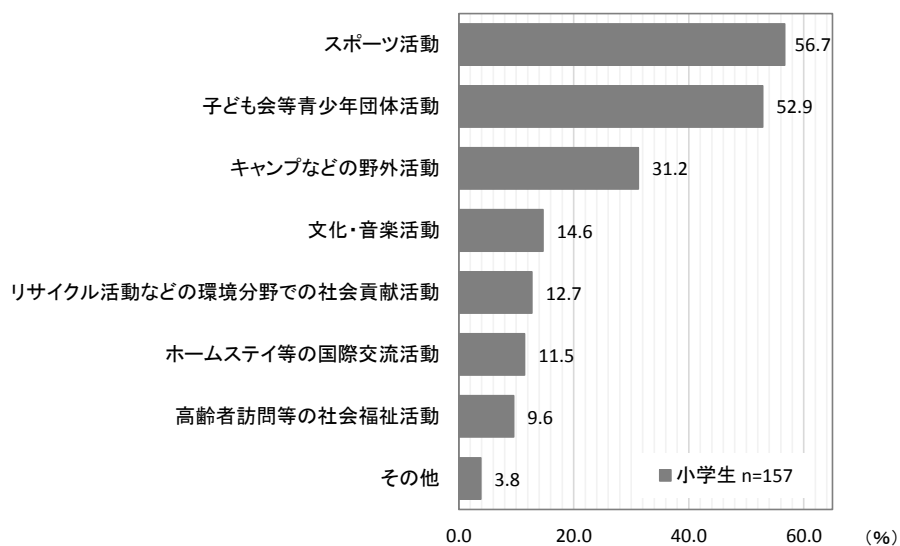
小学生児童の地域活動への参加状況は「参加したことがある」が57.2%と最も高く、次いで「参加したことがなく、今後は参加させたいと思っている」が13.5%、「参加したことはないが、今後は参加させたいと思っている」が13.5%となっており、参加したことがある人の方が多くなっています。

■地域活動への参加状況



参加したことがある、今後参加させたいと思う地域活動やグループ活動の種類は、「スポーツ活動」が56.7%と最も多く、次いで「子ども会等青少年団体活動」(52.9%)、「キャンプなどの野外活動」(31.2%)の順に続きます。

■参加経験、意向がある活動の種類(複数回答)



1 4. 子育て全般について

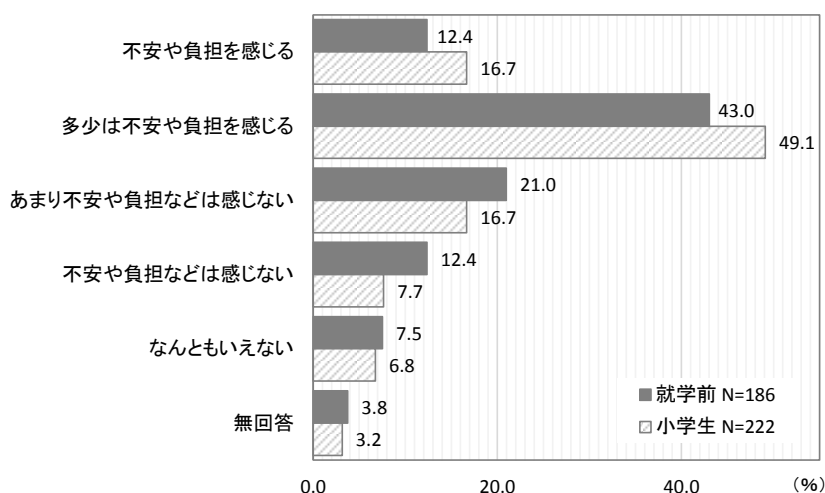
(1) 子育てに関する意識

【就学前・小学生】

1) 子育てに不安や負担を感じること

子育ての不安や負担については「多少は不安や負担を感じる」が最も高く、就学前児童で43.0%、小学生児童で49.1%、これに「不安や負担を感じる」を合わせた“不安や負担を感じる”とする割合は、就学前児童で55.4%、小学生児童で65.8%となっており、就学前児童の保護者より小学生児童の保護者の方が不安や負担を感じている人が多くなっています。

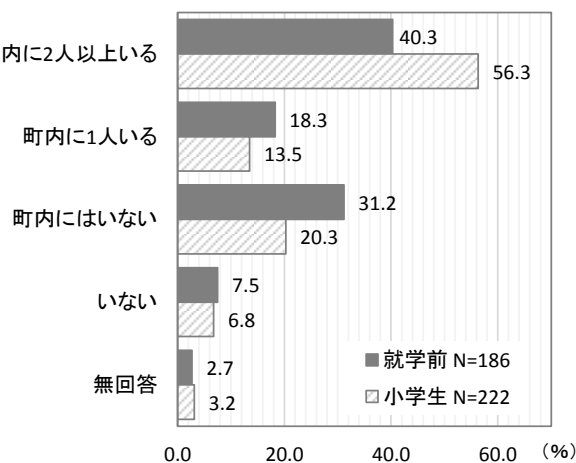
■ 子育てに不安や負担を感じること



2) 町内に親しい友人はいるか

子育て中の保護者に町内で親しいと思う友人は、「町内に2人以上いる」という回答が最も多く、就学前児童で40.3%、小学生児童で56.3%、これに「町内に1人いる」を合わせると就学前児童では58.6%、小学生児童では69.8%がいると回答しています。小学生児童の保護者の方が就学前児童の保護者よりも親しい友人が多いことがうかがえます。

■ 町内に親しい友人はいるか

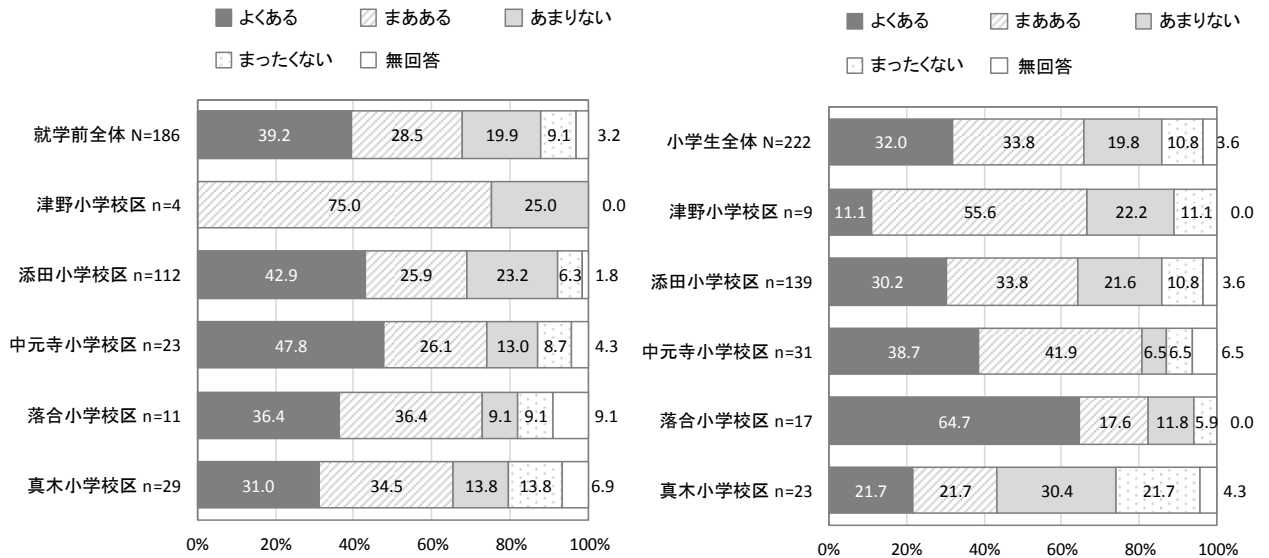


3) 周囲の人に支えてもらって子育てをしている実感

周囲の人に支えてもらって子育てをしているという実感は「よくある」「まあまあある」を合わせると、就学前児童全体では67.7%、小学生児童全体では65.8%と多くを占めているものの、地域によって差がみられます。

■周囲の人に支えてもらって子育てをしている実感
(就学前児童全体・小学校区別)

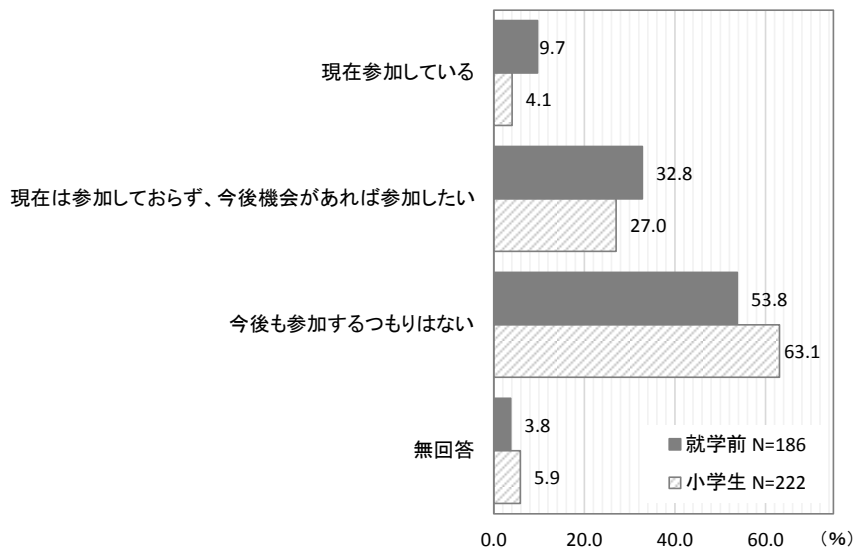
■周囲の人に支えてもらって子育てをしている実感
(小学生児童・小学校区別)



4) 子育てに関するサークルなどの自主的な活動に参加しているか

子育てサークルなどの自主的な活動への参加について、「現在参加している」と回答した人は、就学前児童で9.7%、小学生児童4.1%とかなり低くなっています。現在、ほとんどの人が参加しておらず、「今後も参加するつもりはない」が就学前児童で53.8%、小学生児童で63.1%と半数を超えています。「現在は参加しておらず、今後機会があれば参加したい」は就学前児童で32.8%、小学生児童で27.0%となっており、小学生児童より就学前児童の方が今後の参加意向は高いことがうかがえます。

■子育てに関するサークルなどの自主的な活動に参加しているか



(2) 子育てに関する悩み

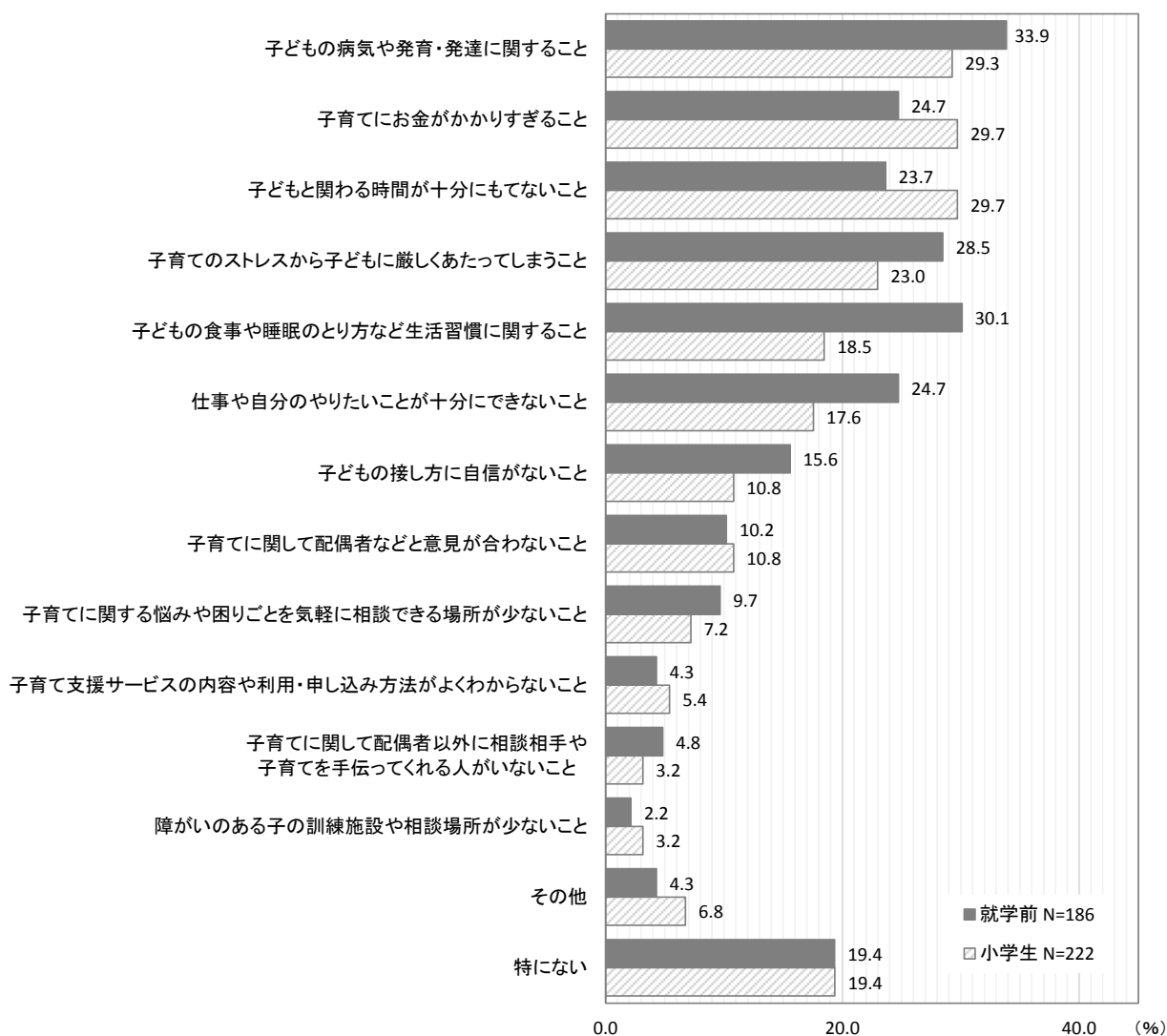
【就学前・小学生】

子育てに関する悩みは、就学前児童では「子どもの病気や発育・発達に関すること」が33.9%と最も高く、次いで「子どもの食事や睡眠の取り方など生活習慣に関すること」(30.1%)、「子育てのストレスから子どもに厳しくあたってしまうこと」(28.5%)、「子育てにお金がかかりすぎること」(24.7%)の順に続きます。

小学生児童では「子育てにお金がかかりすぎること」「子どもと関わる時間が十分にもてないこと」が29.7%と最も高く、次いで「子どもの病気や発育・発達に関すること」(29.3%)、「子育てのストレスから子どもに厳しくあたってしまうこと」(23.0%)の順に続きます。

特に、「子どもの食事や睡眠の取り方など生活習慣に関すること」や「仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと」に悩んでいる保護者は、小学生児童より就学前児童の方に多くみられます。

■子育てに関する悩み(複数回答)

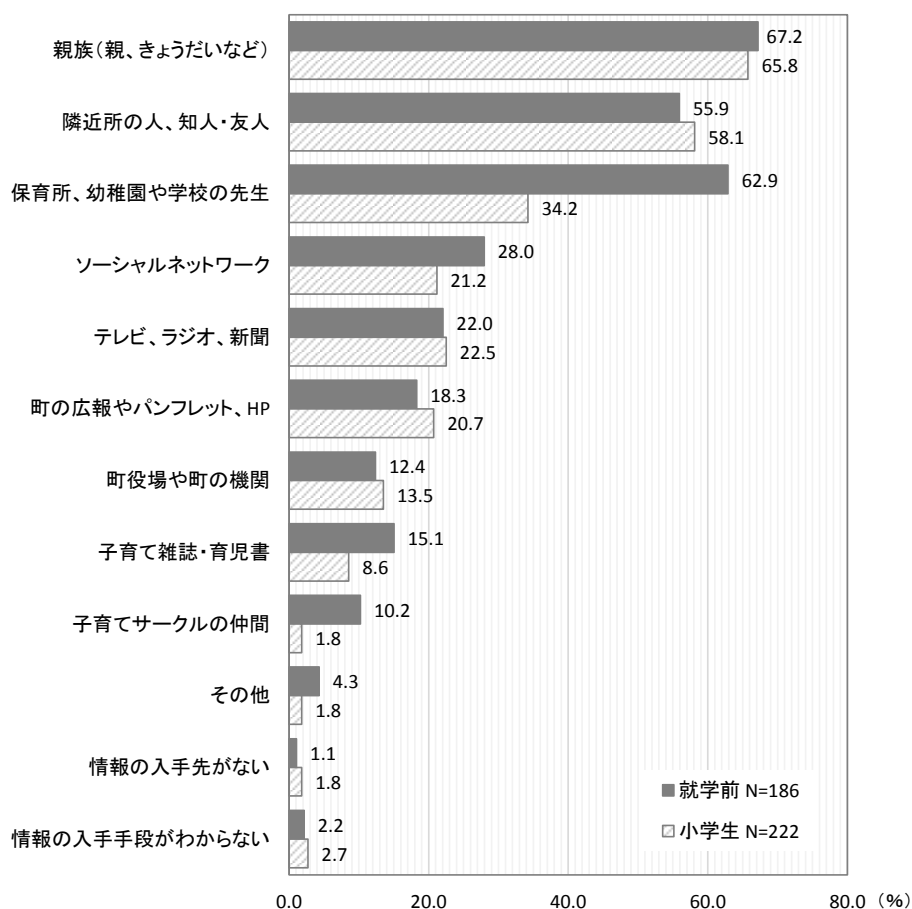


(3) 子育てに関する情報について

【就学前・小学生】

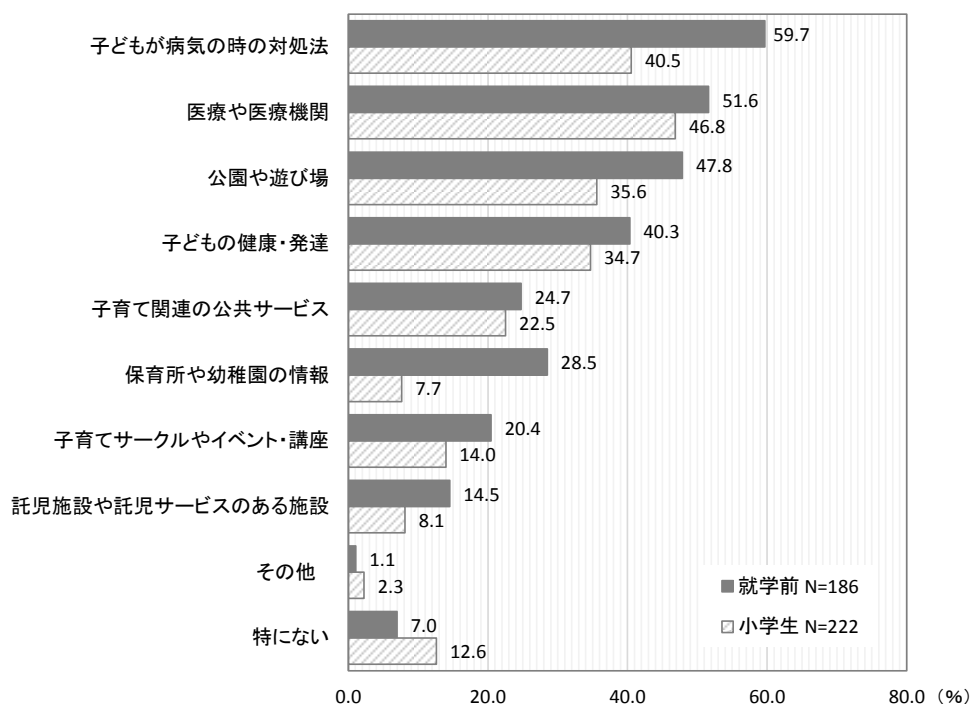
子育てに関する情報の入手先は、「親族（親、きょうだいなど）」が最も高く、就学前児童で67.2%、小学生児童で65.8%となっています。次いで、就学前児童では「保育所、幼稚園や学校の先生」（62.9%）、「隣近所の人、知人・友人」（55.9%）の順に続きます。小学生児童では「隣近所の人、知人・友人」（58.1%）、「保育所、幼稚園や学校の先生」（34.2%）の順に続きます。子育てに関する情報の入手先は、親族や隣近所の人、知人・友人、通っている施設や学校がほとんどで、町役場などの公的機関や町の広報などから情報入手する人は1～2割程度になります。

■子育てに関する情報の入手先（複数回答）



子育てに関する必要な情報は、就学前児童では「子どもが病気の時の対処法」が59.7%と最も高く、次いで「医療や医療機関」(51.6%)、「公園や遊び場」(47.8%)の順に続きます。小学生児童では「医療や医療機関」が51.6%と最も高く、次いで「子どもが病気の時の対処法」(40.5%)、「公園や遊び場」(35.6%)の順に続きます。

■必要だと思う子育てに関する情報(複数回答)

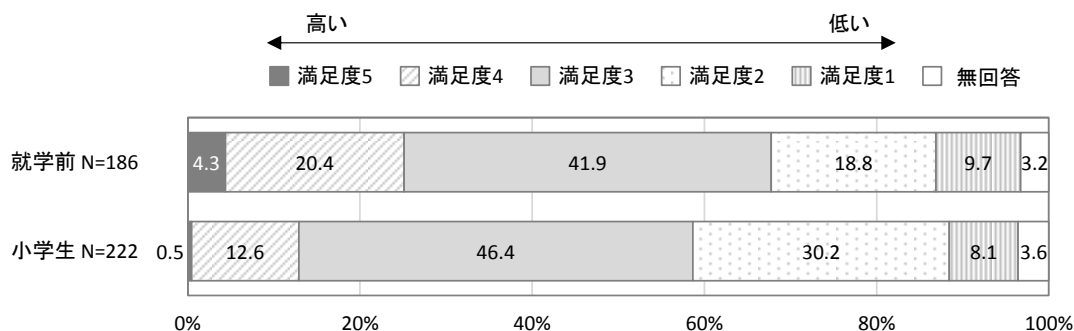


(4) 子育ての環境や支援の満足度

【就学前・小学生】

町の子育ての環境や支援の満足度について、「満足度3」の割合が最も高く、就学前児童で41.9%、小学生児童で46.4%となっています。比較的満足度の高い「満足度4～5」の割合は、就学前児童で24.7%、小学生児童で13.1%、一方、比較的満足度の低い「満足度1～2」の割合は、就学前児童で28.5%、小学生児童で38.3%となっており、就学前児童の方が満足度は高く、小学生児童の方が満足度は低くなっています。

■子育ての環境や支援の満足度



(5) 子育てに関して町に期待すること

【就学前・小学生】

子育てに関して町に期待することは、「保育サービスの費用負担軽減や児童手当など、子育てのための経済的支援」「学童保育所のほかの、放課後の子どもの居場所づくり」「安心して子どもが医療機関にかかれる医療体制の整備」「仕事と子育ての両立しやすい環境づくりについて企業への啓発」が、就学前児童、小学生児童ともに上位にあがっています。

多くの項目で、就学前児童の方が小学生児童の割合を上回っていますが、特に「安心して子どもが医療機関にかかれる医療体制の整備」「仕事と子育ての両立しやすい環境づくりについて企業への啓発」「子育てに関する相談や保護者同士が交流できる場を増やす」については、就学前児童の割合が小学生児童の割合よりも5%以上高くなっています。

■子育てに関して町に期待すること(複数回答)

